

10.10 動物

調査区域には動物の重要な種及び注目すべき生息地が存在し、土地または工作物の存在及び供用として道路（地表式、嵩上式、地下式）の存在に係る影響、工事の実施として工事施工ヤードの設置に係る影響、工事用道路等の設置に係る影響、建設機械の稼働に係る影響が考えられるため、動物の調査、予測及び評価を行いました。

10.10.1 道路（地表式、嵩上式、地下式）の存在、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置に係る動物

1) 調査結果の概要

(1) 調査した情報

調査した情報は以下のとおりです。

- a) 動物相の状況
- b) 重要な種等の状況
 - ・重要な種等の生態及び分布の状況
 - ・重要な種等の生息の状況
 - ・重要な種等の生息環境の状況

(2) 調査の手法

a) 動物相の状況

(a) 既存資料調査

動物相の状況の既存資料調査は、一般公開されている調査区域に生息記録のある最新年次の調査資料等の収集により整理しました。

(b) 現地調査

動物相の状況の現地調査の調査手法を表 10.10-1 に示します。調査地点及び踏査ルートを公表することにより、重要種が確認された地点がより限定され、採集により種の減少が懸念されるため、調査地点図及び踏査ルート図は非公表とします。

表 10.10-1(1) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
哺乳類	直接観察及びフィールドサイン法 (全域)	哺乳類は、調査範囲を踏査し、タヌキやイタチ等の小～中型哺乳類を主な対象として、フィールドサイン（糞、足跡、食跡、巣等）を確認した。フィールドサインを確認した場合は、写真撮影を行うとともにその位置を記録し、フィールドサインの種類やそれを残したと推定される種を記録した。目視観察により、直接、生息種を確認した場合についても同様に記録した。
	自動撮影装置の設置 (6 地点)	無人撮影法を用いて夜行性の中型・大型哺乳類を確認した。無人撮影装置は、獣道や水場等、哺乳類が移動や生活に利用していると推測される環境に設置した。無人撮影装置の設置箇所は、調査範囲内に6地点とした。1地点に2台を異なる環境に設置し、設置期間は1晩以上とした。
	トラップによるモグラ類及びネズミ類の捕獲 (6 地点)	シャーマン型トラップを使用して、小型哺乳類（ネズミ類）を生け捕りにした。1地点あたり30個設置し、スギ林や照葉樹林、灌木林等の環境ごとに10個ずつ設置した。設置期間は1晩設置、翌日回収を基本とした。餌には生ピーナッツ等を用いた。小型哺乳類が捕獲されていた場合は種を同定して放獣した。トラップ設置箇所は、調査範囲内に6地点とした。
	夜間調査及びバットディテクターによるコウモリ類の生息状況把握 (全域)	バットディテクター(コウモリ類がエコーロケーションを行う際に発する超音波を可聴音に変換する装置)により生息状況を確認した。夜間に餌となる昆虫類が集まる街灯周辺や川沿い等で調査した。コウモリ類が確認された場合は、確認位置及び声の周波数帯を記録した。
鳥類 (一般鳥類)	ラインセンサス法 (6 ルート)	設定された調査ルートをゆっくり歩き、目視もしくは双眼鏡 (8～10倍程度) により両側に出現した鳥類を姿や鳴き声で識別し、種類、個体数、活動内容を記録した。ルートは環境の異なる6ルートを設定した。
	定点観察法 (6 地点)	早朝に定点に30分とどまり、目視及び鳴き声により半径50m程度の範囲に出現した鳥類を姿や鳴き声により識別し、その種類、個体数、確認箇所の環境等を記録した。調査地点は6地点設定した。
	直接観察 (全域)	ラインセンサス法、定点観察法を実施していない時間帯に、調査地域内の様々な環境を網羅するように踏査し、鳥類を姿や鳴き声により確認した。
	フクロウ類を対象とする夜間調査 (全域)	夜間調査を実施し、目視や鳴き声によりフクロウ類（フクロウ、アオバズク）を確認した。姿や鳴き声で識別し、種類、個体数、活動内容を記録した。
鳥類 (猛禽類)	生息確認調査・行動圏調査	事業実施想定区域周辺における行動圏の把握を目的として定点観察調査を実施した。定点観察では、調査定点にそれぞれ1人の調査員を配置し、双眼鏡 (8～10倍) やフィールドスコープ (20～60倍) 等を使用して調査対象の猛禽類の確認を行った。
	営巣場所調査	新規営巣箇所の有無、営巣箇所の移動（巣替わり）の有無を確認することを目的として、移動定点観察及び林内踏査を実施した。対象猛禽類の繁殖行動や林内への出入りを移動定点観察で把握して営巣兆候箇所を絞り込み、林内踏査を行い、新規営巣地や既往巣からの移動状況の確認を行った。
	繁殖状況調査	既往営巣地での繁殖の有無・成否、巣立ち雛数などの確認を目的に、無人撮影ビデオカメラ及び林内踏査を実施した。

表 10.10-1 (2) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
鳥類 (フクロウ)	夜間調査	日没頃～夜間～夜明けに、過年度の猛禽類調査中にフクロウの鳴き声を確認した地点の周辺、大径木がありそうな場所（天然林、神社仏閣等の寺社林、鎮守の森など）、餌場となる昆虫類が集まる外灯周辺等で観察を行った。鳴き声や目撃でフクロウを確認した場合には、個体数、行動、時刻、位置等を記録した。調査道具としては、約7～10倍の双眼鏡、懐中電灯（サーチライト）を用いて行った。また、鳴き声の確認の状況によっては、鳴き返し（コールバック：録音しておいた対象種の鳴き声を大音量で流す）による手法を行い、反応する個体の有無を確認した。
	林内踏査	日中には、夜間調査時に雌や幼鳥の鳴き声を確認した範囲を踏査して巣の有無を確認した。踏査では大径木を探し、樹洞や巣の下の糞等の痕跡の有無に留意した。フクロウの巣を確認した場合には、営巣木や巣に関する事項、位置等を記録した。繁殖中である場合は、位置の記録を中心に行って短時間で巣から離れることとした。調査道具としては、約7～10倍の双眼鏡、GPS、望遠カメラ等を用いて行った。
鳥類 (ミゾゴイ)	囀り調査	日没前後及び日の出前後に、調査範囲内のミゾゴイ生息確認地点及び生息適地周辺において、ミゾゴイの囀りの有無を確認した。渡来時期のずれや囀る時間の個体差等を考慮し、1つの生息適地で複数回調査を行った。なお、囀りを確認した場合には、道路を移動することにより、可能な範囲で囀る場所を絞り込むとした。
両生類	直接観察もしくは捕獲（全域）	調査地域内の池、溜まり、湿地、側溝、水田等の環境を任意に踏査し、両生類の確認に努めた。目視確認及び捕獲した卵のう、幼生、幼体、成体及び死体等を識別し、確認場所の状況を含めて記録した。
爬虫類	直接観察もしくは捕獲（全域）	日中に潜む場所や日光浴をする場所、採餌場所等を任意に踏査し、爬虫類の確認に努めた。目視確認及び捕獲した幼体、成体及び死体等を識別し、確認場所の状況を含めて記録した。
昆虫類	直接観察及び採取（全域）	調査範囲を踏査しつつ、見つけ取り法、石起こし法、低木や草上等にいる昆虫類を網ですくうスウィーピング、樹木の葉や枝についている昆虫類を棒で叩き落とすビーティング等の方法を用いて採集した。捕獲が難しいチョウ類やトンボ類等は目視によっても種を確認した。採集した昆虫類は、持ち帰って同定を行った。
	ライトトラップ法、ボックス法（6地点）	夜間に蛍光灯やブラックライト等を点灯して、光に誘引された夜行性昆虫を灯火の下に置いた箱の中に落下させて採集した。なお、ボックス法により実施した。トラップは地点に1個を一晩設置、翌日回収とする。採集した昆虫類は、持ち帰って同定を行った。トラップ設置箇所は、調査範囲内に6地点とした。
	ベイトトラップ法（6地点）	誘引餌（さなぎ粉や乳酸飲料等）を入れたプラスチックのコップを、口が地表面と同じ高さになるように埋め、その中へ落ち込んだ昆虫類（地表徘徊性のコウチュウ類やアリ類など）を採集した。トラップは1地点あたり30個設置し、一晩設置、翌日回収とした。採集した昆虫類は、持ち帰って同定を行った。トラップ設置箇所は、調査範囲内に6地点とした。

表 10.10-1 (3) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
魚類	直接観察及び採取 (8 地点)	投網、タモ網を用いて魚類を採取した。調査地点は、計画路線が横断する河川に設定し、河川へのアクセスが可能な地点とした。なお、地点数は1河川に各1地点の計8地点とした。捕獲した魚類は、種の同定、体長等の計測及び写真撮影を実施した後、原則として調査地点において放流した。ただし、現地において同定が困難な種については一部を持ち帰り、種の同定を行った。
	トラップ等による 採取	セルビン、小型定置網を用いて魚類を捕獲した。捕獲した魚類は、種の同定、体長等の計測及び写真撮影を実施した後、原則として調査地点において放流した。ただし、現地において同定が困難な種については一部を持ち帰り、種の同定を行った。
底生動物	直接観察及び採取 (8 地点)	Dフレームネット（目合0.493mm(NGG38)）を用いて瀬、淵、ワンド、細流、水たまりなど、調査範囲に分布する生息環境を網羅するように様々な環境で底生動物を採取した。調査地点は、計画路線が横断する河川に設定し、河川へのアクセスが可能な地点とした。なお、地点数は1河川に各1地点の計8地点とした。採取した底生動物は、持ち帰って同定した。
	コドラート法 (4 地点)	河床に25cm四方のコドラートを設置、その下流にサーバーネットを設けてコドラート内に生息する全ての底生動物を採取した。採取は4箇所で行った。採取した底生動物は、持ち帰って同定した。
クモ類、 ヤスデ類、 陸産貝類	直接観察及び採取	調査範囲を踏査しつつ、任意採集した。採集したクモ類、ヤスデ類、陸産貝類は、持ち帰って同定を行った。

b) 重要な種等の状況

(a) 重要な種等の生態

重要な種等の生態については、図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

(b) 重要な種等の生態及び分布の状況、生息の状況及び生息環境の状況

重要な種等の生態及び分布の状況、生息の状況及び生息環境の状況については、選定根拠に該当する種について、動物相の調査と併せて行いました。重要な種等の選定根拠を表 10.10-2 に、重要な種等の選定基準を表 10.10-3 に示します。

表 10.10-2 重要な動物種の選定根拠

法令、文献等		選定根拠	
法令による指定	①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	・ 特別天然記念物
		「千葉県文化財保護条例」(昭和 30 年 3 月 29 日 条例第 8 号)	・ 国指定天然記念物
		「館山市文化財の保護に関する条例」(昭和 51 年 6 月 18 日)	・ 市指定天然記念物
		「南房総市文化財保護条例」(平成 18 年 3 月 20 日)	
		「鋸南町文化財の保護に関する条例」(昭和 51 年 3 月 4 日)	
		「富津市文化財の保護に関する条例」(昭和 46 年 4 月 25 日)	
	②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)	・ 国内希少野生動植物種 ・ 国際希少野生動植物種 ・ 特定国内希少野生動植物種 ・ 緊急指定種
文献による指定	③	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年 3 月 27 日 環境省報道発表資料)	・ 絶滅 (EX)
			・ 野生絶滅 (EW)
			・ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
			・ 絶滅危惧 I A 類 (CR)
			・ 絶滅危惧 I B 類 (EN)
			・ 絶滅危惧 II 類 (VU)
			・ 準絶滅危惧 (NT)
			・ 情報不足 (DD)
	④	「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編 (2019 年改訂版)」(平成 31 年 3 月 千葉県環境生活部自然保護課)	・ 地域個体群 (LP)
			・ 消息不明・絶滅生物 (X)
			・ 野生絶滅 (EW)
			・ 最重要保護生物 (A)
			・ 重要保護生物 (B)
			・ 要保護生物 (C)
			・ 一般保護生物 (D)
			・ 情報不足 (不足)

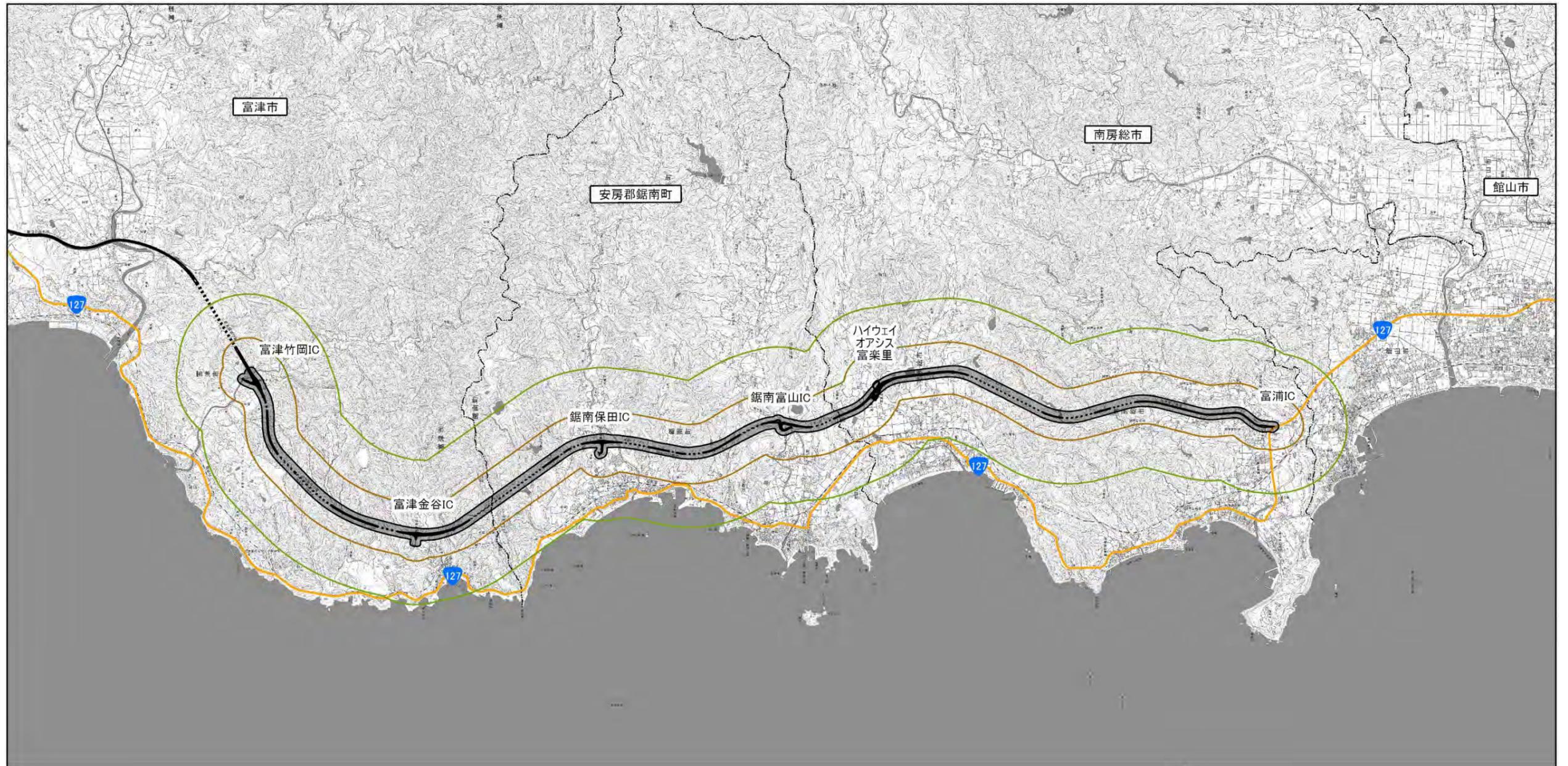
表 10.10-3 重要な動物種の選定基準

区 分		選 定 基 準	
①	特別天然記念物	国指定天然記念物のうち特に重要な記念物。	
	国指定天然記念物	国指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、我が国にとって学術上価値の高いもの。	
	県指定天然記念物	県指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、県にとって学術上価値の高いもの。	
	市指定天然記念物	市指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、市にとって学術上価値の高いもの。	
②	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの。	
	国内希少野生動植物種	その個体が本邦に生息または生育する絶滅のおそれのある野生動物の種であって、政令で定めるもの。	
	特定国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。	
		一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること。 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。	
緊急指定種	環境大臣が、国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定する種。		
③	絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。	
	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種。	
	絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。
		絶滅危惧 IA 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧 IB 類 (EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
		絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種。
	準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種。	
	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	
地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。		
④	消息不明・絶滅生物 (X)	かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期（およそ 50 年間）にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性が強い生物。	
	野生絶滅 (EW)	かつては千葉県に生息・生育していた生物の種類が、野生・自生では見られなくなったにもかかわらず、かつて千葉県に野生していた個体群の子孫が、飼育・栽培などによって、維持されているもの。特に埋土種子や埋土胞子などから再生した個体がありながら、本来の自生地では環境の変化によって生息・生育が維持できない状態の種。	
	最重要保護生物 (A)	個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境変化の危機にある、などの状況にある生物。	
	重要保護生物 (B)	個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどが環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。	
	要保護生物 (C)	個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリーBに移行することが予測されるもの。	
	一般保護生物 (D)	個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、近い将来カテゴリーCに移行することが予測されるもの。	
	情報不足 (不足)	個体数や生息環境などのランクを判定する情報が十分には得られていないもの、及び歴史的もしくは分類学的な情報の不足により保護すべき種であるかあきらかでないもの。	

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、対象事業実施区域端部から概ね 250m の範囲を目安とし、動物の特性に応じて適宜拡大しました。

調査地点及び調査経路は、調査対象動物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生息する動物を効率よく把握できる経路及び場所を設定しました。調査地域を図 10.10.1-1 に示します。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 既存自動車専用道路
- 既存自動車専用道路（トンネル部）
- 市町界
- 動物調査範囲（猛禽類・フクロウ・ミゾゴイ以外）
- 鳥類（猛禽類、フクロウ、ミゾゴイ）調査範囲

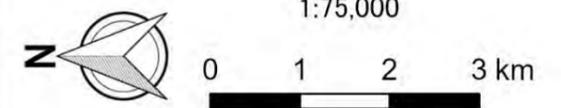


図 10.10.1-1
動物調査範囲

(4) 調査期間等

調査時期は、春夏秋冬の4季を基本とし、生息する動物を効率よく確認できる時期としました。各項目の調査時期を表 10.10-4 に示します。

表 10.10-4(1) 動物類の調査時期一覧

調査項目	調査方法	調査期間
哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察及びフィールドサイン法 ・自動撮影装置の設置 ・トラップによるモグラ類及びネズミ類の捕獲 ・バットディテクターによるコウモリ類の生息状況把握 	夏季 : 令和4年7月25日～27日, 8月15日～18日 秋季 : 令和4年10月3日～4日, 11日～15日 冬季 : 令和5年1月30日～2月4日, 9日～10日 春季 : 令和5年4月17日～21日, 5月8日～9日
鳥類 (一般鳥類)	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察 ・ラインセンサス法 ・定点観察法 ・夜間調査(フクロウ類) 	初夏 : 令和4年6月7日～8日, 25日, 28日～29日 秋季 : 令和4年10月3日～5日, 11日～14日 冬季 : 令和5年1月30日～2月4日, 13日～14日 春季 : 令和5年4月17日～21日, 26日～27日
鳥類 (猛禽類)	<ul style="list-style-type: none"> ・生息確認調査、行動圏調査 	【令和3年調査】 : 令和3年4月7日～10日, 26日～28日 : 令和3年5月13日～17日 : 令和3年6月14日～18日, 22日～24日 : 令和3年7月1日～9日, 12日～14日 : 令和3年8月23日～25日 【令和4年調査】 : 令和4年2月23日～24日 : 令和4年3月10日～11日, 22日～23日 : 令和4年4月12日～15日, 26日～29日 : 令和4年5月7日～10日, 12日～13日, 21日～24日 : 令和4年6月9日～10日, 26日～29日 : 令和4年7月5日～8日, 11日～12日, 14日～15日 : 令和4年8月3日～4日, 26日～29日 【令和5年調査】 : 令和5年2月14日～15日, 21日～22日 : 令和5年3月9日～10日, 13日～14日, 27日～28日 : 令和5年4月3日～4日, 10日～11日, 13日～14日 : 令和5年5月8日～12日, 15日～16日, 25日～26日 : 令和5年6月15日～16日, 19日～20日, 22日～23日, 29日～30日 : 令和5年7月3日～4日, 6日～7日, 12日～14日, 24日～25日

表 10.10-4(2) 動物類の調査時期一覧

調査項目	調査方法	調査期間
鳥類 (猛禽類)	・ 営巣調査	【令和4年調査】 : 令和4年2月21日～25日 : 令和4年3月10日～11日, 24日～25日, 28日～29日 : 令和4年6月7日～9日, 14日～15日 : 令和4年7月21日～22日, 28日～29日 : 令和4年8月3日～4日, 22日～23日, 29日～30日 【令和5年調査】 : 令和5年2月16日～17日, 21日～22日, 27日～28日 : 令和5年3月15日～16日, 27日～28日 : 令和5年5月22日, 24日 : 令和5年6月5日～6日, 22日～23日, 28日～29日 : 令和5年7月24日～25日, 26日～28日 : 令和5年8月3日～4日, 21日～22日, 28日～29日
	・ 繁殖状況調査	【令和4年調査】 : 令和4年5月13日～14日 : 令和4年6月2日～3日, 7日～8日, 20日～21日, 30日 : 令和4年7月1日, 4日～5日, 10日～11日 【令和5年調査】 : 令和5年5月17日～18日, 25日～26日, 29日～30日 : 令和5年6月1日～2日, 13日～14日, 7日～8日, 30日 : 令和5年7月3日～4日, 11日～12日
鳥類 (フクロウ)	・ 夜間調査 ・ 林内踏査	: 令和5年4月1日～5日, 10日 : 令和5年4月30日～5月3日, 8日～9日
鳥類 (ミゾゴイ)	・ 囀り調査	: 令和5年4月30日～5月3日, 8日～9日 : 令和5年5月24日～26日, 30日～31日 : 令和5年7月26日～27日
爬虫類	・ 直接観察	夏季 : 令和4年7月25日～27日, 8月15日～18日, 23日～24日 初秋季 : 令和4年9月12日～15日 秋季 : 令和4年10月3日～4日, 11日～15日 春季 : 令和5年4月17日～21日, 5月8日～9日
両生類	・ 直接観察	夏季 : 令和4年8月15日～18日, 23日～24日, 25日～27日 秋季 : 令和4年10月3日～4日, 11日～14日 早春季 : 令和5年3月6日～9日 春季 : 令和5年4月17日～21日, 5月8日～9日
昆虫類	・ 直接観察及び採取 ・ ライトトラップ法 (ボックス法) ・ ベイトトラップ法	初夏 : 令和4年6月7日～8日, 27日～28日, 29日～30日 夏季 : 令和4年7月22日～24日, 8月3日～4日, 10日～12日, 15日～16日 秋季 : 令和4年9月21日～23日, 10月11日～12日 春季 : 令和5年4月17日～22日
クモ類	・ 直接観察及び採取	夏季 : 令和4年7月22日～23日, 25日～27日, 8月3日～4日, 10日～12日 秋季 : 令和4年9月21日～23日, 10月4日～5日, 11日～12日 春季 : 令和5年4月17日～22日, 24日～25日

表 10.10-4(3) 動物類の調査時期一覧

調査項目	調査方法	調査期間
ヤスデ類	・直接観察及び採取	夏季 : 令和4年7月22日～23日, 25日～27日, 8月15日～17日 秋季 : 令和4年9月21日～23日, 10月4日～5日, 24日～26日 春季 : 令和5年4月17日～22日, 24日～25日
陸産貝類	・直接観察及び採取	夏季 : 令和4年7月22日～23日, 25日～27日, 8月15日～17日 秋季 : 令和4年9月21日～23日, 10月4日～5日, 24日～26日 春季 : 令和5年4月17日～22日, 24日～25日
魚類	・直接観察及び採取 ・トラップ等による採取	夏季 : 令和4年7月28日～29日, 8月16日～18日 秋季 : 令和4年10月6日～7日, 11日～13日 早春季 : 令和5年2月27日～28日, 3月9日～11日 春季 : 令和5年4月20日～21日, 5月10日～12日
底生動物	・直接観察及び採取 ・コドラート法	夏季 : 令和4年7月28日, 8月16日～18日 秋季 : 令和4年10月6日, 11日～13日 早春季 : 令和5年2月27日～28日, 3月9日～11日 春季 : 令和5年4月20日～21日, 5月10日～12日

(5) 調査結果

a) 動物相の状況、重要な種等の状況

現地調査結果の概要を表 10.10-5 に示します。なお、既存資料調査結果の概要は、「第 4 章 4.1.5 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況 1)動物の状況 (1)動物相の状況」に示します。

表 10.10-5 現地調査結果の概要

調査項目		確認種数	主な確認種
哺乳類		7目13科23種	ヒミズ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ヒメネズミ、カヤネズミ、キツネ、ホンドテン、アナグマ など
鳥類	一般鳥類	16目37科79種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ など
	猛禽類	3目4科10種	ミサゴ、ハイタカ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
爬虫類		2目7科12種	ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
両生類		2目7科13種	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
昆虫類		22目251科1,449種	アヤトビムシ科、イシノミ科、フタスジモンカゲロウ、ホソミオツネトンボ、オオアオイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、ムスジイトトンボ、ハグロトンボ、ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ、ギンヤンマ、コシボソヤンマ、カトリヤンマ など
クモ類		1目33科179種	ジグモ、キノボリトタテグモ、タイリクユウレイグモ、ミヤグモ、ナルトミダニグモ、センショウグモ、ハラビロセンショウグモ、オオセンショウグモ、ヒラタグモ など
ヤスデ類		13目24科47種	ゲジ、オオゲジ、ニホンメナシムカデ、スジメナシムカデ、ケアカムカデ、カチベニジムカデ、ヤマトタマヤスデ、クロヒメヤスデ、アカヒラタヤスデ、タマモヒラタヤスデ、ヒメヨロイヤスデ、タカクワヤスデ など
陸産貝類		4目17科42種	ゴマオカタニシ、ヤマトゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ヤマタニシ、ムシオイガイ、ニホンケシガイ、サカマキガイ、タワラガイ、ヒメベッコウガイ など
魚類		7目11科28種	ニホンウナギ、ギンブナ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、ヌマチチブ など
底生動物		24目85科176種	ナミウズムシ、アメリカツノウズムシ、サンカクアタマウズムシ科、ミミズヒモムシ属、イシマキガイ、カワニナ、コモチカワツボ、オシダカヒメモノアラガイ など

(a) 哺乳類

ア) 哺乳類の生息状況

現地調査において7目13科23種の哺乳類を確認しました。

現地調査結果の概要を表10.10-6に示します。

表 10.10-6 哺乳類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
夏季	7目12科20種	アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、アカネズミ、ヒメネズミ、アライグマ、タヌキ、キツネ、ホンドテン、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、キョン など
秋季	7目12科19種	ヒミズ、アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、アカネズミ、ハツカネズミ、アライグマ、タヌキ、ホンドテン、ニホンイタチ、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、キョン など
冬季	7目12科22種	アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、アライグマ、タヌキ、ホンドテン、ニホンイタチ、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、キョン など
春季	7目12科21種	アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、カヤネズミ、アライグマ、タヌキ、ホンドテン、ニホンイタチ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、キョン など
合計	7目13科23種	-

イ) 重要な哺乳類

現地調査により確認された重要な哺乳類は5目8科11種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な哺乳類とその選定理由を表 10.10-7 に示します。

表 10.10-7 重要な哺乳類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
モグラ	トガリネズミ	ジネズミ		●	—	—	—	D
	モグラ	ヒミズ	●	●	—	—	—	D
コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	●	●	—	—	—	C
		キクガシラコウモリ	●	●	—	—	—	C
	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	●	●	—	—	—	B
		ユビナガコウモリ		●	—	—	—	D
サル	オナガザル	ニホンザル	●	●	—	—	LP B	
ネズミ	リス	ニホンリス	●	●	—	—	—	C
	ネズミ	ヒメネズミ	●	●	—	—	—	D
		カヤネズミ	●	●	—	—	—	D
ネコ	イヌ	キツネ	●	●	—	—	—	B
	イタチ	ホンドテン	●	●	—	—	—	D
		アナグマ	●	●	—	—	—	C
5目	9科	13種	11種	13種	0種	0種	1種	13種

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(b) 鳥類

ア) 鳥類の生息状況

ア. 一般鳥類調査

調査地域内の一般鳥類の現地調査において 16 目 37 科 79 種の鳥類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-8 に示します。

表 10.10-8 一般鳥類調査の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
初夏	14目29科46種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、ホトトギス、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など
秋季	12目28科45種	コジュケイ、ヤマドリ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、アオサギ、ダイサギ、アマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、サシバ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ など
冬季	12目28科56種	コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など
春季	15目32科54種	コジュケイ、キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、イソシギ、トビ、サシバ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など
合計	16目37科79種	-

イ. 猛禽類調査

猛禽類の現地調査において3目4科10種のタカ、フクロウ類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-9 に示します。

表 10.10-9 猛禽類調査の現地調査結果の概要

調査時期	確認地域	確認種数	確認種
令和3年	南房総市	4科8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
	鋸南町	3科6種	ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ
	富津市	3科7種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ
令和4年	南房総市	4科8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
	鋸南町	4科9種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
	富津市	4科9種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
令和5年	南房総市	4科10種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
	鋸南町	4科9種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
	富津市	4科9種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ
合計		4科10種	-

イ) 重要な鳥類

ア. 一般鳥類調査における重要な鳥類

一般鳥類の現地調査により確認された重要な鳥類は 12 目 25 科 38 種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な鳥類とその選定理由を表 10.10-10 に示します。

表 10.10-10(1) 重要な鳥類 (一般鳥類調査)

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
キジ	キジ	ウズラ		●	—	—	VU	A
		ヤマドリ	●	●	—	—	—	C
カモ	カモ	コクガン		●	国天	—	VU	B
		オカヨシガモ		●	—	—	—	C
		ヨシガモ		●	—	—	—	B
		スズガモ		●	—	—	—	D
		シノリガモ		●	—	—	—	D
		ウミアイサ		●	—	—	—	D
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●	●	—	—	—	C
		カンムリカイツブリ		●	—	—	—	D
ハト	ハト	カラスバト		●	国天	—	NT	X
		アオバト		●	—	—	—	B
カツオドリ	ウ	ウミウ		●	—	—	—	B
ペリカン	サギ	ミゾゴイ	●		—	—	VU	A
		ダイサギ	●	●	—	—	—	D
		チュウサギ	●	●	—	—	NT	B
		コサギ	●	●	—	—	—	B
		クロサギ		●	—	—	—	C
ツル	ツル	マナヅル		●	—	—	VU	B
	クイナ	ヒクイナ	●		—	—	NT	A
		バン	●	●	—	—	—	B
		オオバン	●	●	—	—	—	C
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	●	●	—	—	—	C
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	●	●	—	—	—	A
		ヒメアマツバメ	●	●	—	—	—	C
チドリ	チドリ	ムナグロ		●	—	—	—	B
		ダイゼン		●	—	—	—	A
		イカルチドリ	●		—	—	—	C
		コチドリ	●	●	—	—	—	B
		シロチドリ		●	—	—	VU	A
		メダイチドリ		●	—	—	—	C

表 10.10-10(2) 重要な鳥類（一般鳥類調査）

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
チドリ	シギ	アオシギ		●	—	—	—	X	
		オオジシギ		●	—	—	NT	A	
		オオソリハシシギ		●	—	—	VU	C	
		チュウシャクシギ		●	—	—	—	C	
		ホウロクシギ		●	—	—	VU	A	
		アオアシシギ		●	—	—	—	B	
		クサシギ	●	●	—	—	—	C	
		タカブシギ		●	—	—	VU	B	
		キアシシギ		●	—	—	—	C	
		ソリハシシギ		●	—	—	—	C	
		イソシギ	●	●	—	—	—	A	
		キョウジョシギ		●	—	—	—	C	
		オバシギ		●	—	—	—	C	
		ミユビシギ		●	—	—	—	D	
		トウネン		●	—	—	—	D	
		ハマシギ		●	—	—	NT	B	
	キリアイ		●	—	—	—	B		
	カモメ	オオセグロカモメ			●	—	—	NT	—
		コアジサシ			●	—	—	VU	A
	ウミスズメ	ケイマフリ			●	—	—	VU	A
ウミスズメ				●	—	—	CR	B	
カンムリウミスズメ				●	国天	—	VU	A	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	●		—	—	NT	B	
	タカ	オジロワシ		●	国天	国内	VU	B	
		オオワシ		●	国天	国内	VU	B	
		ハイタカ	●		—	—	NT	B	
		オオタカ	●		—	—	NT	C	
		サシバ	●	●	—	—	VU	A	
		ノスリ	●		—	—	—	C	
フクロウ	フクロウ	フクロウ	●		—	—	—	B	
		アオバズク		●	—	—	—	A	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	●	—	—	—	C	
キツツキ	キツツキ	アカゲラ		●	—	—	—	C	
		アオゲラ		●	—	—	—	C	
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	●	●	—	国内	VU	A	
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		●	—	—	VU	X	
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	●	●	—	—	—	A	
	カラス	カケス	●	●	—	—	—	D	
	ヒバリ	ヒバリ	●	●	—	—	—	D	
	ツバメ	コシアカツバメ		●	●	—	—	—	B
		イワツバメ			●	—	—	—	D

表 10.10-10(3) 重要な鳥類（一般鳥類調査）

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
スズメ	ウグイス	ヤブサメ	●	●	—	—	—	C	
	ムシクイ	センダイムシクイ	●	●	—	—	—	C	
	ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●	—	—	—	D	
	セッカ	セッカ		●	—	—	—	D	
	ミソサザイ	ミソサザイ	●	●	—	—	—	C	
	ヒタキ	トラツグミ			●	—	—	—	A
		アカコッコ			●	国天	国内	EN	A
		キビタキ	●	●	●	—	—	—	A
		オオルリ	●	●	●	—	—	—	B
	セキレイ	キセキレイ	●	●	●	—	—	—	B
	アトリ	イカル	●	●	●	—	—	—	D
	ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	—	—	—	C
		ホオアカ			●	—	—	—	C
		クロジ	●	●	●	—	—	—	D
		コジュリン			●	—	—	VU	A
		オオジュリン			●	—	—	—	D
16目	34科	88種	38種	80種	6種	4種	28種	87種	

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（2022年11月7日公開版）に準拠した。

注）各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年5月30日 法律第214号）
 特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日 法律第75号）
 国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日 環境省報道発表資料）
 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） 絶滅危惧ⅠA類（CR） 絶滅危惧ⅠB類（EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 地域個体群（LP）
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」（平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課）
 最重要保護生物（A） 重要保護生物（B） 最重要・重要保護生物（A-B） 要保護生物（C） 一般保護生物（D） 情報不足（不足）

イ. 猛禽類調査における重要な猛禽類

猛禽類の現地調査により確認された重要な猛禽類は3目4科9種でした。

現地調査及び既存資料調査で確認された重要な猛禽類とその選定理由を表 10.10-11 に、調査地域内で繁殖が確認されたオオタカ、サシバについて、つがい別の巣と事業実施区域の位置関係及び繁殖の状況等を表 10.10-12～表 10.10-14 に示します。

表 10.10-11 重要な鳥類（猛禽類調査）

目名	科名	種名	重要種基準				確認状況								
			①	②	③	④	R3			R4			R5		
							南房総市	鋸南町	富津市	南房総市	鋸南町	富津市	南房総市	鋸南町	富津市
タカ	ミサゴ	ミサゴ	—	—	NT	B	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	タカ	ハチクマ	—	—	NT	B	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ツミ	—	—	—	D	●		●	●	●	●	●	●	●
		ハイタカ	—	—	NT	B				●	●	●	●	●	●
		オオタカ	—	—	NT	C	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		サシバ	—	—	VU	A	●	●	●	●	●		●	●	●
		ノスリ	—	—	—	C	●	●	●	●	●		●	●	●
フクロウ	フクロウ	—	—	—	B	●			●	●		●	●	●	
ハヤブサ	ハヤブサ	—	国内	VU	A	●	●	●	●	●		●	●	●	
3目	4科	9種	0種	1種	6種	9種	8	6	7	8	9	5	9	9	9

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（2022年11月7日公開版）に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年5月30日 法律第214号）
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日 法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日 環境省報道発表資料）
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） 絶滅危惧ⅠA類（CR） 絶滅危惧ⅠB類（EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 地域個体群（LP）
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」（平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課）
最重要保護生物（A） 重要保護生物（B） 最重要・重要保護生物（A-B） 要保護生物（C） 一般保護生物（D） 情報不足（不足）

表 10.10-12 調査地域内における猛禽類の繁殖等の状況（南房総市地区）

地区	種名	事業実施区域との最短間隔	各年の繁殖状況		
			R3	R4	R5
南房総市	オオタカ	300m 以内	繁殖失敗	繁殖なし	-
	サシバ	0m	繁殖成功	繁殖成功	繁殖成功
		500m 以上	繁殖成功	繁殖成功	-
		0m	繁殖成功	繁殖成功	-
		200m 以上 500m 以内	繁殖成功	繁殖成功	-
		200m 以内	繁殖成功	繁殖成功	-
		500m 以上	-	繁殖成功	繁殖成功
		500m 以上	-	繁殖成功	-
		500m 以上	-	-	兆候あり
		500m 以上	-	-	繁殖成功
		0m	-	-	繁殖成功
		500m 以上	-	-	繁殖成功
		200m 以内	-	-	兆候なし
		500m 以上	兆候あり	兆候なし	兆候なし
		500m 以上	-	-	繁殖成功
		ハチクマ	300m 以上 1km 以内	-	兆候あり
	0m		兆候なし (サシバの兆候あり)	兆候あり	兆候なし

表 10.10-13 調査地域内における猛禽類の繁殖等の状況（鋸南町地区）

地区	種名	事業実施区域との最短間隔 (m)	各年の繁殖状況			
			R3	R4	R5	
鋸南町	オオタカ	300m 以上 1km 以内	-	繁殖成否不明	繁殖失敗	
	サシバ	0m	繁殖成功	-	-	
		0m	-	繁殖成功	-	
		0m	-	-	繁殖成功	
		0m	繁殖成功	-	-	
		0m	-	繁殖成功	繁殖成功	
		0m	-	繁殖成功	途中失敗	
		500m 以上	-	繁殖成功	繁殖継続中	
		500m 以上	-	繁殖成功	-	
		200m 以上 500m 以内	-	-	繁殖成功	
		500m 以上	兆候のみ	-	-	
		500m 以上	兆候のみ	-	-	
		200m 以内	-	-	繁殖成功	
		500m 以上	-	兆候のみ	-	
		ハチクマ	300m 以上 1km 以内	-	-	繁殖成否不明
			300m 以上 1km 以内	-	兆候のみ	-

表 10.10-14 調査地域内における猛禽類の繁殖等の状況（富津市地区）

地区	種名	事業実施区域との最短間隔 (m)	各年の繁殖状況		
			R3	R4	R5
富津市	オオタカ	300m 以上 1km 以内	-	-	繁殖成功
	サンバ	500m 以上	繁殖成功	繁殖成功	繁殖なし
		500m 以上	-	-	繁殖成功
		200m 以上 500m 以内	繁殖成功	落巢	-
		0m	繁殖成功	繁殖成功	落巢
		200m 以上 500m 以内	-	-	繁殖成功
		200m 以上 500m 以内	-	繁殖成功	繁殖失敗
		500m 以上	-	繁殖成功	繁殖なし
		500m 以上	-	-	繁殖成功
		200m 以内	-	-	繁殖失敗
		200m 以上 500m 以内	-	-	繁殖成功
		ハヤブサ	300m 以内	-	成否不明
	ハチクマ	0m	-	兆候あり	-

(c) 爬虫類

ア) 爬虫類の生息状況

現地調査において2目7科12種の爬虫類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-15 に示します。

表 10.10-15 爬虫類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
早春季	2目3科3種	ミシシッピアカミミガメ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ
春季	2目5科9種	ミシシッピアカミミガメ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
夏季	2目7科12種	ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
秋季	2目7科11種	クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
合計	2目7科12種	-

イ) 重要な爬虫類

現地調査により確認された重要な爬虫類は2目6科10種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な爬虫類とその選定理由を表 10.10-16 に示します。

表 10.10-16 重要な爬虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	●	●	—	—	NT	A	
有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	●	●	—	—	—	D	
	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	●	●	—	—	—	B	
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	—	—	—	D	
	ナミヘビ	シマヘビ		●	●	—	—	—	C
		アオダイショウ		●	●	—	—	—	D
		ジムグリ		●	●	—	—	—	B
		シロマダラ			●	—	—	—	B
		ヒバカリ		●	●	—	—	—	D
		ヤマカガシ		●	●	—	—	—	D
	クサリヘビ	ニホンマムシ	●	●	—	—	—	B	
2目	6科	11種	10種	11種	0種	0種	1種	11種	

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(d) 両生類

ア) 両生類の生息状況

現地調査において2目7科13種の両生類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-17 に示します。

表 10.10-17 両生類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
夏季	2目7科12種	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル
秋季	2目6科9種	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル
早春季	2目6科9種	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル
春季	2目7科12種	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
合計	2目7科13種	-

イ) 重要な両生類

現地調査により確認された重要な両生類は2目5科10種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な両生類とその選定理由を表 10.10-18 に示します。

表 10.10-18 重要な両生類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	●	●	—	特二	VU	A	
	イモリ	アカハライモリ	●	●	—	—	NT	A	
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	—	—	—	C	
		アカガエル	タゴガエル	●	●	—	—	—	B
			ニホンアカガエル	●	●	—	—	—	A
			ヤマアカガエル	●	●	—	—	—	C
			トウキョウダルマガエル		●	—	—	NT	B
		ツチガエル	●	●	—	—	—	A	
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●	●	—	—	—	D	
		モリアオガエル	●	●	—	—	—	C	
		カジカガエル	●	●	—	—	—	B	
2目	5科	11種	10種	11種	0種	1種	3種	11種	

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(e) 昆虫類

ア) 昆虫類の生息状況

現地調査においては22目251科1,449種の昆虫類を確認しました。

現地調査結果の概要を表10.10-19に示します。

表 10.10-19 昆虫類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
初夏	11目134科677種	ホソミオツネイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、ムスジイトトンボ、ハグロトンボ、ニホンカワトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、モリチャバネゴキブリ、ツチゴキブリ本土亜種、ウスヒラタゴキブリ本土亜種、ヒメクロゴキブリ、ハラビロカマキリ、オオカマキリ など
夏季	14目162科613種	オオアオイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、カトリヤンマ、ヤブヤンマ、タイワンウチワヤンマ、オニヤンマ、オオヤマトンボ、ショウジョウトンボ、コフキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、モリチャバネゴキブリ、ツチゴキブリ本土亜種、ウスヒラタゴキブリ本土亜種、ヒナカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、オオカマキリ、ヒゲジロハサミムシ、ヤマトシロアリ、セスジツユムシ、サトクダマキモドキ など
秋季	9目90科567種	フタスジモンカゲロウ、オオアオイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、コシボソヤンマ、ミルンヤンマ、ヤブヤンマ、ヤマサナエ、オニヤンマ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、モリチャバネゴキブリ、ツチゴキブリ本土亜種、ウスヒラタゴキブリ本土亜種、ヒナカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ など
春季	7目97科585種	ホソミオツネイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、アサヒナカワトンボ、ギンヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、ヤマトゴキブリ、モリチャバネゴキブリ、ツチゴキブリ本土亜種、ウスヒラタゴキブリ本土亜種、ハラビロカマキリ、ヒゲジロハサミムシ、ハマベハサミムシ、コバネハサミムシ、エゾハサミムシ、ヤマトシロアリ、ハネナシコロギス、マダラカマドウマ、クビキリギス、ケラ、クチキコロギ、ヒナバッタ、ツチイナゴ、オンブバッタ、トゲヒシバッタ、ハネナガヒシバッタ、コバネヒシバッタ、ハラヒシバッタ、ヤセヒシバッタ、ナミキガシラヒシウンカ など
合計	22目251科1,449種	-

イ) 重要な昆虫類

現地調査により確認された重要な昆虫類は 11 目 36 科 53 種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な昆虫類とその選定理由を表 10.10-20 に示します。

表 10.10-20(1) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
トンボ	アオイトトンボ	アオイトトンボ		●	—	—	—	C	
		オツネトンボ		●	—	—	—	A	
	イトトンボ	ホソミイトトンボ			●	—	—	—	B
		キイトトンボ			●	—	—	—	C
		ベニイトトンボ			●	—	—	NT	A
		モートンイトトンボ			●	—	—	NT	A
		クロイトトンボ	●	●	—	—	—	D	
		セスジイトトンボ		●	—	—	—	B	
		ムスジイトトンボ	●	●	—	—	—	B	
		オオイトトンボ		●	—	—	—	A	
	モノサシトンボ	モノサシトンボ		●	—	—	—	C	
	カワトンボ	アサヒナカワトンボ		●	—	—	LP	A	
	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			●	—	—	NT	B
		アオヤンマ			●	—	—	NT	B
		マルタンヤンマ			●	—	—	—	C
		クロスジギンヤンマ			●	—	—	—	D
		コシボソヤンマ	●	●	—	—	—	C	
		カトリヤンマ	●	●	—	—	—	B	
		ヤブヤンマ	●	●	—	—	—	D	
		サラサヤンマ		●	—	—	—	D	
		サナエトンボ	ヤマサナエ	●	●	—	—	—	D
	ダビドサナエ			●	—	—	—	C	
	オナガサナエ			●	—	—	—	B	
	アオサナエ			●	—	—	—	B	
	ホンサナエ			●	—	—	—	B	
	ウチワヤンマ			●	—	—	—	D	
	オジロサナエ			●	—	—	—	A	
	コサナエ			●	—	—	—	A	
	エゾトンボ	トラフトンボ			●	—	—	—	A
		キイロヤマトンボ			●	—	—	NT	A
		タカネトンボ			●	—	—	—	B
	トンボ	ハラビロトンボ	●	●	—	—	—	B	
		チョウトンボ	●	●	—	—	—	D	
コノシメトンボ			●	—	—	—	D		
マイコアカネ			●	—	—	—	D		
リスアカネ			●	—	—	—	B		
ゴキブリ	オオゴキブリ		●	—	—	—	D		
カマキリ	カマキリ	●	●	—	—	—	D		
バッタ	クツワムシ	クツワムシ		●	—	—	—	C	
	キリギリス	ヒサゴクサキリ		●	—	—	—	B	
	マツムシ	クチキコオロギ	●	●	—	—	—	D	
		カヤコオロギ		●	—	—	—	A	
		マツムシ	●	●	—	—	—	D	
	コオロギ	クロツヤコオロギ		●	—	—	—	C	
		ナツノツツレサセコオロギ	●	●	—	—	—	D	
		コガタコオロギ		●	—	—	—	C	
	カネタタキ	イソカネタタキ		●	—	—	—	D	
	ヒバリモドキ	ハマスズ		●	—	—	—	A	
カヤヒバリ		●		—	—	—	不足		

表 10.10-20 (2) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
バッタ	バッタ	ヤマトマダラバッタ		●	-	-	-	B	
		イナゴモドキ		●	-	-	-	A	
	イナゴ	セグロイナゴ	●	●	-	-	-	A	
	ヒシバッタ	ボウソウサワヒシバッタ		●	-	-	-	B	
ナナフシ	ナナフシ	トゲナナフシ	●	●	-	-	-	D	
カメムシ	セミ	ヒメハルゼミ		●	-	-	-	B	
		ハルゼミ		●	-	-	-	A	
	マキバサシガメ	ベニモンマキバサシガメ			●	-	-	-	A
		キバネアシブトマキバサシガメ			●	-	-	-	B
	ヘリカメムシ	アズキヘリカメムシ	●	●	-	-	-	C	
	ナガカメムシ	ヒメマダラナガカメムシ			●	-	-	-	D
		ヒメジュウジナガカメムシ	●			-	-	-	D
	ツノカメムシ	ベニモンツノカメムシ		●	-	-	-	C	
	ツチカメムシ	ヨコツナツチカメムシ		●	-	-	-	C	
	カメムシ	トゲカメムシ			●	-	-	-	C
		ハナダカカメムシ	●	●	-	-	-	D	
		フタテカメムシ		●	-	-	-	C	
		イネカメムシ	●		-	-	-	C	
		ルリクチブトカメムシ	●	●	-	-	-	C	
	キンカメムシ	オオキンカメムシ	●	●	-	-	-	C	
	アメンボ	オオアメンボ	●	●	-	-	-	D	
		ヤスマツアメンボ	●		-	-	-	D	
	カタピロアメンボ	ケシウミアメンボ		●	-	-	-	C	
	コオイムシ	コオイムシ	●	●	-	-	NT	-	
		タガメ		●	-	特二	VU	A	
ナベブタムシ	ナベブタムシ		●	-	-	-	A		
アミメカゲロウ	カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ		●	-	-	-	B	
	ツノトンボ	ツノトンボ	●	●	-	-	-	C	
シリアゲムシ	シリアゲムシ	キシタトゲシリアゲ		●	-	-	-	B	
		ヤマトシリアゲ	●	●	-	-	-	D	
		ホシシリアゲ		●	-	-	-	C	
		ミスジシリアゲ		●	-	-	-	C	
トビケラ	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ		●	-	-	-	C	
	マルバネトビケラ	マルバネトビケラ		●	-	-	-	D	
チョウ	セセリチョウ	アオバセセリ本土亜種		●	-	-	-	B	
		ミヤマセセリ		●	-	-	-	B	
		ホソバセセリ		●	-	-	-	B	
		ミヤマチャバネセセリ		●	-	-	-	C	
		オオチャバネセセリ		●	-	-	-	B	
	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ			●	-	-	-	C
		ルーミスシジミ	●	●	-	-	VU	C	
		コツバメ		●	-	-	-	B	
		オオミドリシジミ	●		-	-	-	C	
		アカシジミ		●	-	-	-	C	
		ウラナミアカシジミ		●	-	-	-	C	
		ミドリシジミ		●	-	-	-	C	
		ウラキンシジミ		●	-	-	-	A	
		シルビアシジミ		●	-	-	EN	B	
		タテハチョウ	コムラサキ			●	-	-	-
	ミドリヒョウモン				●	-	-	-	C
	ウラギンスジヒョウモン				●	-	-	VU	X
スミナガシ本土亜種				●	-	-	-	B	

表 10.10-20 (3) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
チョウ	タテハチョウ	ゴマダラチョウ本土亜種	●	●	—	—	—	C
		アサマイチモンジ	●		—	—	—	C
		ジャノメチョウ	●	●	—	—	—	C
		ヤマキマダラヒカゲ房総亜種		●	—	—	—	C
		クモガタヒョウモン		●	—	—	—	A
		ミスジチョウ		●	—	—	—	C
		ヒオドシチョウ		●	—	—	—	B
		オオムラサキ		●	—	—	NT	B
	アゲハチョウ	オナガアゲハ	●	●	—	—	—	C
	シロチョウ	ツマグロキチョウ		●	—	—	EN	X
	シャチホコガ	カバイロシャチホコ		●	—	—	NT	A
	ヤガ	ガマヨトウ		●	—	—	VU	C
		サヌキキリガ		●	—	—	—	D
ヤクシマキリガ			●	—	—	—	B	
ハエ	アブ	ヨスジキンメアブ		●	—	—	—	D
		キンイロアブ		●	—	—	—	B
	ハナアブ	カクモンハラブトハナアブ	●		—	—	—	C
	クロバエ	シリプトミドリバエ	●		—	—	—	D
	イエバエ	ウミベカトリバエ		●	—	—	—	B
	ニクバエ	バッタヤドリニクバエ		●	—	—	—	A
シュツエニクバエ			●	—	—	—	C	
コウチュウ	ホソクビゴミムシ	アオバネホソクビゴミムシ		●	—	—	—	D
		コホソクビゴミムシ	●		—	—	—	C
	オサムシ	クロオサムシ関東地方北西部亜種		●	—	—	—	C
		マイマイカブリ関東・中部地方亜種	●	●	—	—	—	D
		ルイスオサムシ房総半島南部亜種	●	●	—	—	—	D
		セアカオサムシ		●	—	—	NT	B
		コアトワアオゴミムシ		●	—	—	—	C
		キバネキバナガミズギワゴミムシ		●	—	—	VU	A
		キバナガミズギワゴミムシ		●	—	—	—	C
		コハラアカモリヒラタゴミムシ		●	—	—	—	C
		オサムシモドキ		●	—	—	—	C
		スナハラゴミムシ		●	—	—	VU	A
		オオキベリアオゴミムシ		●	—	—	—	D
		オオマルクビゴミムシ		●	—	—	—	B
		オオトックリゴミムシ		●	—	—	NT	C
		イグチケブカゴミムシ	●		—	—	NT	C
	ヒョウタンゴミムシ		●	—	—	—	D	
	コアオアトクリゴミムシ		●	—	—	—	D	
	ハンミョウ	シロヘリハンミョウ		●	—	—	NT	A
		カワラハンミョウ		●	—	—	EN	A
		アイヌハンミョウ		●	—	—	NT	B
		コハンミョウ	●	●	—	—	—	C
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ		●	—	特二	VU	X
		コガタノゲンゴロウ		●	—	—	VU	A
		マルガタゲンゴロウ		●	—	特二	VU	B
		シマゲンゴロウ	●	●	—	—	NT	D
		キオビチビゲンゴロウ		●	—	—	DD	—
	ミズスマシ	オオミズスマシ		●	—	—	NT	C
		ミズスマシ	●	●	—	—	VU	C
	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ		●	—	—	VU	B
	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ		●	—	—	—	C
	ガムシ	コガムシ		●	—	—	DD	D

表 10.10-20 (4) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
コウチュウ	ガムシ	ガムシ		●	-	-	NT	C	
	エンマムシ	ニセハマベエンマムシ		●	-	-	-	B	
	シデムシ	ベッコウヒラタシデムシ		●	-	-	-	D	
		ヤマトモンシデムシ		●	-	-	NT	B	
		オニヒラタシデムシ		●	-	-	-	C	
	クシヒゲムシ	クチキクシヒゲムシ	●	●	-	-	-	C	
	ムネアカセンチコガネ	ムネアカセンチコガネ		●	-	-	-	D	
	クワガタムシ	オオクワガタ			●	-	-	VU	A
		ヒラタクワガタ本土亜種	●	●	-	-	-	B	
	アカマダラセンチコガネ	アカマダラセンチコガネ		●	-	-	-	B	
	コガネムシ	アカマダラハナムグリ		●	-	-	DD	B	
		ヒメキイロマグソコガネ		●	-	-	NT	A	
		ヤマトケシマグソコガネ		●	-	-	-	C	
		シロスジコガネ		●	-	-	-	C	
	コブスジコガネ	オオコブスジコガネ		●	-	-	VU	A	
	タマムシ	アオマダラタマムシ		●	-	-	-	C	
		クロマダラタマムシ		●	-	-	-	B	
	コメツキムシ	フタモンウバタマコメツキ	●	●	-	-	-	D	
		ルリツヤハダコメツキ		●	-	-	-	C	
	ホタル	ゲンジボタル	●	●	-	-	-	B	
		ヘイケボタル	●	●	-	-	-	C	
		クロマドボタル	●	●	-	-	-	C	
	ジョウカイモドキ	イソジョウカイモドキ		●	-	-	DD	C	
	カミキリムシ	ハンノキカミキリ		●	-	-	-	A	
		ベーツヒラタカミキリ		●	-	-	-	B	
		ベニバナカミキリ		●	-	-	-	C	
		チャイロヒメバナカミキリ	●	●	-	-	-	D	
		ヨツボシカミキリ		●	-	-	EN	A	
		アサカミキリ		●	-	-	VU	A	
		オオトラカミキリ		●	-	-	-	A	
		ハムシ	イネネクイハムシ		●	-	-	-	C
		ジュンサイハムシ		●	-	-	-	D	
		キヌツヤミズクサハムシ		●	-	-	-	C	
	ウスグロタマノミハムシ		●	-	-	-	A		
ゾウムシ	ハマベゾウムシ		●	-	-	-	A		
ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ		●	-	-	NT	C	
	アリ	トゲアリ	●		-	-	VU	-	
	スズメバチ	ヤマトアシナガバチ	●		-	-	DD	-	
		モンズズメバチ	●		-	-	DD	-	
	クモバチ	スギハラクモバチ	●	●	-	-	DD	C	
		アオスジクモバチ	●		-	-	DD	-	
	ドロバチモドキ	キアシハナダカバチモドキ		●	-	-	VU	B	
	ミツバチ	シロスジヤドリハナバチ		●	-	-	-	C	
13目	78科	198種	53種	183種	0種	3種	48種	191種	

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧Ⅱ類(CR) 絶滅危惧Ⅲ類(EN) 絶滅危惧Ⅳ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(f) クモ類

ア) クモ類の生息状況

現地調査においては1目33科179種のクモ類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-21 に示します。

表 10.10-21 クモ類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
夏季	1目30科91種	ジグモ、キノボリトタテグモ、センショウグモ、オウギグモ、マネキグモ、アシブトヒメグモ、シロカネイソウロウグモ、ムラクモヒシガタグモ、ムナボシヒメグモ、リュウキュウヒメグモ、スネグロオチバヒメグモ、ボカシミジングモ、サイトウヌカグモ、デーニツツサラグモ、ヘリジロサラグモ、コテングヌカグモ、チュウガタシロカネグモ、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、ジョロウグモ など
秋季	1目21科54種	ジグモ、センショウグモ、オウギグモ、シロカネイソウロウグモ、ニホンヒメグモ、ヨロイヒメグモ、サイトウヌカグモ、ヘリジロサラグモ、チュウガタシロカネグモ、オオシロカネグモ、キンヨウグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ、シナノアシナガグモ、ビジョオニグモ、ナガコガネグモ、コガタコガネグモ、シロオビトリノフンダマシ、トガリオニグモ、ワキグロサツマノミダマシ、コゲチャオニグモ など
春季	1目47科146種	ジグモ、キノボリトタテグモ、タイリクユウレイグモ、ミヤグモ、ナルトミダニグモ、センショウグモ、ハラビロセンショウグモ、オオセンショウグモ、ヒラタグモ、オウギグモ、マネキグモ、ヤマウズグモ、コホラヒメグモ、アシブトヒメグモ、シロカネイソウロウグモ、オナガグモ、カレハヒメグモ、ヒシガタグモ、ムラクモヒシガタグモ、ムナボシヒメグモ、フタオイソウロウグモ、ニホンヒメグモ、リュウキュウヒメグモ、オオヒメグモ、ハラダカツクネグモ、ツクネグモ、キベリミジングモ、カニミジングモ、ヤリグモ、ハンゲツオスナキグモ、スネグロオチバヒメグモ、ボカシミジングモ、コアカクロミジングモ など
合計	1目33科179種	-

イ) 重要なクモ類

現地調査により確認された重要なクモ類は1目1科1種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要なクモ類とその選定理由を表 10.10-22 に示します。

表 10.10-22 重要なクモ類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ	●		—	—	NT	B
	コガネグモ	オニグモ		●	—	—	—	D
		コガネグモ		●	—	—	—	C
		ワスレナグモ		●	—	—	NT	A
		ナカムラオニグモ		●	—	—	—	D
1目	2科	5種	1種	4種	0種	0種	2種	5種

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(g) ヤスデ類

ア) ヤスデ類の生息状況

現地調査においては13目24科47種のヤスデ類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-23 に示します。

表 10.10-23 ヤスデ類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
夏季	6目17科26種	ゲジ、オオゲジ、イッスンムカデ、アオズムカデ、トビズムカデ、スジメナシムカデ、セスジアカムカデ、ヤマトベニジムカデ、ホソヅメベニジムカデ、ゴシチナガズジムカデ、ヤマトタマヤスデ、ハガヤスデ、オウギヤスデ、マクラギヤスデ、アカヤスデ、ヤケヤスデ、ヒメヨロイヤスデ、ウチカケヤスデ、タカクワヤスデ など
秋季	11目20科30種	ゲジ、オオゲジ、イッスンムカデ、アオズムカデ、トビズムカデ、スジメナシムカデ、ムサシアカムカデ、セスジアカムカデ、ヤマトベニジムカデ、ホソヅメベニジムカデ、カチベニジムカデ、ツメジムカデ、ゴシチナガズジムカデ、ウスアカフサヤスデ、ヤマトタマヤスデ、フゲンイトヤスデ、タマモヒラタヤスデ、ハガヤスデ、オウギヤスデ など
春季	11目22科35種	ゲジ、オオゲジ、イッスンムカデ、モモブトイシムカデ、アオズムカデ、トビズムカデ、ニホンメナシムカデ、ケアカムカデ、アカムカデ、マキジマエスカリジムカデ、ツメジムカデ、ナミコムカデ、ウスアカフサヤスデ、ヤマトタマヤスデ、クロヒメヤスデ、アカヒラタヤスデ、フトケヤスデ、マクラギヤスデ、ミドリババヤスデ など
合計	13目24科47種	-

イ) 重要なヤスデ類

現地調査により確認された重要なヤスデ類は7目8科12種でした。

現地調査及び既存資料調査で確認された重要なヤスデ類とその選定理由を表 10.10-24 に示します。

表 10.10-24 重要なヤスデ類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
フサヤスデ	フサヤスデ	イソフサヤスデ		●	—	—	—	A
		シノハラフサヤスデ		●	—	—	CR+EN	A
タマヤスデ	タマヤスデ	ヤマトタマヤスデ	●	●	—	—	—	B
ジヤスデ	イトヤスデ	イトヤスデ		●	—	—	—	C
ヒラタヤスデ	ヒラタヤスデ	アカヒラタヤスデ	●		—	—	—	C
		タマモヒラタヤスデ	●		—	—	—	B
ヒメヤスデ	クロヒメヤスデ	クロヒメヤスデ	●		—	—	—	B
オビヤスデ	オビヤスデ	トワダオビヤスデ		●	—	—	—	A
	ハガヤスデ	ヒメヨロイヤスデ	●	●	—	—	—	C
	ババヤスデ	オビババヤスデ		●	—	—	—	D
		タカクワヤスデ	●	●	—	—	—	B
ゲジ	ゲジ	ゲジ	●	●	—	—	—	B
		オオゲジ	●		—	—	—	B
イシムカデ	イシムカデ	ヨシイッスンムカデ		●	—	—	—	C
オオムカデ	メナシムカデ	ニホンメナシムカデ	●	●	—	—	—	B
		スジメナシムカデ	●		—	—	—	B
		ケアカムカデ	●		—	—	—	A
ジムカデ	ツチムカデ	カチベニジムカデ	●	●	—	—	—	A
	オビジムカデ	ヨシヤジムカデ		●	—	—	—	B
	マツジムカデ	サキブトジムカデ		●	—	—	—	A
エダヒゲムシ	エダヒゲムシ	サンゴホンエダヒゲムシ		●	—	—	—	A
11目	15科	21種	12種	15種	0種	0種	1種	21種

※種名、配列などは基本的に「日本産土壌動物 分類のための図解検索【第二版】(2015年 東海大学出版部)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物(A) 重要保護生物(B) 最重要・重要保護生物(A-B) 要保護生物(C) 一般保護生物(D) 情報不足(不足)

(h) 陸産貝類

ア) 陸産貝類の生息状況

現地調査においては4目17科42種の陸産貝類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-25 に示します。

表 10.10-25 陸産貝類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
夏季	3目12科23種	ヒダリマキゴマガイ、ヤマタニシ、ムシオイガイ、ニホンケシガイ、タワラガイ、ハリマキビ、マルシタラガイ、カサキビガイ、ウラジロベッコウ、ハコネギセル、ナミギセル、ヒカリギセル、マルオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、キヌビロウドマイマイ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、オナジマイマイ、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ、ナメクジ、チャコウラナメクジ
秋季	3目11科23種	ヤマトゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ムシオイガイ、ニホンケシガイ、タワラガイ、キビガイ、ハリマキビ、マルシタラガイ、カサキビガイ、ウラジロベッコウ、キセルガイモドキ、ナミギセル、ヒカリギセル、マルオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、キヌビロウドマイマイ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、オナジマイマイ、ミスジマイマイ、ナメクジ、ヤマナメクジ
春季	4目17科42種	ゴマオカタニシ、ヤマトゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ヤマタニシ、ムシオイガイ、ニホンケシガイ、サカマキガイ、タワラガイ、ヒメベッコウガイ、キビガイ、レンズガイ、ハリマキビ、マルシタラガイ、カサキビガイ、ウラジロベッコウ、キセルガイモドキ、ナミコギセル、コグレギセル、チュウゼンジギセル、ホンダギセル、ハコネギセル など
合計	4目17科42種	-

イ) 重要な陸産貝類

現地調査により確認された重要な陸産貝類は 2 目 5 科 6 種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な陸産貝類とその選定理由を表 10.10-26 に示します。

表 10.10-26 重要な陸産貝類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況				
					①	②	③	④	
カサガイ	ユキノカサガイ	ツボミガイ		●	—	—	NT	B	
アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ	●		—	—	NT	B	
新生腹足	タニシ	マルタニシ		●	—	—	VU	D	
	カワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ		●	—	—	NT	—	
汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ		●	—	—	NT	A	
	キバサナギガイ	スナガイ		●	—	—	NT	—	
	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ	●	●	—	—	—	C	
	キセルガイ	チュウゼンジギセル		●	●	—	—	NT	B
		ヒメギセル			●	—	—	—	A
		スルガギセル			●	—	—	NT	A
	ベッコウマイマイ	レンズガイ	●	●	—	—	VU	B	
	ニッポンマイマイ	カドコオオベソマイマイ			●	—	—	NT	B
		キヌビロウドマイマイ		●	●	—	—	NT	C
		キヨスミビロウドマイマイ		●		—	—	DD	C
ケハダビロウドマイマイ				●	—	—	NT	—	
ヒメビロウドマイマイ				●	—	—	VU	—	
ビロウドマイマイ				●	—	—	DD	C	
4目	10科	17種	6種	15種	0種	0種	15種	13種	

※種名、配列などは基本的に「日本産土壌動物 分類のための図解検索【第二版】」(2015年 東海大学出版部)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 絶滅危惧ⅠB類 (EN) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 準絶滅危惧 (NT) 情報不足 (DD) 地域個体群 (LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物 (A) 重要保護生物 (B) 最重要・重要保護生物 (A-B) 要保護生物 (C) 一般保護生物 (D) 情報不足 (不足)

(i) 魚類

ア) 魚類の生息状況

現地調査において7目11科28種の魚類を確認しました。

現地調査結果の概要を表 10.10-27 に示します。

表 10.10-27 魚類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
夏季	5目8科18種	ニホンウナギ、オイカワ、ウグイ、タモロコ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、アユ、ブルーギル、オオクチバス、カワアナゴ、ボウズハゼ、ヌマチチブ、チチブ、シマヨシノボリ、クロヨシノボリ、ゴクラクハゼ、スミウキゴリ
秋季	7目11科24種	ニホンウナギ、コイ（改良品種型）、ギンブナ、オイカワ、ウグイ、タモロコ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、アユ、テングヨウジ、ボラ、ブルーギル、オオクチバス、ユゴイ、カワアナゴ、ミミズハゼ、ボウズハゼ、ヌマチチブ、チチブ、ヒナハゼ、シマヨシノボリ、クロヨシノボリ、ゴクラクハゼ、スミウキゴリ
早春季	5目6科15種	ニホンウナギ、コイ（改良品種型）、オイカワ、ウグイ、タモロコ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、ボラ、ミミズハゼ、ボウズハゼ、ヌマチチブ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、スミウキゴリ
春季	5目8科18種	ニホンウナギ、コイ（改良品種型）、ギンブナ、オイカワ、ウグイ、タモロコ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、アユ、ボラ、オオクチバス、ミミズハゼ、マハゼ、ヌマチチブ、シマヨシノボリ、クロヨシノボリ、トウヨシノボリ類、スミウキゴリ
合計	7目11科28種	-

イ) 重要な魚類

現地調査により確認された重要な魚類は 4 目 5 科 6 種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な魚類とその選定理由を表 10.10-28 に示します。

表 10.10-28 重要な魚類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	●	●	—	—	EN	C
コイ	コイ	キンブナ		●	—	—	VU	B
		ギンブナ	●	●	—	—	—	D
		モツゴ		●	—	—	—	D
	ドジョウ	ドジョウ	●	●	—	—	NT	—
		ヒガシシマドジョウ	●	●	—	—	—	C
	フクドジョウ	ホトケドジョウ		●	—	—	EN	C
ナマズ	ギギ	ギバチ	●	●	—	—	VU	B
	ナマズ	ナマズ		●	—	—	—	B
ダツ	メダカ	ミナミメダカ		●	—	—	VU	B
スズキ	ハゼ	シロウオ		●	—	—	VU	D
		ヌマチチブ	●	●	—	—	—	D
		ビリンゴ		●	—	—	—	D
5目	8科	13種	6種	13種	0種	0種	7種	12種

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（2022年11月7日公開版）に準拠した。

注）各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年5月30日 法律第214号）
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日 法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日 環境省報道発表資料）
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） 絶滅危惧ⅠA類（CR） 絶滅危惧ⅠB類（EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 地域個体群（LP）
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」（平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課）
最重要保護生物（A） 重要保護生物（B） 最重要・重要保護生物（A-B） 要保護生物（C） 一般保護生物（D） 情報不足（不足）

(j) 底生動物

ア) 底生動物の生息状況

現地調査においては24目85科176種の底生動物を確認しました。

現地調査結果の概要を表10.10-29に示します。

表 10.10-29 底生動物の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
夏季	16目44科77種	ナミウズムシ、イシマキガイ、カワニナ、コモチカワツボ、コシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、ヒラマキガイ属、シジミ属、エラミミズ、ミズムシ(甲)、エビノコバン、ヤマトヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヌマエビ、ヒラテテナガエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、クロベンケイガニ、モクズガニ、ヒメトビイロカゲロウ、アカマダラカゲロウ、エラブタマダラカゲロウ、フタモンコカゲロウ、チラカゲロウ、キブネタニガワカゲロウ など
秋季	18目46科90種	ナミウズムシ、ミミズヒモムシ属、イシマキガイ、コモチカワツボ、サカマキガイ、カワコザラガイ属、シジミ属、エラミミズ、ナミミズミミズ、ヨゴレミズミミズ、ツリミズ目ヌマビル、ナガレビル科、ミズムシ(甲)、エビノコバン、ヤマトヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヒメヌマエビ、ヌマエビ、ヒラテテナガエビ、テナガエビ、スジエビ、スジエビモドキ、アメリカザリガニ、サワガニ、クロベンケイガニ、アカテガニ、ベンケイガニ、モクズガニ など
早春季	21目56科110種	ヤマトゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ムシオイガイ、ニホンケンガイ、タワラガイ、キビガイ、ハリマキビ、マルシタラガイ、カサキビガイ、ウラジロベッコウ、キセルガイモドキ、ナミギセル、ヒカリギセル、マルオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、キヌビロウドマイマイ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、オナジマイマイ、ミスジマイマイ、ナメクジ、ヤマナメクジ など
春季	21目59科113種	ナミウズムシ、アメリカツノウズムシ、サンカクアタマウズムシ科、ミミズヒモムシ属、イシマキガイ、カワニナ、コモチカワツボ、コシダカヒメモノアラガイ、ヒメモノアラガイ、モノアラガイ科、サカマキガイ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイ属、ヒラマキガイ科、カワコザラガイ属、タイワンシジミ、シジミ属、ドブシジミ、ヒメヤマトカワゴカイ、カワゴカイ属 など
合計	24目85科176種	-

イ) 重要な底生動物

現地調査により確認された重要な底生動物は 5 目 14 科 25 種でした。現地調査及び既存資料調査で確認された重要な底生動物とその選定理由を表 10.10-30 に示します。

表 10.10-30 重要な底生動物

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況			
					①	②	③	④
アマオブネガイ	アマオブネガイ	イシマキガイ	●		—	—	—	B
汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	●		—	—	DD	—
	ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ	●		—	—	DD	B
マルスダレガイ	シジミ	マシジミ		●	—	—	VU	A
ワラジムシ	ウンオワラジムシ	ニッポンヒイロワラジムシ		●	—	—	—	不足
	ウミベワラジムシ	ニホンハマワラジムシ		●	—	—	—	不足
エビ	ヌマエビ	ヤマトヌマエビ	●		—	—	—	C
		ミゾレヌマエビ	●		—	—	—	A
		ヒメヌマエビ	●		—	—	—	A
		トゲナシヌマエビ	●		—	—	—	A
		ヌマエビ	●		—	—	—	C
	テナガエビ	ミナミテナガエビ	●		—	—	—	D
		ヒラテテナガエビ	●		—	—	—	D
		テナガエビ	●		—	—	—	D
		スジエビ	●		—	—	—	D
	サワガニ	サワガニ	●		—	—	—	C
	ベンケイガニ	アカテガニ	●		—	—	—	D
		クロベンケイガニ	●		—	—	—	D
		ベンケイガニ	●		—	—	—	B
	モクズガニ	モクズガニ	●		—	—	—	D
ムツハアリアケガニ	カワスナガニ	●		—	—	NT	A	
トンボ (蜻蛉)	カワトンボ	アサヒナカワトンボ	●		—	—	LP	A
	ヤンマ	コシボソヤンマ	●		—	—	—	C
	サナエトンボ	ヤマサナエ	●		—	—	—	D
		オナガサナエ	●		—	—	—	B
オジロサナエ		●		—	—	—	A	
カメムシ (半翅)	アメンボ	オオアメンボ	●		—	—	—	D
	コオイムシ	コオイムシ	●		—	—	NT	—
7目	17科	28種	25種	3種	0種	0種	6種	26種

※種名、配列などは基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日公開版)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：千葉県指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月27日 環境省報道発表資料)
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 絶滅危惧ⅠB類 (EN) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 準絶滅危惧 (NT) 情報不足 (DD) 地域個体群 (LP)
- ④ 「千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
最重要保護生物 (A) 重要保護生物 (B) 最重要・重要保護生物 (A-B) 要保護生物 (C) 一般保護生物 (D) 情報不足 (不足)

2) 予測の結果

(1) 予測の手法

道路の存在、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置及び建設機械の稼働に係る動物の予測は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）〔国土技術政策総合研究所資料第 714 号〕」（平成 25 年 3 月、国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）及び「道路環境影響評価の技術手法「13. 動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集（平成 27 年度版）〔国土技術政策総合研究所資料第 906 号〕」（平成 28 年 3 月、国土技術政策総合研究所）に基づき行いました。

a) 予測方法

道路構造、工事施工ヤードや工事用道路等と動物の重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息地が消失・縮小する区間及び重要な種等の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握しました。次に、それらが動物の重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を科学的知見及び類似事例を参考に予測しました。

b) 予測地域及び予測地点

予測地域は、調査地域のうち、計画路線により重要な種及び注目すべき生息地の環境が消失・縮小による影響、または質的变化による影響を受ける可能性のある範囲として、調査地域の範囲としました。

c) 予測の対象時期

予測の対象時期は、動物の生態的特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

d) 予測対象の選定

予測対象は、計画路線区域及び対象事業実施区域周辺において「①現地調査または既存資料調査による具体的な位置情報がある重要な種及び生息地」と「②既存資料調査において生息の可能性が高いと考えられる重要な種」を選定しました。「既存資料調査で確認されているが、計画路線区域内での位置情報の記載がなく、生息の可能性も低いと判断される種」は予測対象から除外しました。

動物の重要な種及び生息地の予測対象の選定結果を表 10.10-31 に示します。

現地調査及び既存資料調査で確認された重要な種の 406 種（昆虫類と底生動物との重複種 7 種を除くと 399 種）から 174 種（昆虫類と底生動物との重複種 4 種を除くと 170 種）を予測対象に選定しました。予測対象は、哺乳類が 11 種、鳥類が 40 種、爬虫類が 10 種、両生類が 10 種、昆虫類が 53 種（内 4 種が底生動物と重複）、クモ類が 1 種、ヤスデ類が 12 種、陸産貝類が 6 種、魚類が 6 種、底生動物が 25 種（内 4 種が昆虫類と重複）です。

表 10.10-31 (1) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
哺乳類	ジネズミ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒミズ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	コキクガシラコウモリ	○	○	●	
	キクガシラコウモリ	○	○	●	
	モモジロコウモリ	○	○	●	
	ユピナゴコウモリ		○		
	ニホンザル	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ニホンリス	○	○	●	
	ヒメネズミ	○	○	●	
	カヤネズミ	○	○	●	
	キツネ	○	○	●	
ホンドテン	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
アナグマ	○	○	●		
鳥類	ウズラ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヤマドリ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	コクガン		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	オカヨシガモ		○		
	ヨシガモ		○		
	スズガモ		○		
	シノリガモ		○		
	ウミアイサ		○		予測区域内で現地確認されている。
	カイツブリ	○	○	●	
	カンムリカイツブリ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	カラスバト		○		
	アオバト		○		
	ウミウ		○		
	ミゾゴイ	○		●	
	ダイサギ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	チュウサギ	○	○	●	
	コサギ	○	○	●	
	クロサギ		○		
	マナヅル		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒクイナ	○		●	
バン	○	○	●		
オオバン	○	○	●		
ホトトギス	○	○	●		
アマツバメ	○	○	●		
ヒメアマツバメ	○	○	●		

表 10.10-31 (2) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
鳥類	ムナグロ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ダイゼン		○			
	イカルチドリ	○		●	予測区域内で現地確認されている。	
	コチドリ	○	○	●		
	シロチドリ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	メダイチドリ		○			
	アオシギ		○			
	オオジシギ		○			
	オオソリハシシギ		○			
	チュウシャクシギ		○			
	ホウロクシギ		○			
	アオアシシギ		○			
	クサシギ	○	○	●		予測区域内で現地確認されている。
	タカブシギ		○			既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	キアシシギ		○			
	ソリハシシギ		○			
	イソシギ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	キョウジョシギ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	オバシギ		○			
	ミュビシギ		○			
	トウネン		○			
	ハマシギ		○			
	キリアイ		○			
	オオセグロカモメ		○			
	コアジサシ		○			
	ケイマフリ		○			
	ウミスズメ		○			
	カンムリウミスズメ		○			
	ミサゴ	○		●		予測区域内で現地確認されている。
	オジロワシ		○			既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	オオワシ		○			
	ハチクマ	○		●		予測区域内で現地確認されている。
	ツミ	○		●		
	ハイタカ	○		●		予測区域内で現地確認されている。
	オオタカ	○		●		
	サシバ	○	○	●		
	ノスリ	○		●		
	フクロウ	○		●		
	アオバズク		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	カワセミ	○	○	●		予測区域内で現地確認されている。
	アカゲラ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	アオゲラ		○			
	ハヤブサ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	サンショウクイ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	サンコウチョウ	○	○	●		予測区域内で現地確認されている。
	カケス	○	○	●	既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ヒバリ	○	○	●		
コシアカツバメ	○	○	●			
イワツバメ		○				
ヤブサメ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。		
センダイムシクイ	○	○	●	既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。		
オオヨシキリ	○	○	●			
セッカ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。		
ミソサザイ	○	○	●		予測区域内で現地確認されている。	
トラツグミ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。		
アカコッコ		○				
キビタキ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。		
オオルリ	○	○	●			
キセキレイ	○	○	●			
イカル	○	○	●			
ホオジロ	○	○	●			
ホオアカ		○			既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	

表 10.10-31 (3) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
鳥類	クロジ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	コジュリン		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	オオジュリン		○		
爬虫類	ニホンイシガメ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ニホンヤモリ	○	○	●	
	ヒガシニホントカゲ	○	○	●	
	ニホンカナヘビ	○	○	●	
	シマヘビ	○	○	●	
	アオダイショウ	○	○	●	
	ジムグリ	○	○	●	
	シロマダラ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒバカリ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ヤマカガシ	○	○	●	
	ニホンマムシ	○	○	●	
両生類	トウキョウサンショウウオ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	アカハライモリ	○	○	●	
	アズマヒキガエル	○	○	●	
	タゴガエル	○	○	●	
	ニホンアマガエル	○	○	●	
	ヤマアマガエル	○	○	●	
	トウキョウダルマガエル		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ツチガエル	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	シュレーゲルアオガエル	○	○	●	
	モリアオガエル	○	○	●	
	カジカガエル	○	○	●	
昆虫類	アオイトトンボ		○		
	オツネイトンボ		○		
	ホソミイトンボ		○		
	キイトンボ		○		
	ベニイトンボ		○		
	モートイトンボ		○		
	クロイトンボ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	セスジイトンボ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ムスジイトンボ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	オオイトンボ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	モノサシトンボ		○		
	アサヒナカワトンボ		○		
	ネアカヨシヤンマ		○		
	アオヤンマ		○		
	マルタンヤンマ		○		
	クロスジギンヤンマ		○		
	コシボシヤンマ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	カトリヤンマ	○	○	●	
	ヤブヤンマ	○	○	●	
	サラサヤンマ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヤマサナエ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ダビドサナエ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	オナガサナエ		○		
	アオサナエ		○		
	ホンサナエ		○		
	ウチワヤンマ		○		
	オジロサナエ		○		
	コサナエ		○		
	トラフトンボ		○		
	キイロヤマトンボ		○		
	ダカネトンボ		○		
ハラビロトンボ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
チョウトンボ	○	○	●		
コノシメトンボ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
マイコアカネ		○			
リスアカネ		○			
オオゴキブリ		○			

表 10.10-31 (4) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	ヒナカマキリ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	クツムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒサゴクサキリ		○		
	クチキコオロギ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	カヤコオロギ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	マツムシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	クロツヤコオロギ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ナツノツツレサセコオロギ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	コガタコオロギ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	イソカナタダキ		○		
	ハマスズ		○		
	カヤヒバリ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	ヤマトマダラバッタ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	イナゴモドキ		○		
	セグロイナゴ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ボウソウサワヒンバッタ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	トゲナナフシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ヒメハルゼミ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ハルゼミ		○		
	ベニモンマキバサシガメ		○		
	キバネアシブトマキバサシガメ		○		
	アズキヘリカメムシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ヒメマダラナガカメムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒメジュウジナガカメムシ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	ベニモンツノカメムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヨコヅナツチカメムシ		○		
	トゲカメムシ		○		
	ハナダカカメムシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	フタテカメムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	イネカメムシ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	ルリクチブトカメムシ	○	○	●	
	オオキンカメムシ	○	○	●	
	オオアメンボ	○	○	●	
	ヤスマツアメンボ	○		●	
	ケシウミアメンボ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コオイムシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	タガメ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ナベブタムシ		○		
	ヒメカマキリモドキ		○		
	ツノトンボ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	キシタトゲシリアゲ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヤマトシリアゲ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ホシシリアゲ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ミスジシリアゲ		○		
	カタツムリトビケラ		○		
	マルバネトビケラ		○		
	アオバセセリ本土亜種		○		
ミヤマセセリ		○			
ホンバセセリ		○			
ミヤマチャバネセセリ		○			
オオチャバネセセリ		○			
ミズイロオナガシジミ		○			
ルーミスシジミ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
コツバメ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
オオミドリシジミ	○		●	予測区域内で現地確認されている。	
アカシジミ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ウラナミアカシジミ		○			
ミドリシジミ		○			
ウラキンシジミ		○			
シルビアシジミ		○			
コムラサキ		○			
ミドリヒョウモン		○			

表 10.10-31 (5) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	ウラギンスジヒョウモン		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	スミナガシ本土亜種		○		
	ゴマダラチョウ本土亜種	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	アサマイチモンジ	○		●	
	ジャノメチョウ	○	○	●	
	ヤマキマダラヒカゲ房総亜種		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	クモガタヒョウモン		○		
	ミスジチョウ		○		
	ヒオドシチョウ		○		
	オオムラサキ		○		
	オナガアゲハ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ツماغロキチョウ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	カバイロシヤチホコ		○		
	ガマヨトウ		○		
	サスキキリガ		○		
	ヤクシマキリガ		○		
	ヨスジキンメアブ		○		
	キンイロアブ		○		
	カクモンハラブトハナアブ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	シリプトミドリバエ	○		●	
	ウミベカトリバエ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	バッタヤドリニクバエ		○		
	ジュツエニクバエ		○		
	アオバネホソクビゴミムシ		○		
	コホソクビゴミムシ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	クロオサムシ関東地方北西部亜種		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	マイマイカブリ関東・中部地方亜種	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ルイスオサムシ房総半島南部亜種	○	○	●	
	セアカオサムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コアトワアオゴミムシ		○		
	キバネキバナガミズギワゴミムシ		○		
	キバナガミズギワゴミムシ		○		
	コハラアカモリヒラタゴミムシ		○		
	オサムシモドキ		○		
	スナハラゴミムシ		○		
	オオキベリアオゴミムシ		○		
	オオマルクビゴミムシ		○		
	オオトクリゴミムシ		○		
	イグチケブカゴミムシ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	ヒョウタンゴミムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コアオアトキリゴミムシ		○		
	シロヘリハンミョウ		○		
	カワラハンミョウ		○		
	アイヌハンミョウ		○		
	コハンミョウ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ゲンゴロウ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コガタノゲンゴロウ		○		
	マルガタゲンゴロウ		○		
	シマゲンゴロウ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	キオビチビゲンゴロウ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
オオミズスマシ		○			
ミズスマシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
マダラコガシラミズムシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
カワラゴミムシ		○			
コガムシ		○			
ガムシ		○			
ニセハマベエンマムシ		○			
ベッコウヒラタシデムシ		○			
ヤマトモンシデムシ		○			
オニヒラタシデムシ		○			
クチキクシヒゲムシ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
ムネアカセンチコガネ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	

表 10.10-31 (6) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	オオクワガタ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒラタクワガタ本土亜種	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	アカマダラセンチコガネ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカマダラハナムグリ		○		
	ヒメキイロマグソコガネ		○		
	ヤマトケシマグソコガネ		○		
	シロスジコガネ		○		
	オオコブスジコガネ		○		
	アオマダラタマムシ		○		
	クロマダラタマムシ		○		
	フタモンウバタマコメツキ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ルリツヤハダコメツキ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ゲンジボタル	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ヘイケボタル	○	○	●	
	クロマドボタル	○	○	●	
	イソジョウカイモドキ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ハンノキカミキリ		○		
	ペーツヒラタカミキリ		○		
	ベニバハナカミキリ		○		
	チャイロヒメハナカミキリ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ヨツボシカミキリ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アサカミキリ		○		
	オオトラカミキリ		○		
	イネネクイハムシ		○		
	ジュンサイハムシ		○		
	キヌツヤミズクサハムシ		○		
	ウスグロタマノミハムシ		○		
	ハマベゾウムシ		○		
	ウマノオバチ		○		
	トゲアリ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	ヤマトアシナガバチ	○		●	
	モンズメバチ	○		●	
スギハラクモバチ	○	○	●		
アオスジクモバチ	○		●		
キアシハナダカバチモドキ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
シロスジヤドリハナバチ		○			
クモ類	キノボリトタテグモ	○		●	
	オニグモ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コガネグモ		○		
	ワスレナグモ		○		
	ナカムラオニグモ		○		
ヤスデ類	イソフサヤスデ		○		
	シノハラフサヤスデ		○		
	ヤマトタマヤスデ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	イトヤスデ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカヒラタヤスデ	○		●	予測区域内で現地確認されている。
	タマモヒラタヤスデ	○		●	
	クロヒメヤスデ	○		●	
	トワダオビヤスデ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ヒメヨロイヤスデ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	オビババヤスデ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	タクワヤスデ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	ゲジ	○	○	●	
	オオゲジ	○		●	
	ヨシイッスンムカデ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ニホンメナシムカデ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。
	スジメナシムカデ	○		●	
	ケアカムカデ	○		●	
	カチベニジムカデ	○	○	●	
	ヨシヤジムカデ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	サキブトジムカデ		○		
サンゴホンエダヒゲムシ		○			

表 10.10-31(7) 予測対象の選定結果

目名	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
陸産貝類	ツボミガイ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ゴマオカタニシ	○		●	予測区域内で現地確認されている。	
	マルタニシ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	クリイロカラザンショウガイ		○			
	モノアラガイ		○			
	スナガイ		○			
	キセルガイモドキ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	チュウゼンジギセル	○	○	●		
	ヒメギセル		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	スルガギセル		○			
	レンズガイ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	カドコオオベソマイマイ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	キヌビロウドマイマイ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	キヨシミビロウドマイマイ	○		●		
	ケハダビロウドマイマイ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ヒメビロウドマイマイ		○				
ビロウドマイマイ		○				
魚類	ニホンウナギ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	キンブナ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ギンブナ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	モツゴ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ドジョウ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	ヒガシシマドジョウ	○	○	●		
	ホトケドジョウ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ギバチ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	ナマズ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ミナミメダカ		○			
	シロウオ		○			
	ヌマチチブ	○	○	●	予測区域内で現地確認されている。	
	ビリンゴ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
底生動物	イシマキガイ	○		●	予測区域内で現地確認されている。	
	ヨシダカヒメモノアラガイ	○		●		
	ヒラマキミズマイマイ	○		●		
	マシジミ		○		既存資料に計画路線区域及び対象事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ニッポンヒイロワラジムシ		○			
	ニホンハマワラジムシ		○			
	ヤマトヌマエビ	○		●	予測区域内で現地確認されている。	
	ミゾレスマエビ	○		●		
	ヒメヌマエビ	○		●		
	トゲナシヌマエビ	○		●		
	ヌマエビ	○		●		
	ミナミテナガエビ	○		●		
	ヒラテナガエビ	○		●		
	テナガエビ	○		●		
	スジエビ	○		●		
	サワガニ	○		●		
	アカテガニ	○		●		
	クロベンケイガニ	○		●		
	ベンケイガニ	○		●		
	モクズガニ	○		●		
	カワスナガニ	○		●		
	アサヒナカワトンボ	○		●		
	ヨシボソヤンマ	○		●		
	ヤマサナエ	○		●		
	オナガサナエ	○		●		
	オジロサナエ	○		●		
	オオアメンボ	○		●		
	コオイムシ	○		●		
		406種	174種	348種	174種	

・合計は、昆虫類と底生動物とで重複する種を含めた集計値である。

e) 影響予測の手順

動物の重要な種の影響予測の手順を図 10.10.1-2 に示します。

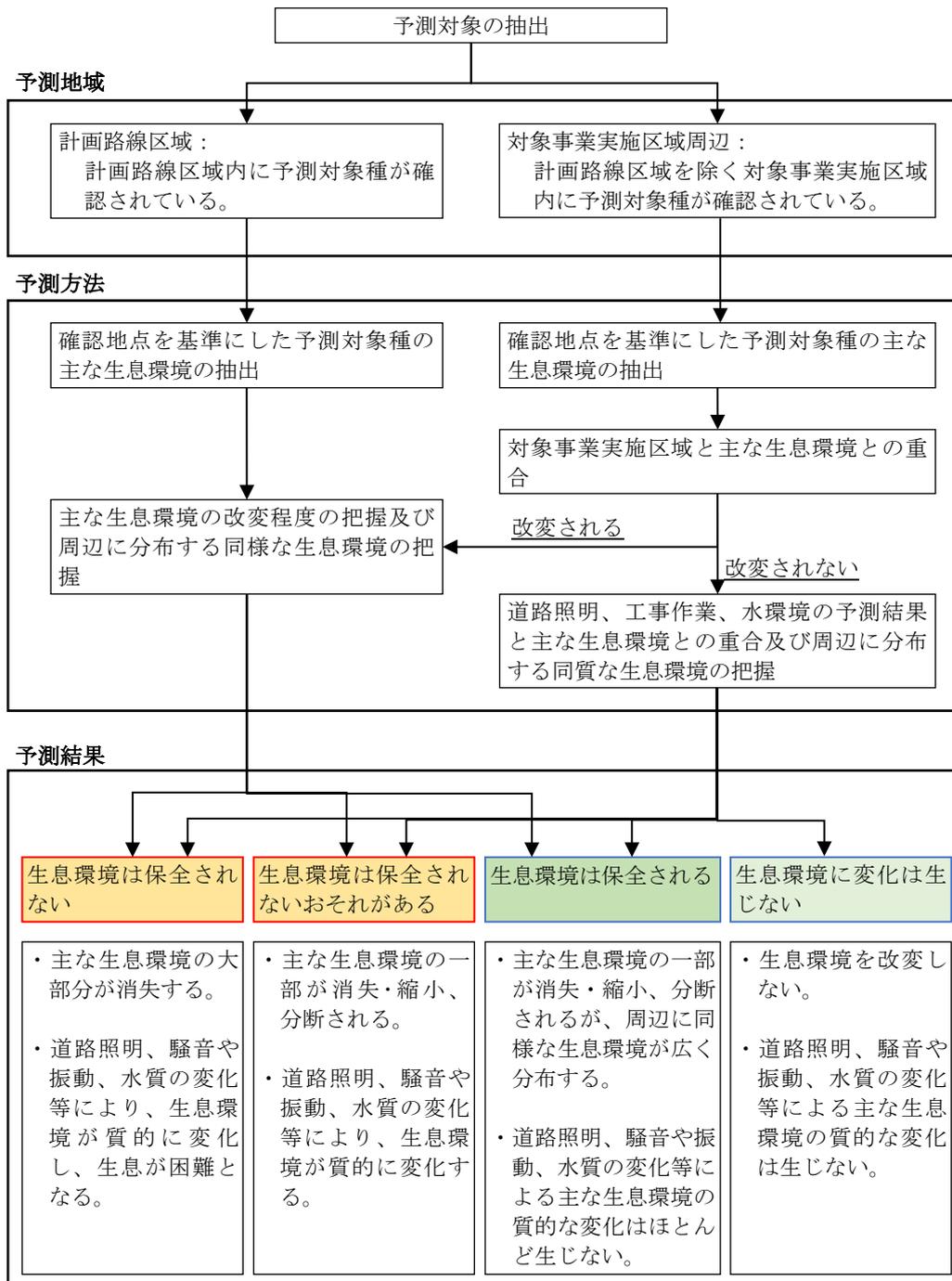


図 10.10.1-2 予測手順

【用語の説明】

- ・ 計画路線区域：対象事業実施区域内の直接改変を受ける区域（供用後は法面や側道等を含む道路用地境界まで、工事中は施工ヤード等を含みます。）
- ・ 対象事業実施区域周辺：計画路線区域を除く調査範囲内の区域

(2) 予測結果

動物の重要な種の予測結果の概要を表 10.10-32 に示します。各分類群の個別の種に対する詳細な予測結果を下記に記します。

表 10.10-32(1) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
哺乳類	1 ヒミズ	自然林、二次林、植林地	●		無	生息環境は保全される
	2 コキクガシラコウモリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	3 キクガシラコウモリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	4 モモジロコウモリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	5 ニホンザル	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	6 ニホンリス	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	7 ヒメネズミ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	8 カヤネズミ	二次草地、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	9 キツネ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	10 ホンドテン	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	11 アナグマ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
鳥類	1 ヤマドリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	2 カイツブリ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	3 ミゾゴイ	二次林、植林地		●	有	生息環境は保全されないおそれがある
	4 ダイサギ	水田等、水辺植生、開放水域	●	●	無	生息環境は保全される
	5 チュウサギ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	6 コサギ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	7 ヒクイナ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	8 バン	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	9 オオバン	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	10 ホトトギス	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(2) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
鳥類	11 アマツバメ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	12 ヒメアマツバメ	二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	13 イカルチドリ	水田等、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	14 コチドリ	水田等、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	15 クサシギ	水田等、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	16 イソシギ	水田等、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	17 ミサゴ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	18 ハチクマ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	19 ツミ	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	20 ハイタカ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	21 オオタカ	自然林、二次林、植林地など		●	有	生息環境は保全されないおそれがある
	22 サシバ	自然林、二次林、植林地など		●	有	生息環境は保全されない
	23 ノスリ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	24 フクロウ	自然林、二次林、植林地など		●	有	生息環境は保全されないおそれがある
	25 カワセミ	水辺植生、開放水域	●	●	無	生息環境は保全される
	26 ハヤブサ	自然林、水田等、水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	27 サンコウチョウ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	28 カケス	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	29 ヒバリ	二次草地、畑地等、その他（グラウンド等）		●	無	生息環境は保全される
	30 コシアカツバメ	二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	31 ヤブサメ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	32 センダイムシクイ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	33 オオヨシキリ	水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	34 ミソサザイ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(3) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
鳥類	35 キビタキ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	36 オオルリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	37 キセキレイ	二次林、植林地、水辺植生	●	●	無	生息環境は保全される
	38 イカル	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	39 ホオジロ	二次林、植林地、二次草地など	●	●	無	生息環境は保全される
	40 クロジ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
爬虫類	1 ニホンイシガメ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	2 ニホンヤモリ	緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	3 ヒガシニホントカゲ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	4 ニホンカナヘビ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	5 シマヘビ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	6 アオダイショウ	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	7 ジムグリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	8 ヒバカリ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	9 ヤマカガシ	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	10 ニホンマムシ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
両生類	1 トウキョウサンショウウオ	二次林、植林地、水田など	●	●	無	生息環境は保全される
	2 アカハライモリ	水田等、開放水域	●	●	無	生息環境は保全される
	3 アズマヒキガエル	二次林、植林地、二次草地など		●	無	生息環境は保全される
	4 タゴガエル	二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	5 ニホンアカガエル	二次林、植林地、水田等	●	●	無	生息環境は保全される
	6 ヤマアカガエル	二次林、植林地、水田など	●	●	無	生息環境は保全される
	7 ツチガエル	二次林、植林地、水田など		●	無	生息環境は保全される
	8 シュレーゲルアオガエル	二次林、植林地、水田等		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(4) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
両生類	9 モリアオガエル	二次林、植林地、水田等		●	無	生息環境は保全される
	10 カジカガエル	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
昆虫類	1 クロイトトンボ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	2 ムスジイトトンボ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	3 コシボソヤンマ	水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	4 カトリヤンマ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	5 ヤブヤンマ	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	6 ヤマサナエ	水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	7 ハラビロトンボ	水田等		●	無	生息環境は保全される
	8 チョウトンボ	水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	9 ヒナカマキリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	10 クチキコオロギ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	11 マツムシ	二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等	●	●	無	生息環境は保全される
	12 ナツノツツレサセコオロギ	二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	13 カヤヒバリ	二次草地		●	無	生息環境は保全される
	14 セグロイナゴ	二次草地、その他（グラウンド等）		●	無	生息環境は保全される
	15 トゲナナフシ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	16 アズキヘリカメムシ	二次草地、畑地等		●	無	生息環境は保全される
	17 ヒメジュウジナガカメムシ	二次草地、畑地等		●	無	生息環境は保全される
	18 ハナダカカメムシ	二次草地、畑地等		●	無	生息環境は保全される
	19 イネカメムシ	水田等		●	無	生息環境は保全される
	20 ルリクチプトカメムシ	二次草地、畑地等		●	無	生息環境は保全される
	21 オオキンカメムシ	二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	22 オオアメンボ	開放水域		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(5) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
昆虫類	23 ヤスマツアメンボ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	24 コオイムシ	水田等、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	25 ツノトンボ	二次草地		●	無	生息環境は保全される
	26 ヤマトシリアゲ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	27 ルーミスシジミ	自然林、二次林		●	無	生息環境は保全される
	28 オオミドリシジミ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	29 ゴマダラチョウ本土亜種	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	30 アサマイチモンジ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	31 ジャノメチョウ	二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	32 オナガアゲハ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	33 カクモンハラブトハナアブ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	34 シリプトミドリバエ	二次林、植林地	●		無	生息環境は保全される
	35 コホソクビゴミムシ	水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	36 マイマイカブリ関東・中部地方亜種	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	37 ルイスオサムシ房総半島南部亜種	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	38 イグチケブカゴミムシ	水辺植生		●	無	生息環境は保全される
	39 コハンミョウ	畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）		●	無	生息環境は保全される
	40 シマゲンゴロウ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	41 ミズスマシ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	42 クチクシヒゲムシ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
43 ヒラタクワガタ本土亜種	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される	
44 フタモンウバタマコメツキ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される	
45 ゲンジボタル	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される	
46 ヘイケボタル	水田等、水辺植生、開放水域		●	無	生息環境は保全される	

表 10.10-32(6) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
昆虫類	47 クロマトボタル	二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	48 チャイロヒメハナカミキリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	49 トゲアリ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	50 ヤマトアシナガバチ	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	51 モンスズメバチ	自然林、二次林、植林地など	●	●	無	生息環境は保全される
	52 スギハラクモバチ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	53 アオスジクモバチ	水辺植生		●	無	生息環境は保全される
クモ類	1 キノボリトタテグモ	二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
ヤスデ類	1 ゲジ	自然林、二次林、植林地など		●	無	生息環境は保全される
	2 オオゲジ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	3 ニホンメナシムカデ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	4 スジメナシムカデ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	5 ケアカムカデ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	6 カチベニジムカデ	二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	7 ヤマトタマヤスデ	自然林、二次林、植林地	●	●	無	生息環境は保全される
	8 クロヒメヤスデ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	9 アカヒラタヤスデ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	10 タマモヒラタヤスデ	自然林、二次林、植林地	●		無	生息環境は保全される
	11 ヒメヨロイヤスデ	二次林、植林地、緑の多い住宅地等		●	無	生息環境は保全される
	12 タカクワヤスデ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
陸産貝類	1 ゴマオカタニシ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	2 レンズガイ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	3 キセルガイモドキ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	4 チュウゼンジギセル	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(7) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
陸産貝類	5 キヨスミビロウドマイマイ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
	6 キヌビロウドマイマイ	自然林、二次林、植林地		●	無	生息環境は保全される
魚類	1 ニホンウナギ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	2 ギンブナ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	3 ドジョウ	水田等、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	4 ヒガシマドジョウ	水田等、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	5 ギバチ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	6 ヌマチチブ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
底生動物	1 イシマキガイ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	2 コシダカヒメモノアラガイ	水田等		●	無	生息環境は保全される
	3 ヒラマキミズマイマイ	水田等		●	無	生息環境は保全される
	4 ヤマトヌマエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	5 ミゾレヌマエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	6 ヒメヌマエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	7 トゲナシヌマエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	8 ヌマエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	9 ミナミテナガエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	10 ヒラテナガエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	11 テナガエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	12 スジエビ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	13 サワガニ	二次林、植林地、開放水域	●	●	無	生息環境は保全される
	14 アカテガニ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	15 クロベンケイガニ	二次林、植林地、水田等		●	無	生息環境は保全される
	16 ベンケイガニ	開放水域		●	無	生息環境は保全される

表 10.10-32(8) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			計画路線区域	対象事業実施区域周辺		
底生動物	17 モクズガニ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	18 カワスナガニ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	19 アサヒナカワトンボ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	20 コシボソヤンマ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	21 ヤマサナエ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	22 オナガサナエ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	23 オジロサナエ	二次林、植林地、開放水域		●	無	生息環境は保全される
	24 オオアメンボ	開放水域		●	無	生息環境は保全される
	25 コオイムシ	水田等、開放水域		●	無	生息環境は保全される

a) 哺乳類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な哺乳類の予測結果を表 10.10-33 に示します。

表 10.10-33(1) 重要な哺乳類の予測結果

1 ヒミズ		
一般生態	<p>森林、やぶ、草地に生息します。モグラ類の優勢な平地に少なく、主に昆虫類、ミミズ類、ジムカデ類、クモ類、種実を食します。落葉層、腐植層を利用し、半地下性の生活を送ります。昼夜ともに活動しますが、地上での活動は夜間に多くみられます。出産期は春で、1産 1~6子（通常は 3~4子）です。非繁殖期の行動圏の面積は 500-2,000 m²です。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 1箇所 1個体（死体） ・対象事業実施区域 : - 周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 二次林 ・対象事業実施区域 : - 周辺 ・その他 : -
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(2) 重要な哺乳類の予測結果

2 コキクガシラコウモリ	
一般生態	<p>洞穴（自然洞、廃坑、トンネル跡、防空壕跡、地下水路、建物など）をねぐらとします。飛んでいる昆虫類を食します。夜行性で、冬眠します。1産1子です。夏に数十～数百頭のメスだけの集団で出産哺育します。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :10箇所10個体（目撃） 周辺 ・その他 :1箇所1個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :植林地
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(3) 重要な哺乳類の予測結果

3 キクガシラコウモリ		
一般生態	<p>洞穴（自然洞、廃坑、トンネル跡、防空壕跡、地下水路、建物など）をねぐらとします。飛んでいる昆虫類を食します。夜行性です。冬眠します。1産1子です。夏に10～200頭のメスだけの集団で出産哺育します。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :9箇所 43個体（目撃） 周辺 ・その他 :1箇所 52個体（目撃）
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :二次林
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(4) 重要な哺乳類の予測結果

4 モモジロコウモリ		
一般生態	<p>洞穴（自然洞、廃坑、トンネル跡、防空壕跡など）をねぐらとします。飛んでいる昆虫類を食します。夜行性で、冬眠します。1産1子です。夏に雌雄の混ざった数十～数百頭の出産哺育集団をつくります。洞穴内で、多種のコウモリと混ざって集団をつくります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :7箇所7個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-33(5) 重要な哺乳類の予測結果

5 ニホンザル						
一般生態	10頭から150頭を超す群れで森林に暮らします。主に種実、葉、花、芽を食します。昼行性です。出産期は春～初夏で、1産1子です。群れの誘導域の面積は0.2～27㎡です。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :23箇所 140個体 周辺 ・その他 :1箇所 1個体 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、その他（グラウンド等）、水田等 周辺 ・その他 :二次林 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等					
	主な生息環境の改変面積：17.26ha / 1,455.96ha（改変割合：1.2%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-33(6) 重要な哺乳類の予測結果

6 ニホンリス	
一般生態	<p>自然混交林とマツ林を好みます。主に葉、芽、花、種実やキノコ類を食します。昼行性です。樹上で活動しますが、食物を貯蔵（貯食）するときなどは地上にも下ります。常緑樹の樹上に小枝・樹皮による球状の巣をつくります。出産回数は年 1～2 回で、1 産 3～6 子です。行動圏の面積はオス約 20～30ha、メス約 10ha です。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体（食痕） ・対象事業実施区域 :5 箇所 5 個体（食痕） 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積：17.26ha / 1,455.96ha（改変割合：1.2%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過し、連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(7) 重要な哺乳類の予測結果

7 ヒメネズミ	
一般生態	<p>森林に生息します。主に種子、緑色植物、果実、昆虫類を食します。夜行性で、樹上をよく利用します。1産1～9子（通常は3～5子）であり、出産期は寒冷地で4～10、11月、温暖地で10～3月です。行動圏の面積は200～1,325㎡です。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2箇所2個体（トラップ） ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :植林地 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p>
	<p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(8) 重要な哺乳類の予測結果

8 カヤネズミ		
一般生態	<p>頭胴長 50～80mm、尾長 61～83mm、体重 7～14g 程度です。低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地などのイネ科・カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに多く生息します。繁殖期は、大部分の地域では春と秋の年 2 回であります。まれに夏にも繁殖します。鳥がつくるような球形の巣をつくり、1 回に生まれる仔の数は 2～8 頭、平均 5.4 頭です。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :9 箇所 12 個体 (巣) 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次草地、畑地等、水田等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積： 2.58ha/ 51.35ha (改変割合：5.0%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-33(9) 重要な哺乳類の予測結果

9 キツネ	
一般生態	ノネズミ類、鳥類、大型のコガネムシ類など主に小型動物を捕食していますが、コクワなどの果実類なども採食します。畑のトウモロコシやニワトリ、家畜死体、人家のゴミを採食することもあります。春先、3~4月に平均4頭の仔を巣穴の中で出産し、夏までに家族群で生活します。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、水辺植生
	主な生息環境の改変面積：20.87ha / 1,349.79ha（改変割合：1.5%）
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-33(10) 重要な哺乳類の予測結果

10 ホンドテン	
一般生態	リス、ムササビ、ネズミ類や果実等を餌とし、樹上でも餌を探します。森林性で餌の豊富な良好な自然環境が広域に現存していないと生息できません。
確認状況	現地調査 ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :23箇所 40個体 (足跡、糞、無人撮影) 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査 ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地 主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-33(11) 重要な哺乳類の予測結果

11 アナグマ	
一般生態	<p>森林性で、林縁や農耕地も好みます。主にミミズ、果実、甲虫類を食します。夜行性ですが、日中も活動します。地中に長いトンネルを掘り、巣穴として利用します。春に1~4頭の仔を出産します。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所1個体(古巣穴、巣、足跡、無人撮影) ・対象事業実施区域 :14箇所19個体(古巣穴、巣、足跡、無人撮影) 周辺 ・その他 :2箇所2個体(古巣穴、巣、足跡、無人撮影)
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :緑の多い住宅地等 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :二次林、植林地
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

b) 鳥類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な鳥類の予測結果を表 10.10-34 に示します。

表 10.10-34(1) 重要な鳥類の予測結果

1 ヤマドリ		
一般生態	丘陵地から山地の林で樹林林床に生息します。主に植物の葉や種子等植物質の餌を採食します。昆虫類やカタツムリ等も捕食します。オス、メスともあまり鳴きませんが「ククク」または「コッコッコ」 と鳴きます。繁殖期は4～11月です。オスは翼を強くはばたかせて「ドドド…」と大きな音を出します。林内の岩に影や木の根元等の地表を浅く掘り巣とします。草本類の茎や葉等を産座に利用します。7～10 卵を産みます。排卵日数は約 24 日です。メスだけで抱卵及び育雛を行います。孵化し、しばらくすると親とともに雛は巣を離れます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所5 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-34(2) 重要な鳥類の予測結果

2 カイツブリ	
一般生態	<p>全長 26cm、翼開長 45cm。潜水が巧みな茶色っぽい小さな水鳥です。全国で繁殖し、主に平野部の池、湖、沼に生息し、秋冬には川の下流域でもよく見られます。餌は魚のほか水生昆虫もよく捕え、ヒシの実のような植物質の餌もとりまます。繁殖期は長期にわたり、2 月頃に幼鳥が見られることもあります。たくさん水草の葉や茎で水面に浮き巣をつくり、3~6 個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4 箇所 4 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :その他 (グラウンド等)、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(3) 重要な鳥類の予測結果

3 ミゾゴイ	
一般生態	<p>スギ、ヒノキ等の針葉樹林の密林やクリ、ナラ等の落葉広葉樹の密林に生息します。夜行性で、夕方から夜間にかけて沢筋や溪流、湖沼の縁などでサワガニ、ミミズ、魚類を捕食します。繁殖期は 4～7 月です。樹枝、樹根などを巣材として、地上から 7～20m ぐらいの樹上に皿形の巣をつくります。3 卵程度産みます。雛、親とも外敵が巣に近づくと首をまっすぐに伸ばして静止し、周辺の植生に擬態します。</p> <p>日本だけで繁殖する固有種です。冬期は南に渡り、台湾やフィリピンで越冬します。夏鳥として北海道から沖縄にかけて渡来し、本州以南の低山帯で繁殖します。南西諸島では、少数が越冬します。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 3 箇所 6 個体 ・その他 : 2 箇所 5 個体 <p>【ミゾゴイ調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年に鳴き声を 8 例、痕跡(羽毛)を 1 例確認。 ・当該地域での繁殖は確認されています。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 二次林、緑の多い住宅地等 ・その他 : 二次林 <p>【ミゾゴイ調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次林、植林地
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は現道(明かり部)から約 160m、約 750m、約 1,080m で繁殖が確認されましたが、このうち富津市地区では、営巣木の位置と計画路線区域(明かり部)との離隔が約 120m であり、工事の実施における営巣地周辺の伐採や建設機械の稼働に伴う騒音等により繁殖活動への影響が生じる可能性が考えられます。また、本種は夜行性ですが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化が生じる可能性があり、本種の生息環境は保全されないおそれがあると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>本種は現道(明かり部)から約 160m、約 750m、約 1,080m で繁殖が確認されましたが、このうち富津市地区では、営巣木の位置と計画路線区域(明かり部)との離隔が約 120m であり営巣地の一部が消失・縮小する可能性があります。周辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>また、本種は夜行性ですが、道路照明については周辺への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(4) 重要な鳥類の予測結果

4 ダイサギ						
一般生態	全長 89cm、翼開長 130cm。日本では各地で繁殖し、河川、湖沼、池、水田、湿地、河口、干潟などに生息します。水の中をゆっくり歩いて餌を探し、魚、アメリカザリガニなどをよく捕らえます。雑木林などに集団で繁殖し、サギ山と呼ばれる混合コロニーをつくります。産卵期は4～6月で2～4個の卵を産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 1箇所 1個体 ・対象事業実施区域 : 9箇所 13個体 周辺 ・その他 : - 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 二次草地（上空） ・対象事業実施区域 : 二次林、水田等、開放水域 周辺 ・その他 : - 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域					
	主な生息環境の改変面積：0.47ha / 187.42ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(5) 重要な鳥類の予測結果

5 チュウサギ	
一般生態	<p>草地、水田、湖沼、河川等の湿地に生息します。主にカエル類やトカゲ類、魚類、昆虫を捕食します。繁殖期は 4～9 月です。一夫一妻です。マツ林や樹木林等の樹上に営巣します。枯枝を利用し、粗雑な皿形の巣をつくります。3～5 卵を産みます。産卵した順に抱卵を始めるため、非同時期に孵化が起こります。チュウサギはアマサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギなどの他のサギ類と混生して集団繁殖しコロニーを形成します。夏から秋にかけ集団でねぐらをとることがあります。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1 箇所 1 個体 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 ・その他 :ー
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.47ha / 187.42ha（改変割合：0.3%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(6) 重要な鳥類の予測結果

6 コサギ						
一般生態	全長 61cm、翼開長 98cm。留鳥で、河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などの水辺に広く生息します。魚などを嘴ではさみとり、餌とします。サギ山で集団繁殖し、産卵期は4～8月で3～5個の卵を産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :6箇所8個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域					
	主な生息環境の改変面積：0.47ha / 187.42ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(7) 重要な鳥類の予測結果

7 ヒクイナ		
一般生態	水田・湖沼畔などの湿地に生息します。水生植物の茂みの中で生活し、開けた場所に姿を現すことは少ないです。昆虫類や植物の種子を採食します。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所 4 個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境： 水田等、水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.47ha/ 187.42ha (改変割合：0.3%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(8) 重要な鳥類の予測結果

8 バン		
一般生態	成鳥の全長は約 32cm、翼開長約 52cm。夏鳥として渡来し、湖沼、川、水田等を好み、開けた場所にもよく出てきて活動します。地上や浅瀬を歩いて、植物の実や昆虫類等を餌として食べる習性があります。年に 2~3 回繁殖し、水辺の草やヨシ原等に枯草を積み上げて巣をつくり、5~12 個の卵を産みます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2 箇所 2 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 187.42ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(9) 重要な鳥類の予測結果

9 オオバン		
一般生態	成鳥の全長は約 39cm、翼開長約 74cm。関東地方以北の湖沼や川、池等で繁殖し、平地から低山の湖沼、池、河川、ハス田等に生息します。泳ぎながら水草や水生昆虫等を食べ、時々水に潜って水底の水草をとって食べたりもします。ヨシ原や草むらの中に枯草を積み上げた巣をつくり、5～10 個の卵を産みます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2 箇所 2 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 187.42ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(10) 重要な鳥類の予測結果

10 ホトトギス		
一般生態	<p>全長 28cm、翼開長 46cm。夏鳥として渡来します。生息環境は主な托卵相手であるウグイスと一致し、低山から山地の笹藪のある林に生息します。単独で行動することが多く、主に樹上で昆虫類を捕らえます。托卵性を持ち、雌はウグイスの巣から1卵をくわえ取り、ウグイスの卵によく似たチョコレート色の卵を1つ産み込みます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :12箇所 12個体 周辺 ・その他 :1箇所 1個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 ・対象事業実施区域 :ー 周辺 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 ・その他 :水田等
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：17.26ha/ 1,455.96ha（改変割合：1.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-34(11) 重要な鳥類の予測結果

11 アマツバメ		
一般生態		高山や海岸において集団で繁殖します。繁殖後は南に渡り、越冬します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所8個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(12) 重要な鳥類の予測結果

12 ヒメアマツバメ						
一般生態	ビルや漁港等の建造物に営巣します。コシアカツバメやイワツバメ等の巣を使い繁殖することも多くあります。飛びながら集めた羽毛や草の茎等を、唾液を使い巣に張り付けます。繁殖地周辺で越冬します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所7個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、水辺植生					
	主な生息環境の改変面積： 12.45ha / 597.66ha (改変割合：2.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(13) 重要な鳥類の予測結果

13 イカルチドリ		
一般生態		河川敷等で繁殖します。河川敷、水田や湿地で採食します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/168.42ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(14) 重要な鳥類の予測結果

14 コチドリ		
一般生態	全長 16cm、翼開長 35cm。夏鳥として渡来します。川の中～下流の砂礫の河原を主な生息場所とし、昆虫などの小動物を餌とします。巣は開けた砂地や砂礫地の地面につくられます。産卵期は4～7月で、4個程度の卵を産みます。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所3個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/168.42ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(15) 重要な鳥類の予測結果

15 クサシギ						
一般生態	河川、水田や蓮田等の湿地で採食します。干潟等海岸では少なく、内陸の湿地で越冬します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田、開放水域 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生					
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/168.42ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(16) 重要な鳥類の予測結果

16 イソシギ						
一般生態	主に河川中流域の砂礫の河原に生息します。水辺から少し離れたまばらに草の生えた地上に営巣します。河川では中州や河口域、湖岸で見られます。海岸や埋立地でも見られます。水際や浅瀬でユスリカ等の水生昆虫を採食します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所6個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等、開放水域 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生					
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/168.42ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(17) 重要な鳥類の予測結果

17 ミサゴ	
一般生態	海岸・湖沼・河口等に生息します。上空から水中に突入し、足で魚を捕らえます。海岸の岩棚やアカマツ等の樹上に小枝を大量に積み上げて営巣します。
確認状況	<p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所3個体 <p>周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年に13例確認。 ・令和4年に44例確認。 ・令和5年に35例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。
確認地点の生息環境	<p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、水辺植生 <p>周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】 二次林、植林地、開放水域</p>
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(18) 重要な鳥類の予測結果

18 ハチクマ	
一般生態	<p>国内では夏鳥であり、主に本州中部以北で繁殖します。</p> <p>標高 1,500m 以下の低山や丘陵地の山林に生息し、クロスズメバチ等のハチ類の幼虫を餌とします。ほかにカエルやヘビ、鳥等も餌とします。繁殖期は5月下旬～9月頃で、大木の枝上に大きな皿状の巣をつくり営巣します。産卵は6月頃で、2～3卵を産み雌雄交代で抱卵し、約5週間で孵化します。雛は、5～6週間の育雛を経て巣立ちます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :ー ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年に39例確認。 ・令和4年に93例確認。 ・令和5年に58例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されています。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :ー ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】 二次林、植林地</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積：13.05ha/1,187.63ha（改変割合：1.1%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約770mで繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣木及び高利用域で改変はありません。また、営巣地の位置は、計画路線区域（明かり部）から約720m離れていることから、工事の実施における建設機械の稼働に伴う騒音等による繁殖活動への影響は生じないものと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約770mで繁殖が確認されましたが、営巣地及び高利用域で改変はありません。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 770m

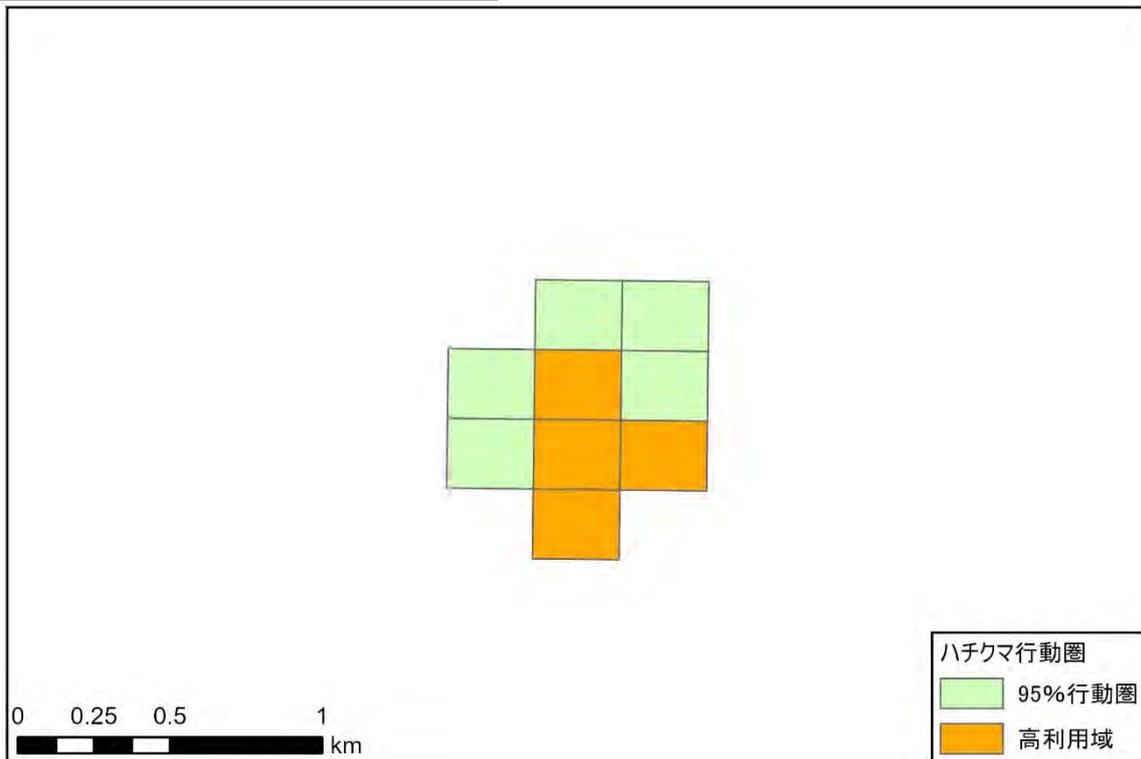


図 10.10.1-3 ハチクマの行動圏解析結果

表 10.10-34(19) 重要な鳥類の予測結果

19 ツミ	
一般生態	<p>全長は雄 27 cm、雌 30cm。翼開長約 51～63cm。夏鳥または留鳥として九州以北に分布し、平地から亜高山帯の林に生息します。林内や林縁、草地等で主に小鳥類を捕食しますが、昆虫類や小型ネズミ類等も捕らえます。針葉樹や広葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくり、4 月中旬から 5 月に 3～5 卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・対象事業実施区域 : - 周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年に 4 例確認。 ・令和 4 年に 5 例確認。 ・令和 5 年に 8 例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・対象事業実施区域 : - 周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】 二次林、植林地</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積： 25.08ha/ 1,616.87ha (改変割合： 1.6%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (20) 重要な鳥類の予測結果

20 ハイタカ	
一般生態	<p>全長は雄 32 cm、雌 39cm。翼開長約 61～79cm。亜高山から平地の林に生息し、本州以北で繁殖します。留鳥ですが、一部は冬季に暖地へ移動します。餌としてツグミ位までの小鳥を狩りますが、ネズミやリス等を捕らえることもあります。針葉樹の葉が密生した枝上に枯れ枝を積み重ね皿型の巣をつくり、5月頃に3～5卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所3個体 周辺 ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年は確認なし。 ・令和4年に15例確認。 ・令和5年に29例確認。 ・当該地域での繁殖は確認されていません。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】 二次林、植林地</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p>
	<p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(21) 重要な鳥類の予測結果

21 オオタカ	
一般生態	<p>全長は雄 50 cm、雌 56cm。翼開長 106～131cm。亜高山から平地の林に留鳥として生息しますが、しばしば獲物を求めて農耕地や水辺など開けた場所へも出てきます。獲物は主に小鳥や、中～大形の鳥です。林内の大木の枝上に枯れ枝を積んで皿型の巣をつくり、4月中旬～5月上旬に2～3個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :4箇所4個体 ・その他 :— <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年は37例確認。 ・令和4年は35例確認。 ・令和5年に49例確認。 ・当該地域での繁殖が確認されています。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :植林地、緑の多い住宅地等 ・その他 :— <p>【猛禽類調査】 :二次林、植林地、二次草地、畑地等</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他(グラウンド等)</p>
	<p>主な生息環境の改変面積：25.15ha/ 1,677.41ha (改変割合：1.5%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は現道(明かり部)から約300m、約740m、約1,280mで繁殖が確認されましたが、このうち南房総市地区の繁殖つがいでは、営巣木の位置と計画路線区域(明かり部)との離隔が約310mであり、営巣木及び営巣中心域で改変はありませんが、工事の実施における営巣中心域直近での伐採や建設機械の稼働に伴う騒音等により繁殖活動への影響が生じる可能性が考えられます。その他の営巣地の位置は、それぞれ計画路線区域(明かり部)から約730m、約1,250mと離れていることから、工事の実施における建設機械の稼働に伴う騒音等による繁殖活動への影響は生じないものと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化が生じる可能性があり、本種の生息環境は保全されないおそれがあると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛行空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>本種は現道(明かり部)から約300m、約740m、約1,280mで繁殖が確認されましたが、南房総市地区の繁殖つがいは、営巣木の位置と計画路線区域(明かり部)との離隔が約310mであり、道路の存在・供用により高利用域の一部が消失・縮小しますが、残存する面積と比較して消失・縮小する面積はわずかであり、また、周辺には同様の環境が広く残されます。その他の営巣地は、営巣中心域及び高利用域で改変はありません。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 740m

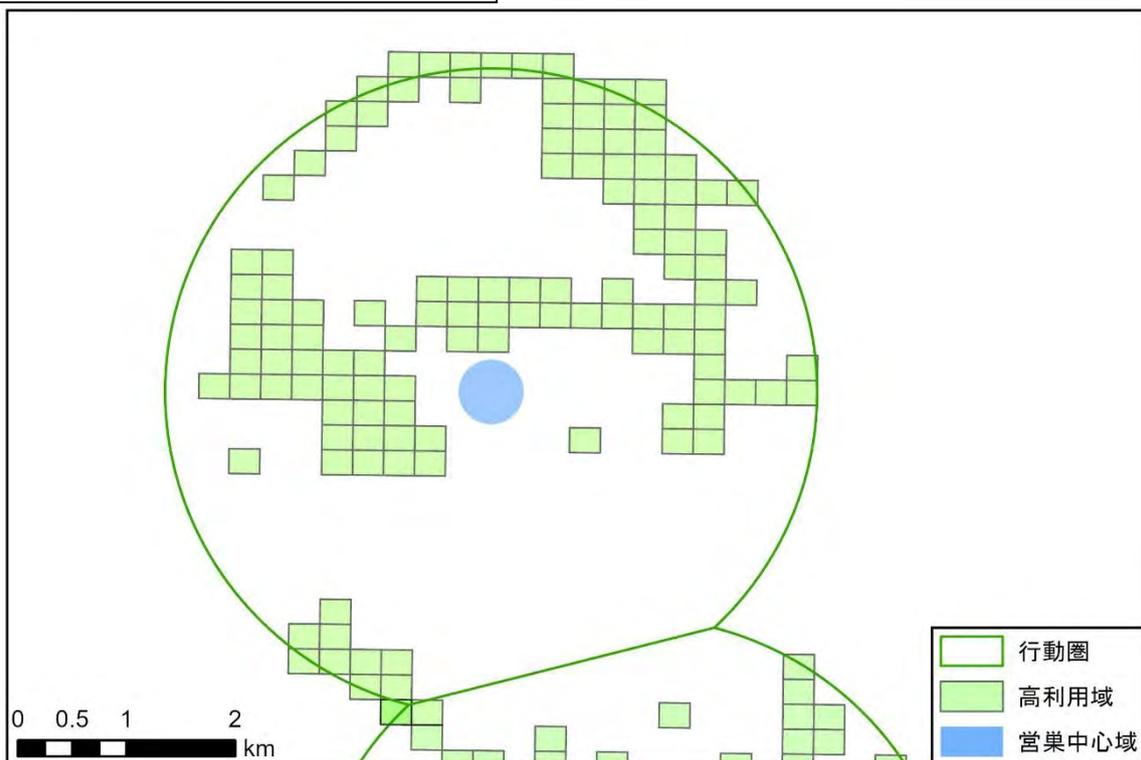


図 10.10.1-4(1) オオタカの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 1,280m

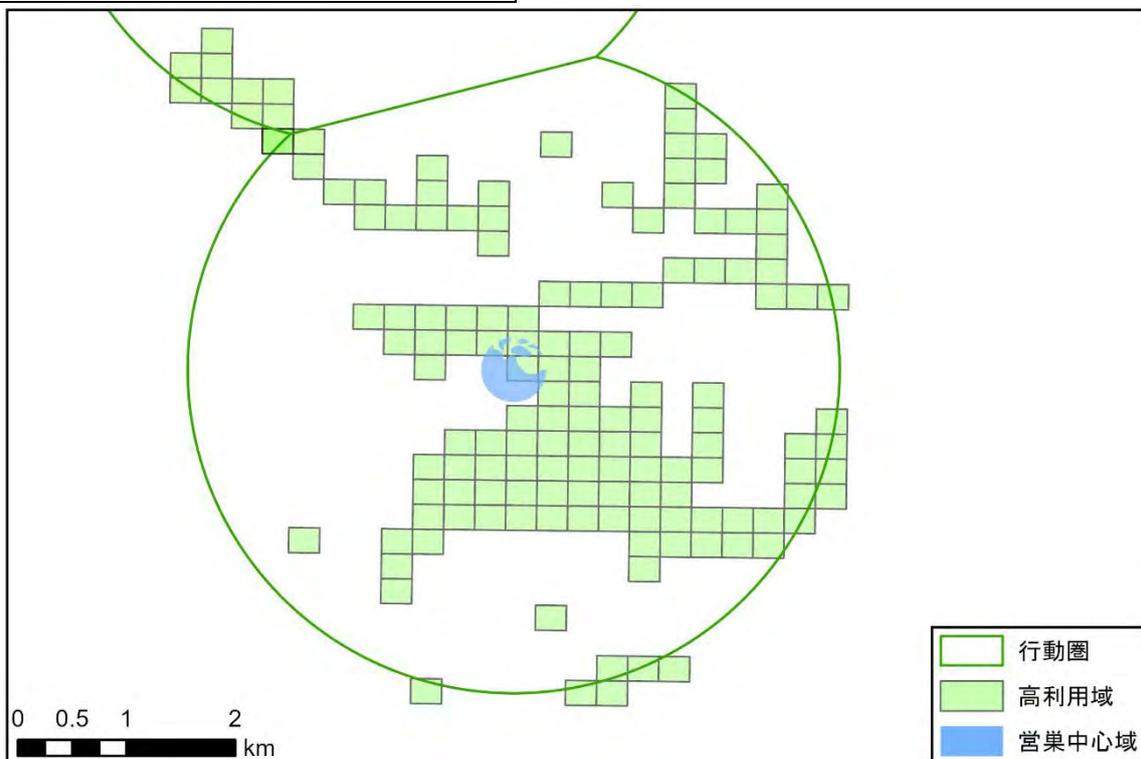


図 10.10.1-4(2) オオタカの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 300m

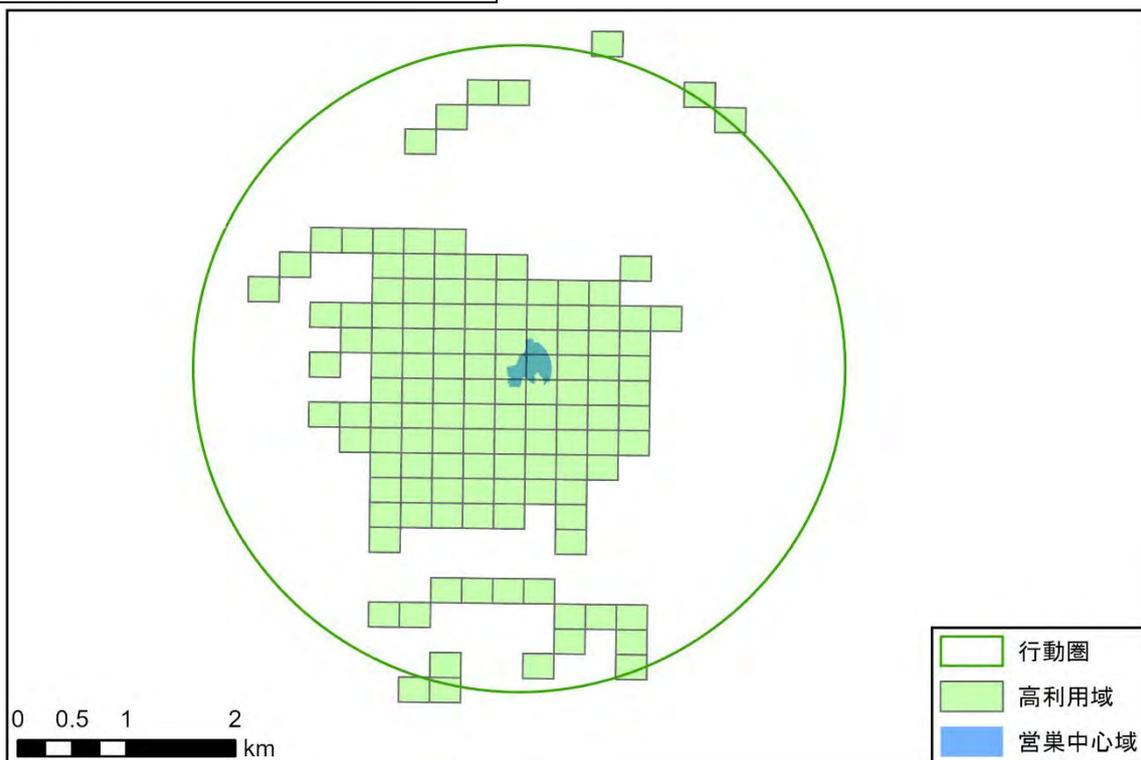


図 10.10.1-4(3) オオタカの行動圏解析結果

表 10.10-34(22) 重要な鳥類の予測結果

22 サシバ	
一般生態	<p>全長は雄 47 cm、雌 51cm。翼開長 103～115cm。夏鳥として渡来します。低山から丘陵の林に棲み、水田の周辺などの開けた場所で餌を捕ります。ヘビ、トカゲ、カエル、昆虫を狩りますがネズミや小鳥を捕まえることもあります。林内のマツやスギの枝上に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくり、5 月頃に 2～4 個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :12 箇所 13 個体 ・その他 :1 箇所 1 個体 <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年に 522 例確認。 ・令和 4 年に 442 例確認。 ・令和 5 年に 533 例確認。 ・当該地域での繁殖が確認されています。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :— ・周辺 :二次林、植林地 ・その他 :緑の多い住宅地等 <p>【猛禽類調査】 : 二次林、植林地、畑地等、水田等、緑の多い住宅地等</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、水田等</p> <p>主な生息環境の改変面積： 13.48ha/ 1,354.80ha (改変割合：1.0%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約 70m～1,250m で繁殖が確認されましたが、富津市地区の 1 つがい、鋸南町地区の 3 つがい、南房総市地区の 2 つがいでは、営巣木の改変はありませんが営巣中心域の改変が生じます。営巣木の位置と計画路線区域（明かり部）との離隔が約 70m～200m であり、工事の実施における営巣中心域での伐採や建設機械の稼働に伴う騒音等により繁殖活動への影響が生じると考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化が生じると考えられ、本種の生息環境は保全されないと予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛行空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約 70m～1,250m で繁殖が確認されましたが、富津市地区の 1 つがい、鋸南町地区の 3 つがい、南房総市地区の 2 つがいにおいて、営巣木の改変はありませんが営巣中心域及び高利用域の一部で改変が生じ、富津市地区の 2 つがい、南房総市地区の 1 つがいにおいて、高利用域の一部で改変が生じますが、残存する面積と比較して消失・縮小する面積はわずかであり、また、周辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 390～1,210m

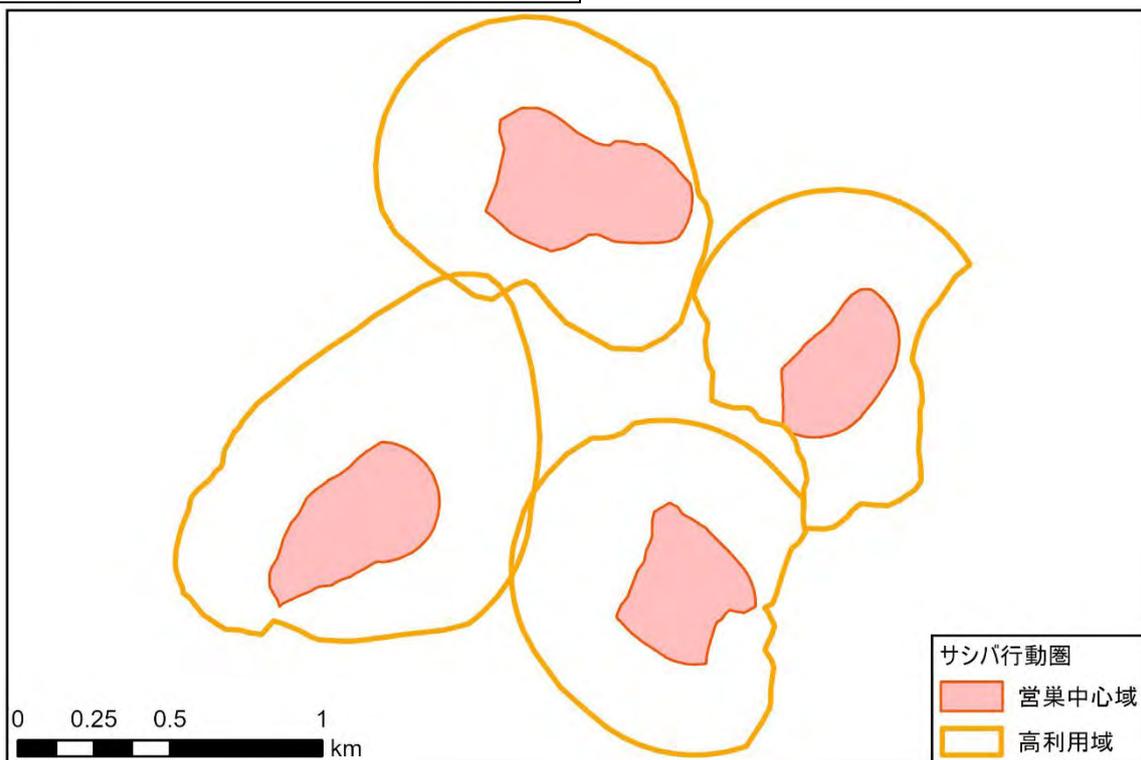


図 10.10.1-5(1) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 170～690m



図 10.10.1-5(2) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 80～850m



図 10.10.1-5(3) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 790～970m

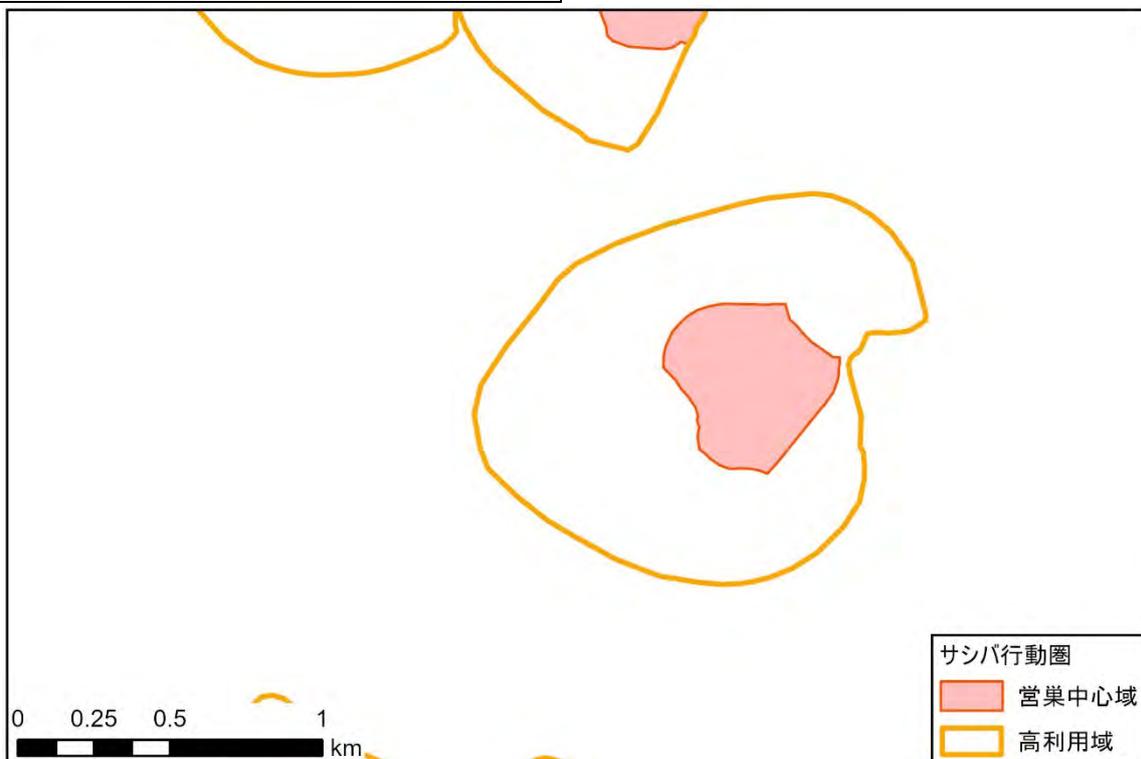


図 10.10.1-5(4) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約70~100m



図 10.10.1-5(5) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約70~1,040m

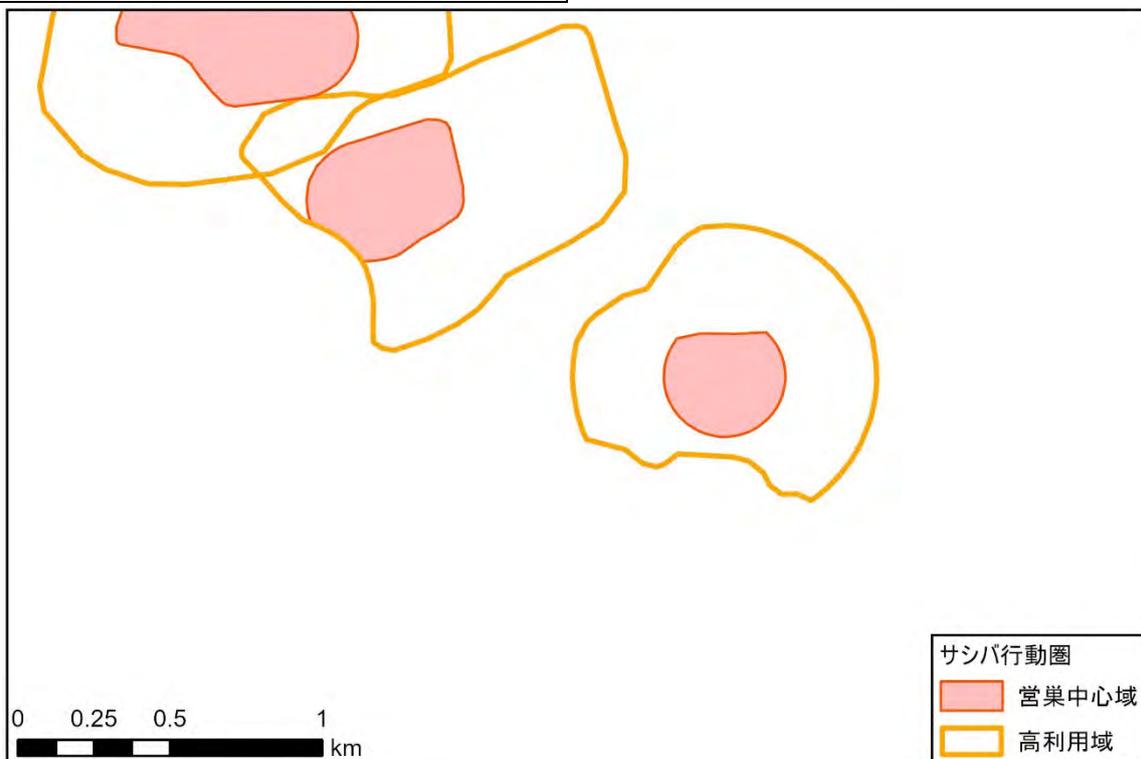


図 10.10.1-5(6) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 1,020～1,250m



図 10.10.1-5(7) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 240～760m

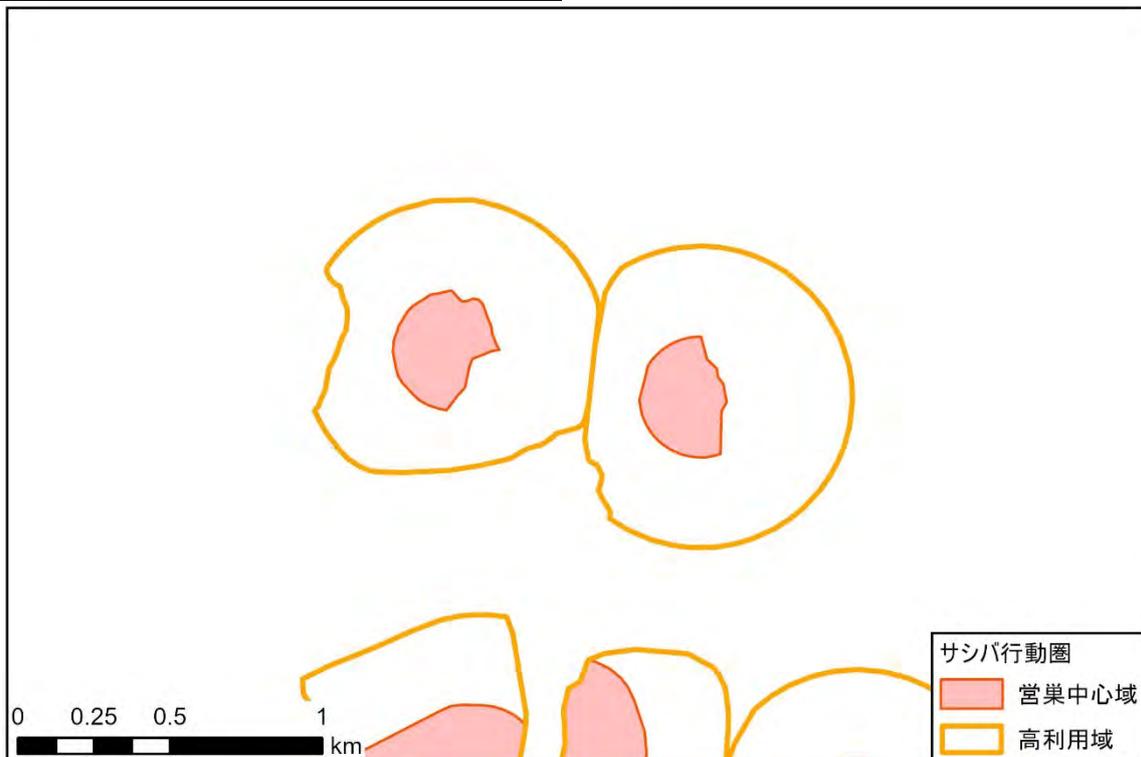


図 10.10.1-5(8) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 130～1,150m

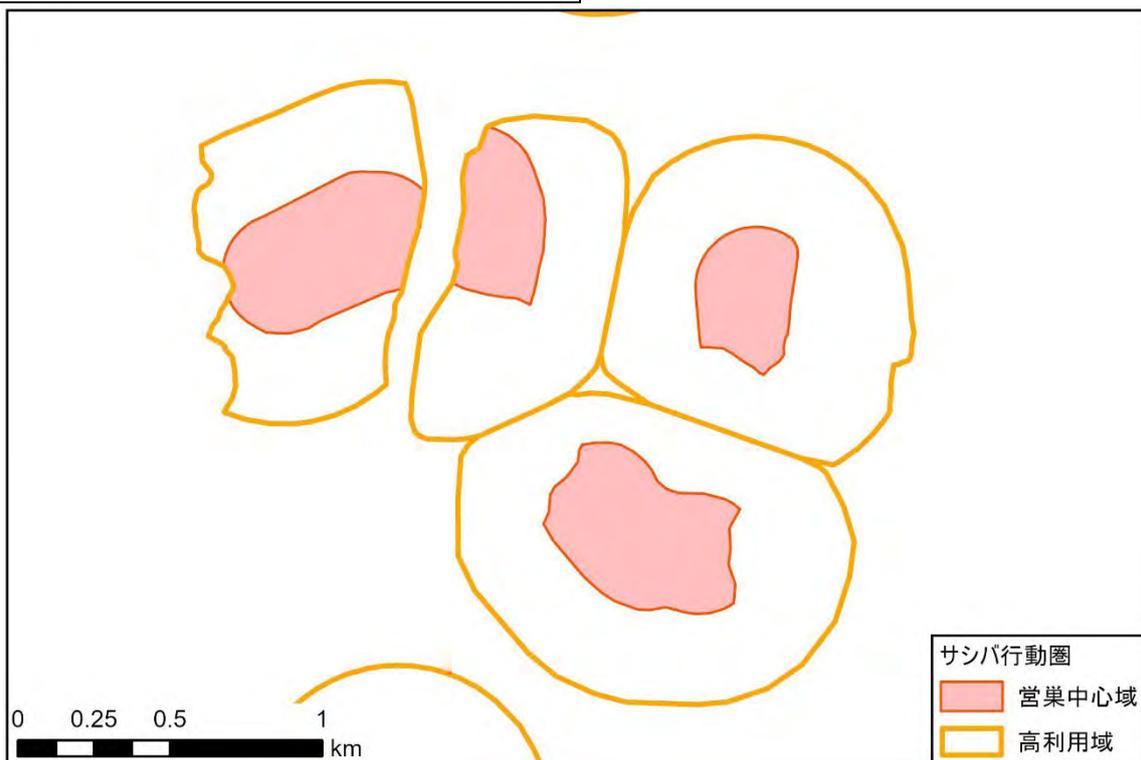


図 10.10.1-5(9) サシバの行動圏解析結果

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 350～920m

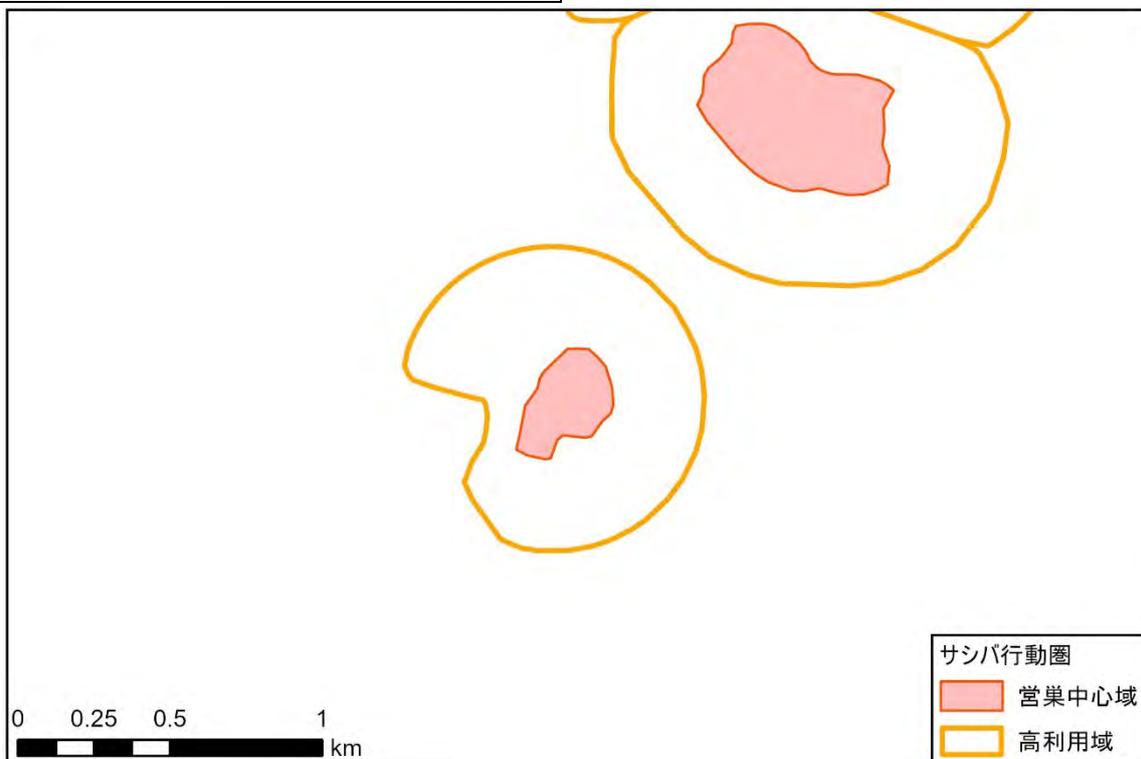


図 10.10.1-5(10) サシバの行動圏解析結果

表 10.10-34(23) 重要な鳥類の予測結果

23 ノスリ	
一般生態	<p>全長は雄 52 cm、雌 57cm。翼開長約 122～137cm。亜高山（冬季は低山）から平地の林に生息します。北海道から四国にかけて繁殖し、留鳥といえますが、寒くなると寒地や高地のものの一部は暖地・低地へ移動します。餌はネズミ等の小型哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥等を食べます。林内の大木の枝の股に枯れ枝を積み重ねて皿型の巣をつくり、5月頃に2～3卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :13箇所 14個体 周辺 ・その他 :1箇所 1個体 <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年に24例確認。 ・令和4年に288例確認。 ・令和5年に78例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 ・対象事業実施区域 :— 周辺 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、水田等 ・その他 :二次林 <p>【猛禽類調査】 :二次林、植林地、二次草地、緑の多い住宅地等</p>
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積：25.08ha/1616.87ha（改変割合：1.6%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (24) 重要な鳥類の予測結果

24 フクロウ	
一般生態	<p>全長 50 cm。平地から山地の林に留鳥として生息します。夜行性で、ネズミを主食とし、小鳥やイタチ、時には昆虫や小動物も食べます。社寺の林等の大木の樹洞に巣をつくり、3~4 月頃に 1~5 個の卵を産みます。巣は地上や廃屋、カラスやタカのご巣などにもつくります。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :16 箇所 17 個体 周辺 ・その他 :14 箇所 19 個体 <p>【猛禽類調査・フクロウ調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年に 2 例確認。 ・令和 4 年に 9 例確認。 ・令和 5 年に 16 例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。ただし、営巣木は特定されていませんが、全域で鳴き声が確認されていることから繁殖している可能性が高いと考えられます。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、畑地等、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :植林地 <p>【猛禽類調査・フクロウ調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次林、植林地
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積：25.08ha / 1,616.87ha（改変割合：1.6%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は対象事業実施区域周辺で営巣木が確認されていないが、夜間調査において対象事業実施区域周辺の全域で鳴き声が確認されていることから、対象事業実施区域周辺で繁殖している可能性が高いと考えられます。このため、工事の実施における営巣地での伐採や建設機械の稼働に伴う騒音等により繁殖活動への影響が生じる可能性が考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化が生じる可能性があるため、本種の生息環境は保全されないおそれがあると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (25) 重要な鳥類の予測結果

25 カワセミ	
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 25cm。全国に分布し繁殖します。平地から山地の川、池、湖などの水辺に生息し、水中にダイビングして魚を捕らえます。水辺の土の崖に嘴を使って 50~100cm 位の深さの巣穴を掘ります。産卵期は 3~8 月で、4~7 個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 :16 箇所 16 個体 周辺 ・その他 :2 箇所 2 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :水辺 ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 :水田、開放水域
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水辺植生、開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 20.25ha (改変割合：0.2%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(26) 重要な鳥類の予測結果

26 ハヤブサ	
一般生態	<p>海岸・河川敷・湖沼・水田等の開けた場所に生息します。小型から中型の鳥類を空中で捕獲します。主に海岸の断崖の岩棚で繁殖します。</p> <p>南極大陸を除く世界中に広く分布します。高緯度地方で繁殖する個体は、冬期、南に渡り、温暖な地域で越冬します。国内では全国的に見られます。ただし、繁殖個体数は、極めて少ないです。北海道から九州の海岸で局所的に繁殖します。越冬期、全国で見られます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年に37例確認。 ・令和4年に54例確認。 ・令和5年に51例確認。 ・当該地域での繁殖が確認されています。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :自然林、二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、水田等、水辺植生</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.43ha/190.81ha（改変割合：0.2%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約370mで繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣木及び高利用域で改変はありません。また、営巣地の位置は、計画路線区域（明かり部）から約370m離れていることから、建設機械の稼働に伴う騒音等による繁殖活動への影響は生じないものと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>本種は現道（明かり部）から約370mで繁殖が確認されましたが、営巣地及び高利用域で改変はありません。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

営巣地の位置：現道（明かり部）から約 370m

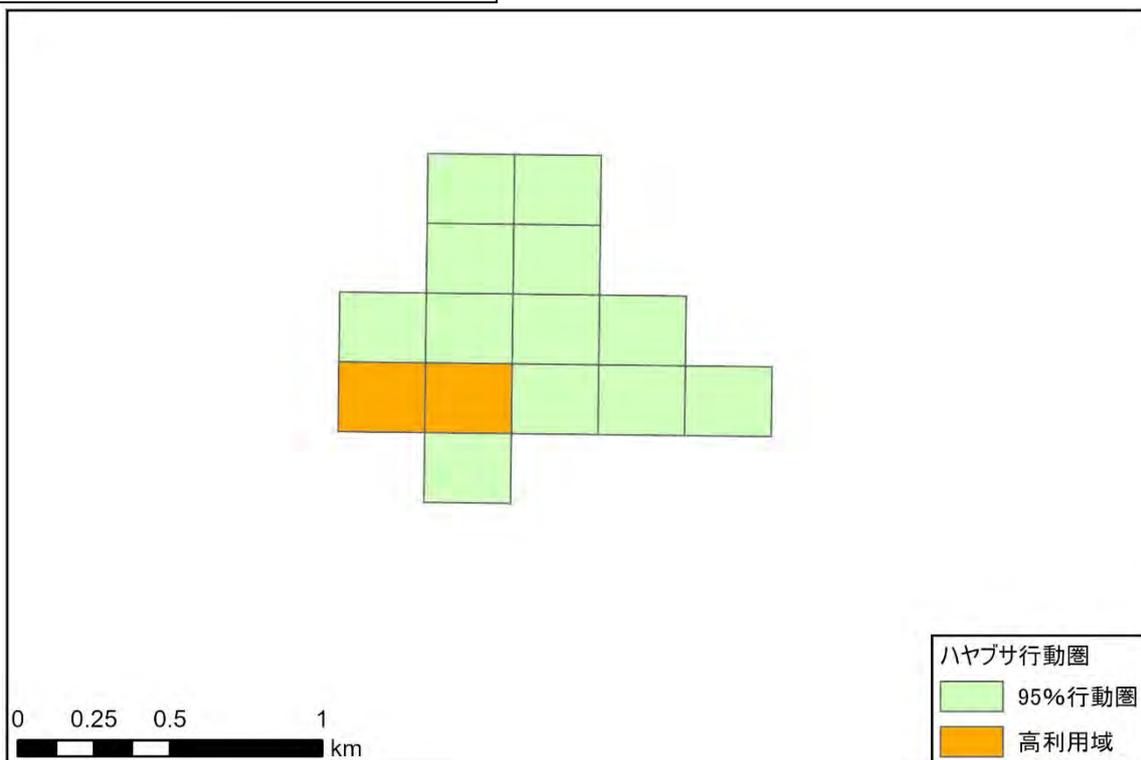


図 10.10.1-6 ハヤブサの行動圏解析結果

表 10.10-34(27) 重要な鳥類の予測結果

27 サンコウチョウ	
一般生態	常緑広葉樹林やスギ林等、暗い林内に生息します。昆虫類を枝から飛びついて捕食します。クモの糸等を用い、細い枝にカップ状の巣をつくります。滅多に地上に降りません。夏鳥です。本州以南で繁殖します。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 :3 箇所 3 個体 周辺 ・その他 :1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :植林地 ・対象事業実施区域 :植林地 周辺 ・その他 :植林地
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-34 (28) 重要な鳥類の予測結果

28 カケス		
一般生態	成鳥の全長は約 33cm、翼開長約 50cm です。全国の丘陵地から山地の様々な森林に広く生息します。枝から枝へ飛び移りながら昆虫等の小動物を捕えますが、小鳥の巣から卵や雛をとることもあります。また、秋になるとドングリを好んで食べます。産卵期は 4～6 月で、針葉樹の枝の上に小枝や根で椀型の巣をつくり、4～8 個の卵を産みます。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :13 箇所 24 個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(29) 重要な鳥類の予測結果

29 ヒバリ		
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 32cm。全国で繁殖します。畑、牧場、草原、河原、埋立地などで見られますが、丈の低い草がまばらに生えて、露出した地面の多いところを好みます。採餌は地上を歩きながら行い、草の実や昆虫を主な餌とします。草の根元などの地上に、浅い穴を掘って枯れ草を材料に椀型の巣をつくります。産卵期は3～7月で、3～5個の卵を産みます。</p>	
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	<p>本種の主な生息環境：二次草地、畑地等、その他（グラウンド等）</p>	
	<p>主な生息環境の改変面積：7.88ha / 221.45ha（改変割合：3.6%）</p>	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (30) 重要な鳥類の予測結果

30 コシアカツバメ		
一般生態		ツバメより尾羽が長く、腰は淡い褐色の羽色を示します。人家の軒下やビルに集団で営巣します。ツバメの巣と異なるとっくり状の巣をつくります。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所 11 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）	
	主な生息環境の改変面積：12.09ha / 489.78ha（改変割合：2.5%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-34(31) 重要な鳥類の予測結果

31 ヤブサメ						
一般生態	「シシシシシーー」とだんだん早くなる高い声で囀ります。よく茂った二次林やスギ林等の暗い森林で生活します。ササ類等の下層植生の多い場所で活動します。開けた場所に出ることはほとんどありません。丘陵地から低山で繁殖します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :12箇所 17個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :自然林、二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; vertical-align: top;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="vertical-align: top;">道路の存在</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34(32) 重要な鳥類の予測結果

32 センダイムシクイ		
一般生態		メボソムシクイやエゾムシクイに比べ、標高の低い地域で繁殖します。本州では標高約1,000mまでの山地や丘陵地の落葉広葉樹林で繁殖します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 2箇所 4 個体 ・対象事業実施区域 : 7箇所 8 個体 周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 二次林 ・対象事業実施区域 : 自然林、二次林、植林地 周辺 ・その他 : -
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(33) 重要な鳥類の予測結果

33 オオヨシキリ	
一般生態	<p>全長 18cm、翼開長 26cm。夏鳥として渡来し繁殖します。川や湖沼の岸、休耕田などのヨシの草原に主に生息し、特に水中からヨシが生えているような場所を好みます。茎から茎へと移動しながら昆虫を捕えますが、空中へ飛び出して飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもあります。巣は数本のヨシの茎にまたがって作られ、イネ科植物の葉や茎を主材料にコップ形をしています。産卵期は5～8月で、4～6個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水辺植生</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.00ha/ 1.25ha（改変割合：0.0%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (34) 重要な鳥類の予測結果

34 ミソサザイ	
一般生態	<p>全長 11 cm。山地の沢沿いの林や亜高山帯の針葉樹林の地表にさまざまな凹凸があったり、蘚苔類が生えていたりするような林を好んで生息します。地上近くで行動し、岩や倒木のすき間、崖に現れた根の間などを忙しく移動して、昆虫、クモなどを探してついでに採ります。巣は蘚苔類を主とした球形で木の根元、崖のすき間などにはめ込むようにつくりまします。産卵期は 5～8 月で、4～6 個の卵を産みまします。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :3 箇所 3 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (35) 重要な鳥類の予測結果

35 キビタキ	
一般生態	<p>全長 14cm、翼開長 22cm。夏鳥として渡来し、丘陵や山地で繁殖します。広葉樹林の中ほどの枝にとまり、林の中を飛ぶ虫を狙います。樹洞や茂った葉、つるの間などに、枯れ葉や細根などで椀形の巣をつくります。産卵期は5~7月で、4~5個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :32箇所 39個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :自然林、二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p>
	<p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (36) 重要な鳥類の予測結果

36 オオルリ		
一般生態	<p>渓谷、沢筋の林に生息します。低山帯から亜高山の谷沿いの落葉広葉樹林で繁殖します。目立つ梢にとまり、長時間囀ります。姿、声ともに美しいことから、全国各地で飼養目的の密猟が絶えません。コケを多用した椀型の巣を土崖の窪みにつくります。建造物の隙間に営巣することもあります。</p>	
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :15箇所 19 個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :自然林、二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p> <p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)</p>	
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34 (37) 重要な鳥類の予測結果

37 キセキレイ		
一般生態	<p>体長 20cm ほどです。九州以北のほぼ全国で繁殖します。夏季は溪流沿いなどに好んで生息します。冬季には市街地の水辺でも観察されます。食性は動物食で、水中や岩陰などに棲む昆虫類やクモ類、飛んでいる昆虫類を捕らえます。夏季はつがいで縄張り分散し、崖のくぼみ、枝の茂み、人家の軒下などに、皿状の巣をつくります。産卵期は4～7月で、4～6個の卵を産みます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :4箇所4個体 ・対象事業実施区域 :27箇所37個体 周辺 ・その他 :1箇所1個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :畑地等 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他 周辺 (グラウンド等)、開放水域 ・その他 :植林地
影響予測	本種の主な生息環境：二次林、植林地、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha/ 1,166.49ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-34 (38) 重要な鳥類の予測結果

38 イカル						
一般生態	主に山地の落葉広葉樹に生息します。大きな嘴で植物の種子を割り食べます。繁殖期、数つがいのなわばりが隣接するルーズなコロニーを形成します。非繁殖期には、数羽から数十羽の群れで生活します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積：13.05ha/ 1,187.63ha（改変割合：1.1%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td style="vertical-align: top;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="vertical-align: top;">道路の存在</td> <td style="vertical-align: top;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-34 (39) 重要な鳥類の予測結果

39 ホオジロ	
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 24cm。留鳥として全国の平地から山地の明るい林の縁、ススキ草原、低木のある河原などに生息します。地上を跳ね歩いて、地表に落ちているイネ科植物などの小さな実を拾って食べますが、繁殖期には動物食になります。低木の枝の上または地上にイネ科植物の茎や細根などで椀型の巣をつくりません。産卵期は4～7月で、3～5個の卵を産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 8箇所 11個体 ・対象事業実施区域 : 93箇所 130個体 周辺 ・その他 : 3箇所 3個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 二次林、植林地、二次草地、緑の多い住宅地等 ・対象事業実施区域 : 二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）、水田等 ・その他 : 水田等
影響予測	<p>本種の主な生息環境：二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水辺植生</p> <p>主な生息環境の改変面積：25.08ha/ 1,595.73ha（改変割合：1.6%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-34(40) 重要な鳥類の予測結果

40 クロジ		
一般生態	<p>全長 17 cmとホオジロ類の中では大きいです。本州中部以北から北海道の山地で繁殖して、冬期は暖地の丘陵地等へ移動します。越冬期に照葉樹やスギ林の林床で観察され、林床や藪等で種子をついばむ習性があります。繁殖期は 4～7 月で、山地のササの茂った針葉樹林内で繁殖し、5 個程度の卵を産みます。</p>	
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1 箇所 1 個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p>	
	<p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)</p>	
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の橋梁部及び土工部は路面高及び幅員が既設道路や周辺の建物、樹林の高さと比較して突出した高さ及び幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

c) 爬虫類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な爬虫類の予測結果を表 10. 10-35 に示します。

表 10. 10-35(1) 重要な爬虫類の予測結果

1 ニホンイシガメ		
一般生態	甲羅はやや偏平で幼体は背甲に3本の隆条をもちますが、成体では中央に明瞭な1本が残るだけとなります。背甲の後縁が鋸歯状になっていますが、年をとるにつれ目立たなくなります。河川の上・中流域、山間や山際の池や沼、湿地に生息します。雑食性で、5月から8月に1~2回産卵します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・対象事業実施区域 : 1箇所1個体 周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・対象事業実施区域 : 開放水域 周辺 ・その他 : -
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-35(2) 重要な爬虫類の予測結果

2 ニホンヤモリ		
一般生態	<p>全長 100～140mm、頭胴長 50～72mm。人間とうまく共存しており、民家や寺院などの建物でよく見かけ、野外で見ることは稀です。都市部のマンションなどで見ることもあります。夜間、灯火の周辺に出没し、集光性の昆虫やクモなどを食べます。5月上旬～8月上旬、戸袋や壁の隙間、天井裏などに2～3個の卵を年に1～2回産卵します。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所7個体(目撃) 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積： 4.21ha / 268.33ha (改変割合：1.6%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-35(3) 重要な爬虫類の予測結果

3 ヒガシニホントカゲ		
一般生態	<p>全長 200~250mm。体側に黒褐色の 1 縦条が見られます。庭、畑、道路脇の斜面、林縁部、石垣や山道に棲み、ミミズ、クモ、ワラジムシ、コオロギを主に食べます。5 月下旬~6 月上旬、石の下や土手の斜面の巣穴に鶏卵型の卵を 5~16 個産みます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :93 箇所 98 個体 (死体、捕獲、目撃) 周辺 ・その他 :3 箇所 3 個体 (死体、捕獲、目撃)
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 等、その他 (グラウンド等)、水田等、開放水域 ・その他 :二次林、緑の多い住宅地等、水田等、
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他 (グラウンド等)</p>	
	<p>主な生息環境の改変面積： 25.15ha/ 1,677.41ha (改変割合：1.5%)</p>	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-35(4) 重要な爬虫類の予測結果

4 ニホンカナヘビ		
一般生態	全長 160~270mm。平地から低山地の藪や草地、庭先などに棲み、主に昆虫やクモを食べます。芝生や草の根元の土中に1度に2~6個の鶏卵型の卵を年1~6回産卵します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :96箇所 107個体 (目撃) 周辺 ・その他 :4箇所 4個体 (目撃)
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 等、水田等、開放水域 ・その他 :植林地、二次草地、緑の多い住宅地等
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他 (グラウンド等)	
	主な生息環境の改変面積： 25.15ha / 1,677.41ha (改変割合：1.5%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-35(5) 重要な爬虫類の予測結果

5 シマヘビ						
一般生態	全長 80~150cm。開けた平地から山地の水田、山道、草原、畑、民家までさまざまな場所に生息し、日の当たる石垣や草原、道路脇などで目にする機会が多くあります。昼間にカエルをはじめトカゲ、ネズミ、ヘビなどさまざまな動物を捕えて食べます。7~8月に4~16個の卵を産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :3箇所3個体(目撃) 周辺 ・その他 :1箇所1個体(死体) 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :畑地等、緑の多い住宅地等、その他(グラウンド等) 周辺 ・その他 :畑地等 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他(グラウンド等)、水田等、水辺植生					
	主な生息環境の改変面積：25.58ha/1,845.83ha(改変割合：1.4%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-35(6) 重要な爬虫類の予測結果

6 アオダイショウ						
一般生態	全長 110~200cm。山地の森林から平野部の人家まで、さまざまな環境に生息します。地上より樹上で見つかることが多く、鳥や鳥の卵も好みます。7~8月に4~17個の卵を産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所1個体(目撃) ・対象事業実施区域 :4箇所4個体(死体、捕獲) 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、その他(グラウンド等) 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等					
	主な生息環境の改変面積：25.08ha/1,616.87ha(改変割合：1.6%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-35(7) 重要な爬虫類の予測結果

7 ジムグリ		
一般生態	主に森林に生息し、地中の穴によく潜り野ネズミを捕食します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所5個体(死体、目撃) 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha/1,187.63ha(改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-35(8) 重要な爬虫類の予測結果

8 ヒバカリ	
一般生態	成体の全長は約 40～60cm。森林から平地まで幅広い環境に生息しますが特に水田や湿地等に多く、カエルやオタマジャクシ、ドジョウ等の小魚、ミミズ等を食べます。5～6月に交尾を行い、初夏に平均6個の卵を産卵します。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :8箇所8個体(死体、目撃) 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、水辺植生
	主な生息環境の改変面積： 25.51ha/1,785.29ha(改変割合：1.4%)
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-35(9) 重要な爬虫類の予測結果

9 ヤマカガシ		
一般生態	背面は褐色の地に黒色の斑紋がありますが、色彩は地域による変異が大きいです。山地から平地まで生息し、平地の水田や小川、湿地などに多く、カエル類を主に食べています。産卵は6~8月で卵は小さく数が多いです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所1個体(目撃) ・対象事業実施区域 :36箇所36個体(死体、目撃、捕獲) 周辺 ・その他 :3箇所3個体(死体、目撃、捕獲)
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次草地 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 等、水田等、開放水域:緑の多い住宅地等、水田等 ・その他 :緑の多い住宅地等、水田等
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：25.51ha/ 1,785.29ha (改変割合：1.4%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-35(10) 重要な爬虫類の予測結果

10 ニホンマムシ						
一般生態	背面は褐色または赤褐色の地に真ん中に暗色の斑のある楕円形の斑紋が並びます。森林から平野の田畑まで広く生息し、森林や藪などの林床、田畑、ときには林道脇などで目にする機会が多く、水辺には特に多くみられます。胎生で、8～10月に5～6匹の子へびを産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :13箇所 13個体 (死体、目撃、捕獲) 周辺 ・その他 :— 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :— 					
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、水辺植生					
	主な生息環境の改変面積： 25.51ha / 1,785.29ha (改変割合：1.4%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線は本種の主な生息環境である樹林地の大部分をトンネル構造で通過するとともに、盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

d) 両生類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な両生類の予測結果を表 10.10-36 に示します。

表 10.10-36(1) 重要な両生類の予測結果

1 トウキョウサンショウウオ		
一般生態	丘陵地帯の森林に生息し、1~4 月頃、山間の水田の側溝や湧き水のたまりなどの止水で繁殖します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 (目撃 (成体)) ・対象事業実施区域 :18 箇所 24 個体 (目撃 (成体、幼生、卵のう)) 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :植林地 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、水田等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、水田等、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積： 13.48ha/1333.66ha (改変割合：1.0%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-36(2) 重要な両生類の予測結果

2 アカハライモリ						
一般生態	水田や池、小川などに生息し、産卵期は 4～7 月上旬です。求愛行動は産卵期のほか秋にも行われます。産卵期間中何度も産卵し、1 回の産卵数 40 以下、合計 1 匹 100～400 程度です。主にミミズ、昆虫、オタマジャクシなどの小動物を食べます。千葉県房総丘陵では、11 月上旬の雨の夜に変態し上陸した幼体が水田の畔や溪流の岸辺に出現することがあります。また同じ時期に道路を横断中の成体が観察されることがあります。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 (目撃 (成体)) ・対象事業実施区域 :7 箇所 12 個体 (目撃 (成体)) 周辺 ・その他 :1 箇所 1 個体 (目撃 (成体)) 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :水田等 ・対象事業実施区域 :畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、開放水域 周辺 ・その他 :水田等 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、開放水域					
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 186.18ha (改変割合：0.3%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-36(3) 重要な両生類の予測結果

3 アズマヒキガエル	
一般生態	<p>全長 40～165mm。体型はずんぐり型で、短く太い四肢と大きな頭を持ちます。生息場所は広く、海岸から高山まで広範囲に及び、都市部の公園や人家の庭などにも棲み着いています。繁殖期は 2～7 月頃と地域や標高によりばらつきがあります。1500～8000 個の卵が入ったひも状の卵のうを産みます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 43 箇所 1782 個体 (目撃 (成体、幼体、幼生、卵のう、死体)) ・その他 : 3 箇所 3 個体 (目撃 (幼生))
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、開放水域 ・その他 : 植林地、畑地等
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積： 25.08ha/ 1,594.48ha (改変割合：1.6%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-36(4) 重要な両生類の予測結果

4 タゴガエル		
一般生態	山地にふつうに見られ、他のアカガエル類とは変わった繁殖習性をもちます。溪流の岸に岩のすき間や、地下の伏流水中に比較的大型の灰白色の卵のうを産みます。繁殖時期は3月から6月と地域によって異なります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :植林地 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,165.24ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-36(5) 重要な両生類の予測結果

5 ニホンアカガエル						
一般生態	平地で普通に見られる黒褐色から赤茶色の中型のカエルです。平地や丘陵地の水田や湿地などに生息するが、山間部では少数です。本州のカエルでは産卵が一番早く、1～5月に行われます。500～3000個の黒褐色の卵が入ったややつぶれた球状の卵のうを産みます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 1箇所 1個体 (目撃 (卵のう)) ・対象事業実施区域 : 99箇所 2151個体 (目撃 (成体、幼体、幼生、卵のう)、周辺 鳴き声) ・その他 : - 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 水田等 ・対象事業実施区域 : 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等、水辺植生、開放水域 ・その他 : - 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、水田等					
	主な生息環境の改変面積： 13.48ha / 1,332.42ha (改変割合：1.0%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-36(6) 重要な両生類の予測結果

6 ヤマアカガエル		
一般生態	2～4月に池や水田、道端の水たまりなどにも産卵します。上陸した個体は、ニホンアカガエルよりも森林内に生息する傾向が強いです。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所 4個体 (目撃 (成体)) ・対象事業実施区域 :37箇所 451個体 (目撃 (成体、幼生、卵のう)) 周辺 ・その他 :6箇所 38個体 (目撃 (卵のう)) 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 等、水田等 ・その他 :植林地、水田等 	
影響予測	本種の主な生息環境：二次林、植林地、水田等、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：13.52ha/ 1,351.42ha (改変割合：1.0%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-36(7) 重要な両生類の予測結果

7 ツチガエル						
一般生態	都市部の人工池から水田、河川、山間の溪流、湿原まで様々な水辺に生息します。繁殖時期は5月末から8月末までで1匹の雌は2~3回産卵するものもいます。繁殖末期にふ化した幼生は越冬し翌年変態します。従って、本種の生息には常時水のある水辺が欠かせません。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 14箇所 115個体 (目撃 (成体)) 周辺 ・その他 : 3箇所 3個体 (目撃 (成体)、鳴き声) 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : ー ・対象事業実施区域 : 自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 : 緑の多い住宅地等、水田等 					
影響予測	本種の主な生息環境：二次林、植林地、水田等、水辺植生、開放水域					
	主な生息環境の改変面積：13.52ha/ 1,352.67ha (改変割合：1.0%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-36(8) 重要な両生類の予測結果

8 シュレーゲルアオガエル						
一般生態	暗褐色から鮮やかな緑色をした小型のカエルで、水田、丘陵部から高山部まで生息しています。繁殖期は普通 4～6 月です。水田の畔や池や沼の周辺の土中に白い泡状の卵のうを産みつけます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :67 箇所 102 個体 (目撃 (成体、卵のう)、鳴き声) 周辺 ・その他 :9 箇所 13 個体 (目撃 (成体)、鳴き声) 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 ・その他 :緑の多い住宅地等、水田等 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、水田等					
	主な生息環境の改変面積： 13.48ha/ 1,332.42ha (改変割合：1.0%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-36(9) 重要な両生類の予測結果

9 モリアオガエル	
一般生態	<p>日本固有種です。体色は緑色で、地域や個体によって背面や四肢に黒褐色の不規則な斑紋があります。眼の虹彩は赤味がかります。平野から山間部の森林に生息し、樹上で小昆虫を捕食します。5～7 月にかけて池や沼、水田で木の枝先などに直径 15cm ほどの白い泡状の卵のうを産みます。幼生は 7～9 月に変態上陸します。山地に生息し、泡状の卵のうを産む珍しいカエルとして、全国の 20 箇所以上で繁殖池が天然記念物に指定されています。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :6 箇所 37 個体 (目撃 (成体)、鳴き声) 周辺 ・その他 :1 箇所 1 個体 (鳴き声)
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、開放水域 周辺 ・その他 :二次林
影響予測	<p>本種の主な生息環境： 二次林、植林地、水田等</p> <p>主な生息環境の改変面積： 13.48ha/ 1,332.42ha (改変割合：1.0%)</p>
	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-36(10) 重要な両生類の予測結果

10 カジカガエル		
一般生態	<p>日本固有種です。体は扁平ですべての指先に吸盤があります。体色は茶褐色から灰褐色で、雌は雄よりも著しく大型になります。山地の開けた溪流沿いの森林に生息し、樹上や崖でくらし、4～7月の繁殖期には雄が溪流の瀬に集まって鳴きます。卵のうは瀬の転石の下に産みつけられ、孵化した幼生は石に付着した藻類を食べます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所5個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水辺植生 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：13.09ha/1,184.25ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

e) 昆虫類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な昆虫類の予測結果を表 10.10-37 に示します。

表 10.10-37(1) 重要な昆虫類の予測結果

1 クロイトトンボ		
一般生態	平地の池沼に最も普通なイトトンボで5月頃より9月にわたって見られ、夏以後のものは体が小さいです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/187.42ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(2) 重要な昆虫類の予測結果

2 ムスジイトトンボ	
一般生態	<p>幼虫は沈水植物の繁茂した開放的な池沼に生息します。成虫は、5月上旬～10月下旬に記録されていますが宮崎・松木（1922）は、印旛沼周辺では採集記録が9月を中心とした2カ月に集中していることを指摘し、南方系の本種は比較的内陸の印旛沼周辺では越冬できる個体が少ないため、春の第1化は少なくなり、次の第2化目で増えるのではないかと推定しています。また、互井（2004a）は、市川市の本種の産地を例に水域の発生後すぐに生息が確認されることから、本種の移動性が高いことと、その移動は河川を「回廊」として使用しているのではないかと推定しています。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 187.42ha（改変割合：0.3%）</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(3) 重要な昆虫類の予測結果

3 コシボソヤンマ		
一般生態	幼虫は平地、丘陵地の木陰の多い緩やかな清流に生息します。川幅は生育環境により、50cm～10m とかなり幅がみられます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :6箇所6個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次草地、水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 20.25ha（改変割合：0.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(4) 重要な昆虫類の予測結果

4 カトリヤンマ				
一般生態	<p>幼虫は平地、丘陵地の木陰の多い池や周辺林のある水田、緩やかな流れに生息します。近年関東地方では産地が激減している県が増加しています。羽化した成虫は羽化場所脇のやや薄暗い林内の比較的低い位置に多数静止しています。産卵は9月下旬から10月下旬にかけて行われます。</p>			
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー 			
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー 			
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域</p>			
	<p>主な生息環境の改変面積：0.47ha/187.42ha（改変割合：0.3%）</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用
工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>			
存在・供用	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>			

表 10.10-37(5) 重要な昆虫類の予測結果

5 ヤブヤンマ	
一般生態	成虫は、6月中旬～9月下旬に記録されています。藍野（1937）は、本県における成虫の出現最盛期を7、8月としています。また、外房では、幼虫の発生は年1回で第1齢幼虫の出現期は、8月上旬から9月下旬と述べています。幼虫は、丘陵地、低山地の樹陰の多い小規模な水溜や小さな池沼、植物性沈殿物の多い寺社の人工池やコンクリート製の貯水槽に生息します。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所5個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、水辺植生、開放水域 主な生息環境の改変面積：0.47ha/187.42ha（改変割合：0.3%）
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-37(6) 重要な昆虫類の予測結果

6 ヤマサナエ		
一般生態	日本固有種の大型サナエトンボです。腹長約 44~48mm、後翅長約 37~42mm。幼虫は、平地、丘陵地を流れる河川上流~中流の川岸に近い砂泥底に生息します。成虫は、主に4月下旬~6月下旬に出現します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次草地、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 20.25ha（改変割合：0.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(7) 重要な昆虫類の予測結果

7 ハラビロトンボ						
一般生態	平地、丘陵地の湿地、水田、緩流などに生育します。摂食期の成虫は、林間の道の脇や林縁の高さ 1m 前後の枝先に静止します。春の出現初期には丘陵地の日当たりの良い道端や崖、枯れ草あるいは木の幹の上などに止まり、出現末期になると葉の上などにも止まるようになります。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :9 箇所 9 個体 周辺 ・その他 :— 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :— 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等					
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/ 167.17ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37(8) 重要な昆虫類の予測結果

8 チョウトンボ		
一般生態	美しい黒藍色の翅をもつチョウのようなトンボで、成虫の全長は約 34～42mm (雄)、31～38mm (雌) です。平野～丘陵地の、浮葉植物や抽水植物の繁茂した池沼、河川敷の淀み等に生息します。幼虫で越冬します。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所3個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 20.25ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37(9) 重要な昆虫類の予測結果

9 ヒナカマキリ						
一般生態	<p>年一化で、成虫は夏から秋に出現します。主に常緑広葉樹林の中の落ち葉や、灌木の葉の上に棲みますが、松林やアズマネザサなどの竹林などにも見られます。林の縁から遠く離れることはありません。</p>					
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所5個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地</p>					
	<p>主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）</p>					
	<table border="1"> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> </td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <p>道路の存在</p> </td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	<p>道路の存在</p>
工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	<p>道路の存在</p>	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37(10) 重要な昆虫類の予測結果

10 クチキコオロギ	
一般生態	卵は 5、6 月にふ化し、幼虫で越冬します。翌年の夏から秋に成虫になります。ねぐらはもう一度冬を越して、翌春に産卵します。朽ち木の穴や木の皮の下などに棲み、夜間「グリー、グリー」と間隔をおいて鳴きます。林の中で鳴くモリオカメコオロギは、11 月頃の気温が低いときは本種と似ていることがあるので、初心者が鳴き声のみで調査をする場合は注意を要します。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :14 箇所 17 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地 主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用 道路の存在 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-37(11) 重要な昆虫類の予測結果

11 マツムシ		
一般生態		海岸では主にチガヤなどの乾いた草原に生息しますが、内陸の生息地ではアカマツのまばらに生えたススキの優先する群落や、グラウンドそばに見られます。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :3箇所 17 個体 ・対象事業実施区域 :54 箇所 139 個体 周辺 ・その他 :2 箇所 11 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林、畑地等 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :水田等
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）	
	主な生息環境の改変面積： 12.09ha / 489.78ha （改変割合：2.5%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37(12) 重要な昆虫類の予測結果

12 ナツノツヅレサセコオロギ		
一般生態	幼虫で越冬し初夏に成虫が出現します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等、水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：12.03ha / 429.24ha（改変割合：2.8%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(13) 重要な昆虫類の予測結果

13 カヤヒバリ				
一般生態	<p>昼夜で鳴き方やテンポががらりと変わり、昼間はジリジリジリ……と早く鳴き、夜はリー、リー、リー、リー、……と遅く鳴きます。鳴きはじめがリリー、リリー、……とつかえることが多くあります。ススキやチガヤの草原やサトウキビ畑に多くみられます。本州では幼虫で越冬します。</p>			
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー 			
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー 			
影響予測	<p>本種の主な生息環境：二次草地</p>			
	<p>主な生息環境の改変面積：2.58ha / 50.10ha (改変割合：5.1%)</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用
工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>			
存在・供用	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>			

表 10.10-37(14) 重要な昆虫類の予測結果

14 セグロイナゴ		
一般生態	広い面積の草原に生息する人が多いようで、山口県秋吉台のような環境に群生します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所 11 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、その他（グラウンド等）	
	主な生息環境の改変面積： 2.65ha / 110.64ha（改変割合：2.4%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(15) 重要な昆虫類の予測結果

15 トゲナナフシ						
一般生態	雑木林の縁などに棲み、初春から秋遅くまで見られます。主に地上に生息しますが幼虫は草に登ることが多くみられます。沿岸部から低山地の林の縁や林内を好みますが、秋には林道に出てくることが多いです。アザミ類やバラ類などを食べます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :— 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :— 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37(16) 重要な昆虫類の予測結果

16 アズキヘリカメムシ		
一般生態	アズキやダイズの害虫として知られています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、畑地等	
	主な生息環境の改変面積： 7.81ha / 160.91ha (改変割合：4.9%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(17) 重要な昆虫類の予測結果

17 ヒメジウジンガカメムシ		
一般生態	<p>体長 8~9mm で、体は橙赤色で頭部、前胸背、革質部の 1 対の紋、小楯板、膜質部などは黒色です。あまり多く見られないですが、時として群生します。ガガイモやフウセントウワタなどで見られることがあります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2 箇所 2 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、畑地等	
	主な生息環境の改変面積： 7.81ha / 160.91ha (改変割合：4.9%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(18) 重要な昆虫類の予測結果

18 ハナダカカメムシ		
一般生態	<p>体長 5.0～5.5mm。体は黄褐色で、黒い点刻で密に覆われ、光沢がありません。草むらで生活し、ヤブジラミなどのセリ科植物の種子を好み、群生して種子から吸汁します。越冬した成虫は5月から見られ、6～7月に産卵し、8月に新成虫が見られます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：二次草地、畑地等	
	主な生息環境の改変面積：7.81ha / 160.91ha（改変割合：4.9%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(19) 重要な昆虫類の予測結果

19 イネカメムシ		
一般生態	体長 12~13mm、黄白色に暗褐色の点刻を散りばめます。イネ科植物で生活し、古くからイネの害虫として知られています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境： 水田等	
	主な生息環境の改変面積： 0.43ha / 167.17ha (改変割合：0.3%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37(20) 重要な昆虫類の予測結果

20 ルリクチブトカメムシ		
一般生態	畑の脇の雑草のある地表面で生活し、ハムシなどを捕食するといわれています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地、畑地等	
	主な生息環境の改変面積： 7.81ha / 160.91ha （改変割合：4.9%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37(21) 重要な昆虫類の予測結果

21 オオキンカメムシ		
一般生態		アブラギリの実を吸汁し、成虫は海岸付近のツバキ、トベラ、ミカン、マサキなどで集団越冬します。暖地性のカメムシです。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :8箇所 15 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
本種の主な生息環境： 二次林、植林地		
主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)		
影響予測	工事の実施	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (22) 重要な昆虫類の予測結果

22 オオアメンボ		
一般生態		主に河川の上流域の綺麗な場所に生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :8箇所 18 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (23) 重要な昆虫類の予測結果

23 ヤスマツアメンボ		
一般生態		山地性で低温の清流に生息していますが数は少ないです。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :15箇所 24 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (24) 重要な昆虫類の予測結果

24 コオイムシ	
一般生態	<p>体長約 17～20mm。体は黄褐色で上から押しつぶされたように平たく、輪郭は円形です。小川、谷津田、池沼、水田などの一般に流れの緩やかな浅い場所に生息しますが、泳ぎが下手なため、水草や物陰に潜んで小動物を待ち伏せます。4月初め～6月にかけて、雌は雄の背中に卵を産みつけます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2箇所 11 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水田等、開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 186.18ha (改変割合：0.3%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (25) 重要な昆虫類の予測結果

25 ツノトンボ		
一般生態		ススキの草原に生息します。草の根際や石などの下に潜み、小昆虫類を捕食します。完全変態します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、二次草地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次草地	
	主な生息環境の改変面積： 2.58ha / 50.10ha (改変割合：5.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (26) 重要な昆虫類の予測結果

26 ヤマトシリアゲ		
一般生態	<p>普遍的な種です。春と秋に出現しますが、秋のものは全体に褐色を帯びています。県内に広く生息していますが数は少ないです。草地と広葉樹林の発達したところにはどこにでも生息しています。房総丘陵にはやや普通ですが、下総台地と低地には少ないです。自然度の指標となります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :31箇所 39 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地 周辺 等、水田等 ・その他 :ー
影響予測	<p>本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、緑の多い住宅地等</p> <p>主な生息環境の改変面積：19.84ha / 1,506.07ha (改変割合：1.3%)</p>	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (27) 重要な昆虫類の予測結果

27 ルーミスジミ		
一般生態	<p>一般的には原生照葉樹林の深い溪谷沿いに生息しますが、本県では環境条件さえ整えば人里近くの谷津田周辺などに生息地が残存している場合もあり、慎重な調査が求められます。寄主植物はブナ科のイチイガシやアラカシ、アカガシ、ウラジロガシなどのカシ類です。年1回の発生と推定され、房総丘陵の生息地では新成虫は7月頃から発生し、8月下旬から9月にかけて個体数が多くなり、越冬した成虫が春に活動・産卵します。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林	
	主な生息環境の改変面積：9.41ha / 707.67ha (改変割合：1.3%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (28) 重要な昆虫類の予測結果

28 オオミドリシジミ		
一般生態	虫の前翅長は約 16~22mm で、雄の翅表は青緑色に美しく輝きます。低地~山地のコナラ、クヌギの生育する里山環境に生息します。食草はコナラ、クヌギ等です。成虫は年1回6月に発生します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (29) 重要な昆虫類の予測結果

29 ゴマダラチョウ本土亜種		
一般生態	<p>色彩斑紋は雌雄大差ないですが、雌は翅形幅広く丸味を帯び、黒色部の発達は雄に較べて弱いです。樹上、樹間を巡回して飛翔し、好んでクヌギ、タブノキなどの樹液に集まります。通常年 2~3 回発生します。幼虫の食草はエノキ、エゾエノキなどのニレ科です。越冬態は幼虫(5 令)で、越冬幼虫はエノキ根際の落葉の裏面に多くみられます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :6 箇所 6 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：17.26ha / 1,455.96ha (改変割合：1.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (30) 重要な昆虫類の予測結果

30 アサマイチモンジ						
一般生態	低地～低山地の雑木林の林縁周辺、平野部の中小河川周辺など、開けた明るい環境を好みます。寄主植物はスイカズラで、暖地では年 3～4 回と多可性で 5 月中・下旬から 10 月にかけて発生します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1 箇所 1 個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次草地 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工事の実施</td> <td style="width: 20%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (31) 重要な昆虫類の予測結果

31 ジャノメチョウ		
一般生態	<p>低地～山地の明るい草原や河原などに生息しており、成虫は明るい低山地の山麓や丘陵・堤防などの草地を好みます。草上を低く飛び、マツムシソウ・ハンカイソウ・アザミ類・ヒメトラノオなどの花で吸蜜します。年 1 回、7 月上旬～8 月中旬に出現します。幼虫はイネ科のススキ、スズメノカタビラやカヤツリグサ科のヒカゲスゲ、ショウジョウズゲなどを食草とします。越冬態は初齢または 2 齢幼虫です。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :1 箇所 1 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：12.03ha / 430.49ha（改変割合：2.8%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (32) 重要な昆虫類の予測結果

32 オナガアゲハ						
一般生態	低地の雑木林周辺や産地の溪流沿いに生息し、花で吸蜜したり、湿地で吸水を行います。寄主植物はミカン科のコクサギなどで、年2回、春型が5月から6月上旬、夏型が7月から8月頃に発生します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 20%;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (33) 重要な昆虫類の予測結果

33 カクモンハラブトハナアブ		
一般生態	生息環境は台地から丘陵地、低山地の樹林周辺で、特に谷部の湿った環境（谷戸、湿地など）で確認されます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (34) 重要な昆虫類の予測結果

34 シリブトミドリバエ		
一般生態	里山のような良好な二次的自然から、しばしば見出されます。訪花性があります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所1個体 ・対象事業実施区域 :ー 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :畑地等 ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (35) 重要な昆虫類の予測結果

35 コホソクビゴミムシ		
一般生態		礫質の河原に多い普通種であり、国内に広く生息しています。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所4個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：0.00ha/ 1.25ha（改変割合：0.0%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (36) 重要な昆虫類の予測結果

36 マイマイカブリ関東・中部地方亜種		
一般生態		26～65mm。本属最大で、体は非常に細長く、餌の巻き貝の中に頭部、胸部を差し入れて食べます。森林とその周辺に生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所5個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 :ー
本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地		
主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)		
影響予測	工事の実施	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (37) 重要な昆虫類の予測結果

37 ルイスオサムシ房総半島南部亜種		
一般生態	<p>体長 20～23 mm。ルイスオサムシの 2 つある亜種の 1 つで、房総丘陵特産亜種です。富山が基準産地です。別亜種 (<i>C. l. lewisianus</i>) が伊豆半島山地と山梨県の山地に生息しています。森林地帯に多く、安定した個体群を保持していますが、生息圏が狭いです。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :5 箇所 9 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (38) 重要な昆虫類の予測結果

38 イグチケブカゴミムシ		
一般生態		河原など水辺に見られます。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：0.00ha/ 1.25ha（改変割合：0.0%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (39) 重要な昆虫類の予測結果

39 コハンミョウ		
一般生態	砂地質を好み、生息場はよく踏み固められた空き地、農道などの人との関わりが深い場所に生息します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所5個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）	
	主な生息環境の改変面積：9.52ha/439.67ha（改変割合：2.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (40) 重要な昆虫類の予測結果

40 シマゲンゴロウ		
一般生態	幼虫、成虫ともに水中で生活し、捕食性です。中型の種です。水生植物の生える池沼、流れの緩やかな小川などに広く分布しています。灯火に飛来します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所 1 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (41) 重要な昆虫類の予測結果

41 ミズスマシ						
一般生態	幼虫は水中で生活して小動物を捕食します。成虫は水面で遊泳生活をし、水面に落ちた小昆虫を捕食します。平地から丘陵地までの池や小川、河川に広く生息しています。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所 51 個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (42) 重要な昆虫類の予測結果

42 クチキクシヒゲムシ		
一般生態	幼虫はセミの幼虫に寄生しますが、詳細については不明点が多いです。太い樹木の下の方に静止していることが多く、清澄山では道路に落ちていることもあります。飛翔もします。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工所用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工所用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (43) 重要な昆虫類の予測結果

43 ヒラタクワガタ本土亜種		
一般生態	幼虫は広葉樹の朽ち木の下の方や倒木の土に接した部分に生息します。朽ち木内でサナギとなります。成虫は夜行性で広葉樹の樹液に集まります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所 3 個体 周辺 ・その他 :1箇所 1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、二次草地、畑地等 周辺 ・その他 :緑の多い住宅地等
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工所用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工所用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (44) 重要な昆虫類の予測結果

44 フタモンウバタマコメツキ		
一般生態	幼虫は朽ち木を食べます。成熟した幼虫は朽ち木中でサナギとなり、その場で羽化し越冬します。暖地性種です。灯火に飛来します。個体数は少ないです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工所用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工所用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-37 (45) 重要な昆虫類の予測結果

45 ゲンジボタル						
一般生態	幼虫は清流中でカワニナそのほかの巻貝類を捕食して育ちます。蛹化は水辺の土の中です。清流と森林が接続している場所に多くみられます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :3箇所 49 個体 周辺 ・その他 :1箇所 21 個体 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、二次草地 周辺 ・その他 :開放水域 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (46) 重要な昆虫類の予測結果

46 ヘイケボタル						
一般生態	成虫の体長は約 7~10mm で、草地に生息します。幼虫は水田や小川、湿地等の、水のある所に生息し、サカマキガイ、ヒメモノアラガイ、カワニナ、水中動物の死骸等を食べます。蛹化には、水辺の土が必要です。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所 45 個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等、緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 水田等、水辺植生、開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 0.47ha/ 187.42ha (改変割合：0.3%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、夜間工事照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>本種の繁殖行動には光が重要な影響要因となりますが、道路照明については、環境保全措置の実施により周辺の生息環境への照明による影響をできる限り低減することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (47) 重要な昆虫類の予測結果

47 クロマドボタル		
一般生態	幼虫は森林の土の上で生活し、ウスカワマイマイなどのマイマイ類を捕食します。成虫は林縁を飛翔します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (48) 重要な昆虫類の予測結果

48 チャイロヒメハナカミキリ		
一般生態	樹林とその林縁、伐採地や周辺の貯木場などに生息します。4月下旬から8月にわたり低山地から高地帯に出現します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :ー 周辺 ・その他 :2箇所2個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :ー 周辺 ・その他 :二次林
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (49) 重要な昆虫類の予測結果

49 トゲアリ						
一般生態	樹幹の腐朽部に営巣します。巣の創設時にクロオオアリやムネアカオオアリなどに一時的に社会寄生します。羽アリは9～11月に飛び出します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :7箇所 19 個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地					
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-37 (50) 重要な昆虫類の予測結果

50 ヤマトアシナガバチ		
一般生態	社会性狩りバチで、ハス実状の巣をつくるので、古巣の調査から生息状況が推測できます。本種の巣の育房数は100以下です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :2箇所2個体 ・対象事業実施区域 :18箇所19個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等、緑の多い住宅地等、水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：25.08ha / 1,616.87ha（改変割合：1.6%）	
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
存在・供用	道路の存在	計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-37 (51) 重要な昆虫類の予測結果

51 モンスズメバチ		
一般生態		働きバチの体長は 21~28mm です。樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、主にセミを狩ります。他種と違い夜間にも活動する習性があります。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 :6 箇所 7 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：17.26ha / 1,455.96ha（改変割合：1.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (52) 重要な昆虫類の予測結果

52 スギハラクモバチ		
一般生態	成虫は盛夏に出現します。巨木の腐朽部に多房巣を掘り、アシダカグモを搬入します。南方系種で、現在の北限は埼玉県です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-37 (53) 重要な昆虫類の予測結果

53 アオスジクモバチ		
一般生態	河岸から丘陵地帯の河川などの砂地に営巣します。徘徊性であるハラクモコモリグモを狩り、地中に営巣することが明らかになりました。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水辺植生	
	主な生息環境の改変面積：0.00ha / 1.25ha (改変割合：0.0%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

f) クモ類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要なクモ類の予測結果を表 10.10-38 に示します。

表 10.10-38 (1) 重要なクモ類の予測結果

1 キノボリトタテグモ		
一般生態	マツ・スギ・ヒノキなどの樹皮の窪みを利用して、コケや樹皮を貼り付けた住居をつくります。入り口には片開きの扉をつけますが、下向きが多いです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 1箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 : 4箇所 8 個体 周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : 二次林 ・対象事業実施区域 : 二次林、植林地、畑地等 周辺 ・その他 : -
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

g) ヤスデ類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要なヤスデ類の予測結果を表 10.10-39 に示します。

表 10.10-39 (1) 重要なヤスデ類の予測結果

1 ゲジ		
一般生態	下総台地及び房総丘陵の海岸線に近い地域の人家周辺など開けた地域の廃材置き場、石の隙間などに生息します。手入れなどによる人為的攪乱の影響を受けやすい状況にあります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :11箇所 15個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他 周辺 (グラウンド等) ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積：17.26ha / 1,455.96ha (改変割合：1.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-39 (2) 重要なヤスデ類の予測結果

2 オオゲジ		
一般生態	暖かい時期は朽木の下、冬季には洞窟や防空壕などの気温・湿度の安定した場所です。時として集団で越冬していることもあります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 :20 箇所 129 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :緑の多い住宅地等 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、畑地等、緑の多い住宅地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (3) 重要なヤスデ類の予測結果

3 ニホンメナシムカデ		
一般生態		低山地の薄暗い森のがれ場や涸れ沢の近くなどで生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (4) 重要なヤスデ類の予測結果

4 スジメナシムカデ		
一般生態	低山地の薄暗い森のがれ場や涸れ沢の近くなどで生息します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :2箇所 2 個体 ・対象事業実施区域 :4箇所 11 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林、植林地 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (5) 重要なヤスデ類の予測結果

5 ケアカムカデ		
一般生態		鬱蒼とした森や潤れ沢の近くなど湿度の高い環境で生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (6) 重要なヤスデ類の予測結果

6 カチベニジムカデ		
一般生態	沿岸の森で生息します。発見されることが少ない貴重種と考えられます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,165.24ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (7) 重要なヤスデ類の予測結果

7 ヤマトタマヤスデ		
一般生態	<p>タマヤスデ類は倒木の下や朽木の樹皮下などに潜んでいることが多いです。移動性が低いいためか、林床に一様に分布することはなく、ごく狭い範囲に群れて生息することがあります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1 箇所 6 個体 ・対象事業実施区域 :6 箇所 13 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :二次林 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-39 (8) 重要なヤスデ類の予測結果

8 クロヒメヤスデ		
一般生態	朽木に集まり、キノコなど菌類を主食としますが、生活史は不明です。湿度の高い森林に生息しています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所3個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積： 13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (9) 重要なヤスデ類の予測結果

9 アカヒラタヤスデ		
一般生態	森林土壌、朽木に棲み、時としてキノコを食して群がります。清澄を中心とする丘陵地帯に生息します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (10) 重要なヤスデ類の予測結果

10 タマモヒラタヤスデ		
一般生態		山地帯から亜高山帯の森林土壌や朽木に生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所2個体 ・対象事業実施区域 :ー 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :植林地 ・対象事業実施区域 :ー 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-39 (11) 重要なヤスデ類の予測結果

11 ヒメヨロイヤスデ		
一般生態	生息地は森林土壌に限らず、むしろ人家や神社境内などの倒木や石の下など攪乱された場所に生息します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :8箇所 12 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、緑の多い住宅地等	
	主な生息環境の改変面積： 17.26ha / 1,433.57ha (改変割合：1.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-39 (12) 重要なヤスデ類の予測結果

12 タカクワヤスデ		
一般生態	<p>攪拌されない森林土壌に広く分布している可能性があります、個体数が少ないので開発によって急激に減少するおそれがあります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :12箇所 15個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

h) 陸産貝類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な陸産貝類の予測結果を表 10.10-40 に示します。

表 10.10-40 (1) 重要な陸産貝類の予測結果

1 ゴマオカタニシ		
一般生態		森林の林床のリター下や礫下に生息します。陸産です。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-40 (2) 重要な陸産貝類の予測結果

2 レンズガイ		
一般生態	森林のリター下に生息します。陸産です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-40 (3) 重要な陸産貝類の予測結果

3 キセルガイモドキ		
一般生態	落葉広葉樹林の林床生息が確認されていますが、生息密度はかなり小さいです。樹幹の低いところを這っていたり、落ち葉の下に潜んでいます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所4個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-40 (4) 重要な陸産貝類の予測結果

4 チュウゼンジギセル		
一般生態		林床のリター下や礫間に生息します。陸産です。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-40 (5) 重要な陸産貝類の予測結果

5 キヨスミビロウドマイマイ		
一般生態	林床の倒木下等に生息します。陸産です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-40 (6) 重要な陸産貝類の予測結果

6 キヌビロウドマイマイ		
一般生態	林床の倒木下等に生息します。陸産です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :5箇所5個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：自然林、二次林、植林地	
	主な生息環境の改変面積：13.05ha / 1,187.63ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には本種の主な生息環境が存在し、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、本種の主な生息環境である樹林地の多くはトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

i) 魚類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な魚類の予測結果を表 10.10-41 に示します。

表 10.10-41 (1) 重要な魚類の予測結果

1 ニホンウナギ		
一般生態	<p>全長は約 100cm にまで達します。河川生活期は 5～10 数年で、主として河川の中・下流域や河口域、湖に生息しますが、時には川の上流域、内湾にも生息します。日中は石垣・土手の穴、底の泥の中等に潜んでいて、夜間に水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類等の摂食活動を行います。冬は泥に潜っています。産卵期は 4～12 月で、シラスウナギの遡上期は 10～6 月、盛期は 1～3 月です。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :20 箇所 44 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水辺植生、開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	本種の主な生息環境：開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-41 (2) 重要な魚類の予測結果

2 ギンブナ		
一般生態	<p>全長 25cm。川の下流の淀みや支流の合流点に近い水域、平地の低湿地帯や沼地に生息します。雑食性で底生動物及び藻類などのほかに、場所によってはプランクトン動物なども食べます。産卵期は 4～6 月で、大雨のあと水草が繁茂している浅いところに集まり、水面に浮いた水草の葉や茎などに卵を産みつけます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2 箇所 2 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-41 (3) 重要な魚類の予測結果

3 ドジョウ						
一般生態	全長は雄 11cm、雌 12cm。水田や湿地、周辺の細流に棲み、雑食性です。代かきと同時に周囲の用水路から水田に遡上します。遡上後、水田で何日かを過ごしたあと成熟し、夜間に産卵します。産卵期は 6～7 月です。卵は泥上にばらまかれます。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2 箇所 4 個体 周辺 ・その他 :— 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :— 					
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、開放水域					
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 186.18ha（改変割合：0.3%）					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">存在・供用</td> <td style="text-align: center;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-41 (4) 重要な魚類の予測結果

4 ヒガシシマドジョウ		
一般生態		河川中・下流域に生息し、緩やかな流れがある砂礫から砂泥底の場所を好みます。繁殖期は4～6月頃で、河川敷の浅い湿地、農業用水路、水田などに移動して産卵すると考えられます。野外での寿命や生活史の詳細については不明な点が多いです。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :17箇所 86個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水田等、開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 186.18ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
存在・供用	道路の存在	計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。 さらに、計画路線の盛土部はカルバート等の設置、河川等の水辺は橋梁構造による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-41 (5) 重要な魚類の予測結果

5 ギバチ		
一般生態	河川上流域下部から中流域の、水のきれいな場所に棲みます。昼間は岩の下などに潜み、夜間主に水生昆虫などを食べます。産卵期は 6~8 月で、石の下面などに卵を産みつけます。環境の変化に弱く、各地で絶滅あるいは減少しています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :11 箇所 32 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-41 (6) 重要な魚類の予測結果

6 ヌマチチブ		
一般生態	川の汽水域から中流域まで、汽水湖、ため池などに生息します。礫底や岩や倒木などの墓所を好みます。流れのゆるい場所や止水を好みます。雑食性で、産卵期は夏です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :9箇所 35 個体 周辺 ・その他 :1 箇所 6 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :開放水域
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工所用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

j) 底生動物

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な底生動物の予測結果を表 10.10-42 に示します。

表 10.10-42 (1) 重要な底生動物の予測結果

1 イシマキガイ		
一般生態		房総半島南部、河川の中・上流部に生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :7箇所 55 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-42 (2) 重要な底生動物の予測結果

2 コシダカヒメモノアラガイ		
一般生態	殻がやや厚く、殻口は殻高の2分の1程度です。コンクリート壁に付着していることが多く、水から出て過ごすこともできます。環境の良い低地の森林に生息しています。モノアラガイに比べると小型でやや細長いです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：水田等	
	主な生息環境の改変面積：0.43ha/167.17ha（改変割合：0.3%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (3) 重要な底生動物の予測結果

3 ヒラマキミズマイマイ		
一般生態	水田等の止水域の水草等の基物に付着します。淡水産です。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水辺植生 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 水田等	
	主な生息環境の改変面積： 0.43ha/ 167.17ha (改変割合：0.3%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に橋脚は設置しないとともに、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (4) 重要な底生動物の予測結果

4 ヤマトヌマエビ		
一般生態	両側回遊性で、成体は淡水域に生息していますが、幼生は海で育ちます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :7箇所 22 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (5) 重要な底生動物の予測結果

5 ミズレヌマエビ		
一般生態	両側回遊性で、成体は淡水域に生息しますが幼生は海で育ちます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :30箇所 167 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用	道路の存在 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-42 (6) 重要な底生動物の予測結果

6 ヒメヌマエビ		
一般生態		成体は河川河口近くに生息しますが、幼生は海で育ちます。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (7) 重要な底生動物の予測結果

7 トゲナシヌマエビ		
一般生態	両側回遊性で、成体は河川河口近くに生息しますが、幼生は海で育ちます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :9箇所9個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (8) 重要な底生動物の予測結果

8 ヌマエビ		
一般生態	<p>低地の湖沼や河川の河口から上流まで生息し、幼生は河川を下り汽水域で生活し、稚エビが川を上がる両側回遊性です。淡水産エビの多くはスミチオンなどの有機リン系殺虫剤の感受性が魚に比べると、数千倍も高く、農薬に非常に弱いです。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :9箇所 35 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (9) 重要な底生動物の予測結果

9 ミナミテナガエビ		
一般生態		成体は河川に生息しますが、幼生は海で育ちます。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所 14 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (10) 重要な底生動物の予測結果

10 ヒラテテナガエビ		
一般生態		成体は河川に生息しますが、幼生は海で育ちます。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :26箇所 54 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水田等、水辺植生、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (11) 重要な底生動物の予測結果

11 テナガエビ		
一般生態	<p>体長は約 90mm。5 対の胸脚のうち、前の 2 対がはさみ脚となっており、2 対目が非常に長いので、手長エビと呼ばれます。比較的低位の河川・湖・池沼などに生息し、特に河口域や汽水湖に多いです。河川では流れの緩やかな砂泥底に棲み、昼間は石の下や物陰に潜み、夜間に活動します。雑食性です。産卵期は 5 月下旬～9 月中旬に及び、受精卵は孵化時まで雌が腹部に抱えます。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :16 箇所 55 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り直し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (12) 重要な底生動物の予測結果

12 スジエビ		
一般生態	沼、池、湖や、ときに汽水域にも生息し、河口域から上流域にまで分布します。産卵期は3～8月で、1回の産卵数は約50～250粒です。受精卵は親エビの腹肢の基部にある毛に付着します。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :20箇所 111個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水辺植生、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 19.00ha（改変割合：0.2%）	
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用	道路の存在 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-42 (13) 重要な底生動物の予測結果

13 サワガニ		
一般生態	河川中上流に生息する純淡水産のカニです。幼生が直達発生（稚ガニが直接卵から生まれる）で親の近くに留まり、移動分散能力が低いため、河川ごと、あるいは地域ごとに遺伝的分化が進んでいます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :1箇所 1 個体 ・対象事業実施区域 :10箇所 32 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :植林地 ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、二次草地、畑地等 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (14) 重要な底生動物の予測結果

14 アカテガニ		
一般生態	成体は海岸付近の山林中に生息し、晩春から夏の産卵期になると海に降りてきて、海中で幼生（ゾエア）を放ちます。ゾエアは海で育ち、メガロパ期に海岸に戻ってきます。上陸した雌ガニは海岸近くに棲むようになります。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :10箇所 21 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha（改変割合：1.1%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (15) 重要な底生動物の予測結果

15 クロベンケイガニ		
一般生態	成体は河口域から上流に1 kmくらいの範囲の汽水域の河岸で、その河川に直接通じている農業用水路の岸や水田に生息します。泥の基質に穴を掘って棲んでいます。幼生（ゾエア）は水中に放たれたのち海で育ち、メガロパ期に海岸河口域に戻ってきます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :6箇所 10 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、水田等、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.52ha/ 1,351.42ha (改変割合：1.0%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (16) 重要な底生動物の予測結果

16 ベンケイガニ		
一般生態	成体は河口域の汽水域の河岸に穴を掘って生息します。幼体（ゾエア）は水中に放たれたのち海で育ち、メガロパ期に海岸河口域に戻ってきます。護岸工事にしていない河口域やそこに続く湿地などに生息しますが、少ないです。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha （改変割合：0.2%）	
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。
	存在・供用	道路の存在 計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。

表 10.10-42 (17) 重要な底生動物の予測結果

17 モクズガニ		
一般生態	<p>成体は甲幅約 60mm。河川の上流域から河口域まで生息しており、海に棲みつくものもいます。動物食を中心とした雑食性で、カワニナ等の貝や魚の死骸等を好んで食べます。交尾・産卵のために9~10月頃に川を下り、河口に達した雌雄は河口域で交尾を行います。受精卵を持った雌は河口から沖合に出て産卵し、抱卵中は海で生活して翌春、卵が成熟すると再び河口に戻ります。</p>	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :27箇所 51 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (18) 重要な底生動物の予測結果

18 カワスナガニ		
一般生態		河口の汽水域の小さい転石がある場所に生息します。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :1箇所1個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境：開放水域	
	主な生息環境の改変面積：0.04ha/ 19.00ha（改変割合：0.2%）	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部に本種の主な生息環境はありません。 また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (19) 重要な底生動物の予測結果

19 アサヒナカワトンボ		
一般生態	房総半島南部の一部のみに見られます。幼虫は溪流に生息します。環境省レッドデータブック 2007 年版ではトンボ類で唯一「地域個体群」に指定されています。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4 箇所 8 個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、植林地、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

表 10.10-42 (20) 重要な底生動物の予測結果

20 コシボソヤンマ		
一般生態	幼虫は平地、丘陵地の木陰の多い緩やかな清流に生息します。川幅は生息環境によって 50 cm~10m とかなりの幅がみられます。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :6箇所6個体 周辺 ・その他 :ー
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次草地、水田等、開放水域 周辺 ・その他 :ー
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-42 (21) 重要な底生動物の予測結果

21 ヤマサナエ						
一般生態	腹長 44~48mm、後翅長 37~42mm に達する大型のサナエトンボです。幼虫は、平地や丘陵地を流れる河川上流~中流の川岸に近い砂泥底に生息し、成虫は主に4月下旬~6月下旬に出現します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2箇所2個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次草地、開放水域 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-42 (22) 重要な底生動物の予測結果

22 オナガサナエ						
一般生態	黒地に黄色い条斑をもつ中型のサナエトンボです。丘陵地の樹林に囲まれた河川上～中流域に生息します。卵期間 10 日程度、幼虫期間 2～3 年程度です。幼虫で越冬します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :2 箇所 2 個体 周辺 ・その他 :ー 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :水辺植生、開放水域 周辺 ・その他 :ー 					
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-42 (23) 重要な底生動物の予測結果

23 オジロサナエ		
一般生態	幼虫は低山地、丘陵地の溪流の岸近くの砂礫底に生息します。成虫は、6月中旬～9月下旬に記録されています。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :4箇所4個体 周辺 ・その他 :ー 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :ー ・対象事業実施区域 :二次林、二次草地、開放水域 周辺 ・その他 :ー 	
影響予測	本種の主な生息環境： 二次林、植林地、開放水域	
	主な生息環境の改変面積： 13.09ha/ 1,184.25ha (改変割合：1.1%)	
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施する場合は、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水質・水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、橋脚設置予定の河川では低水路に接しない位置に橋脚を設置することから、水量の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	

表 10.10-42 (24) 重要な底生動物の予測結果

24 オオアメンボ						
一般生態	主に河川の上流域の綺麗な場所に生息します。					
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :8箇所 18 個体 周辺 ・その他 :— 					
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :二次林、緑の多い住宅地等、開放水域 周辺 ・その他 :— 					
影響予測	本種の主な生息環境： 開放水域					
	主な生息環境の改変面積： 0.04ha/ 19.00ha (改変割合：0.2%)					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事の実施</td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">存在・供用</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">道路の存在</td> <td style="padding: 5px;"> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p> </td> </tr> </table>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>	存在・供用	道路の存在
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				
存在・供用	道路の存在	<p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>				

表 10.10-42 (25) 重要な底生動物の予測結果

25 コオイムシ	
一般生態	<p>体長約 17~20mm。体は黄褐色で上から押しつぶされたように平たく、輪郭は円形です。小川、谷津田、池沼、水田などの一般に流れの緩やかな浅い場所に生息しますが、泳ぎが下手なため、水草や物陰に潜んで小動物を待ち伏せます。4月初め~6月にかけて、雌は雄の背中に卵を産みつけます。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :2箇所 11 個体 周辺 ・その他 :—
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 :— ・対象事業実施区域 :水田等、開放水域 周辺 ・その他 :—
影響予測	<p>本種の主な生息環境：水田等、開放水域</p> <p>主な生息環境の改変面積：0.47ha/ 186.18ha (改変割合：0.3%)</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、工事の実施に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>計画路線区域の地表部には、本種の主な生息環境が存在します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在・供用により一部の生息環境が消失・縮小しますが、低水路に橋脚は設置せず、また、水辺には同様の環境が広く残されます。水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。</p> <p>また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。</p> <p>以上より、道路の存在・供用に伴う生息環境への変化は小さいため、本種の生息環境は保全されると予測します。</p>

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測結果より、道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路の設置並びに建設機械の稼働に係る動物への環境負荷を低減するための環境保全措置について、保全措置の効果や不確実性、他の環境への影響を含め検討した結果、「工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用」、「移動経路の確保」、「照明の漏れ出しの抑制」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」、「仮設沈砂池、濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用」を採用します。

検討した環境保全措置を表 10.10-43 に示します。

特に、「生息環境は保全されないまたは生息環境は保全されないおそれがある」と予測されたミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウについては、環境保全措置として「工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」及び「夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用」を採用します。

表 10.10-43 (1) 環境保全措置の検討

環境保全措置	保全対象	採用・不採用	採用・不採用の理由
工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用	動物（猛禽類含む）全般	採用	工事施工ヤードや工事用道路等を対象事業実施区域内に設置し、改変区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
移動経路の確保	移動能力の大きい動物（哺乳類・両生類・爬虫類・魚類）	採用	移動経路の断絶のおそれがある地域では、カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等の設置を行い、移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
照明の漏れ出しの抑制	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類	採用	設置する照明は極力外部に向けないよう配慮するとともに、照明上部に遮光板を設ける等の方法で光の漏れ出しを防ぐことにより、夜行性の動物、光に誘引される習性をもつ昆虫類の生息環境及び猛禽類の繁殖行動への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
工事工程の配慮及び段階的な土地の改変	ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウ	採用	ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウの繁殖地の近傍で繁殖期間中に騒音・振動の発生する工事を実施しないことにより、繁殖活動への影響を回避できる。また、改変される環境に適応できるよう、土地の改変を徐々に行う（コンディショニング）ことにより、生息への影響を低減することができる。ミゾゴイ、オオタカ、サシバに対して生息環境への影響の回避または低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。

表 10.10-43 (2) 環境保全措置の検討

環境保全措置	保全対象	採用・不採用	採用・不採用の理由
低騒音型・低振動型機械の採用	動物（猛禽類含む）全般	採用	低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより、騒音・振動による影響を低減することで、計画路線周辺に生息する種への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
仮設沈砂池、濁水処理施設の設置	水生生物（魚類・底生動物等）	採用	仮設沈砂池や濁水処理施設を設置し、濁水の流出を防止・低減することにより、水生生物（魚類・底生動物等）の生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
河川への影響に配慮した施工	水生生物（魚類・底生動物等）	採用	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物（魚類・底生動物等）の生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類	採用	夜間工事の照明は、誘引性の低い照明を採用することにより、夜行性の動物、光に誘引される習性をもつ昆虫類及び猛禽類の繁殖行動への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用」、「移動経路の確保」、「照明の漏れ出しの抑制」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」、「仮設沈砂池、濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用」の効果、実施位置、他の環境への影響等について整理した結果を表 10.10-44 に示します。

なお、環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が専門家等の意見を聴取しながら適切に行います。

表 10.10-44(1) 検討結果の整理

実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用
	位置	対象事業実施区域
保全対象		動物（猛禽類含む）全般
環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される

表 10.10-44(2) 検討結果の整理

実施内容	種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)
	位置	対象事業実施区域
保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響も低減される

表 10.10-44(3) 検討結果の整理

実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制
	位置	道路照明の設置箇所
保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類
環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ昆虫類の生活、猛禽類の繁殖環境の攪乱の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される

表 10.10-44(4) 検討結果の整理

実施内容	種類	工事工程の配慮及び段階的な土地の改変
	位置	対象事業実施区域
保全対象		ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウ
環境保全措置の効果		繁殖期を避けた工事工程の配慮及び段階的に土地を改変することにより、対象種の生息への影響の回避または低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響も低減される

表 10.10-44(5) 検討結果の整理

実施内容	種類	低騒音型・低振動型機械の採用
	位置	対象事業実施区域
保全対象		動物(猛禽類含む)全般
環境保全措置の効果		騒音・振動による事業実施区域周辺を生息域とする種への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		騒音・振動・生態系への影響も低減される

表 10.10-44(6) 検討結果の整理

実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置
	位置	対象事業実施区域
保全対象		水生生物（魚類・底生動物等）
環境保全措置の効果		濁水の流出を防止・低減することにより、水生生物（魚類・底生動物等）の生息環境への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される

表 10.10-44(7) 検討結果の整理

実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所
保全対象		水生生物（魚類・底生動物等）
環境保全措置の効果		河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物（魚類・底生動物等）の生息環境への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される

表 10.10-44(8) 検討結果の整理

実施内容	種類	夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用
	位置	夜間に工事を行う箇所
保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類
環境保全措置の効果		誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響も低減される

4) 事後調査

(1) 事後調査の必要性

予測手法は、事業の実施に伴う改変範囲と重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲を重ね合わせ、科学的知見及び類似事例を参考に予測しており、予測の不確実性は小さいと考えます。

環境保全措置は、既存の知見及び事例、専門家等の意見を参考に適切に実施することから、環境保全措置の効果の不確実性は小さいと考えますが、「生息環境は保全されないまたは生息環境は保全されないおそれがある」と予測されたミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウについては、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、環境影響評価法に基づく事後調査を実施します。

実施する事後調査の概要を表 10.10-45 に示します。

表 10.10-45 事後調査の内容

調査項目	調査内容
ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウの生息状況の確認調査	○調査時期 工事中（着工前含む）の調査対象の繁殖期間を基本とする。 ○調査地域 調査対象の繁殖への影響が及ぶと予測される地域 ○調査方法 直接観察による生息状況の確認

(2) 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応

事後調査の結果により、事前に予測し得ない事業の実施による環境上の著しい影響が生じたことが判明した場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家の意見及び指導を得ながら適切な措置を講じます。

(3) 事後調査結果の公表方法

事後調査結果の公表方法については、原則として事業者が行うものとしますが、公表時期・方法については、関係機関と連携しつつ、適切に実施します。

5) 評価

(1) 回避又は低減に係る評価

計画路線は、既設道路に並走して増設されるものであるため、道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路の設置並びに建設機械の稼働に伴い重要な動物の生息地等の改変が生じますが、計画路線は道路の計画段階において、既設道路を効率的に活用することにより、自然環境の改変量を極力抑えた計画としています。また、計画路線の位置は、集落及び市街地を回避しながら、河川や樹林など重要な動物の生息地等の改変が可能な限り小さくなるよう配慮した計画としており、動物への環境負荷の回避または低減を図っています。

さらに、環境保全措置として、工事の実施においては、「工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」、「仮設沈砂池、濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」及び「夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用」、道路の存在においては、「移動経路の確保」及び「照明の漏れ出しの抑制」を実施することにより、環境影響のできる限り回避または低減を図ります。なお、ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、フクロウについては、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、事後調査を実施してより適切に環境影響の回避または低減を図り、予測し得ない影響が生じる場合は別途対策を講じます。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避または低減されているものと評価します。